

共通事項
1. 設計図書構成及び表示事項に不整合のある場合の優先順位は次による。
(1) 現場説明に対する質問回答書
(2) 現場説明書(見積要項書のある場合はそれを含む)
(3) 特記仕様書
(4) 設計図
(5) 国土交通省大臣官房監修 公共建築工事標準仕様書 平成25年版
したがって、本特記仕様書は設計図(建築一般図、建築構造図)全てに優先する。
2. 項目の適用は、項目番号(各章1. 2. 3...の連番)に○印の付いたものを適用する。
3. 特記事項の適用は次による。
(1) ○印の付いたものを適用する。
(2) ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
(3) ○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
(4) ・印のものは、適用しない。

構造概要

Table with 2 columns: Item (e.g., ① 計算ルート Y方向, ② 積載荷重) and Description (e.g., ○ルート1・ルート2 (2-1・2-2・2-3)・ルート3・時刻歴・その他 ( ) X方向, (N/m2)).

3章 土工事

Table with 2 columns: Item (e.g., ① 地盤調査, 2. 障害物, ③ 排水) and Description (e.g., ○地盤調査資料(設計段階で、すでに行ったもの) ※有(※敷地内・近隣) 調査結果はボーリング柱状図(図示)及び調査報告書(別資料)による。

Table with 2 columns: Item (7. 逆打ち工法) and Description (※支保架構は下記による。 ・切り梁工法 ・アースアンカー工法(※除式 ・埋込み方法) ・アイランド工法 ※施工者の選定工法による

4章 地業工事

Table with 2 columns: Item (① 工法の選定) and Description (○直接基礎 (・ベタ基礎 ・布基礎 ○独立基礎) 支持地盤 ( 固結シルト及び、シルト質砂 ) 基礎底深さ ※図示による ・GL-( ) m

Table with 2 columns: Item (2. 杭の載荷試験) and Description (※杭の載荷試験を行う。 試験項目は下記により、その仕様は(※別紙仕様書 ・図示)による。

Table with 2 columns: Item (3. 地盤の載荷試験) and Description (※地盤の載荷試験(平板載荷試験)を行う。 試験仕様は(※別紙仕様書 ・図示 ・下表)による。

Table with 5 columns: Designation, Support Name, Depth, Long-term Allowable Support, Location, Remarks (e.g., 注)最大載荷荷重は、長期許容支持力の(※3倍 ・倍)とする。

Table with 2 columns: Item (4. 既製杭の材料) and Description (※既製杭の種類は下表による。 指定 種類 種別等 備考

Table with 2 columns: Item (4. 既製杭の打設工法) and Description (※既製杭の打設工法は下記による。 ・打撃工法 ※プレボーリング併用の有無

Table with 2 columns: Item (6. 場所打ちコンクリート杭の材料) and Description (※ハンマーの種類(※油圧ハンマー ・ディーゼルハンマー ・ ) ※防音カバー (※有 ・無) ※埋込み工法 ・セメントミルク工法 ・ ※大臣認定工法

Table with 2 columns: Item (7. 場所打ちコンクリート杭の打設工法) and Description (※場所打コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭の打設工法は( ・下表による ※図示による)

Table with 5 columns: Designation, Method, Presence of Bottom, Presence of Steel Pipe, Remarks (e.g., アースドリル工法, リバースサーキュレーション工法, オールケーシング工法, C D工法, 深礎工法, 連続地中壁)

Table with 2 columns: Item (⑨ 砂・砂利・割り石・捨コンクリート地業) and Description (※オールケーシング工法と深礎工法及び無水掘工法以外は、超音波測定器による孔壁の測定を行う。検査の数量は( ・全数 ※各杭毎に1本 ・各杭径毎に( )%)とする。

Table with 7 columns: Designation, Type, Material, Foundation, Middle Pier, Bottom Pier, Soil Compaction, 1st Floor Void (e.g., 砂利地業, 捨コンクリート, ラップルコンクリート)

注)ラップルコンクリートの調査は捨コンクリートと同じとする。

Table with 2 columns: Item (9. 床下防湿層) and Description (※床下防湿層の施工箇所は1階スラブ直下(ピット部分を除く)及び土間コンクリート直下とする。

Table with 3 columns: Designation, Category, Method Name, Improvement Material (e.g., 強制圧密工法, 液状化対策工法, 深層混合処理工法, 表層混合処理工法)

注)改良範囲等詳細は図示による。

5章 鉄筋工事

Table with 4 columns: Designation, Rebar Type, Usage, Remarks (e.g., ① 鉄筋, 指定 鉄筋の種類 使用径 継手 備考)

※使用する鉄筋はJIS G 3112の規格品とし下表による。

Table with 4 columns: Designation, Usage, Diameter/Interval, Remarks (e.g., ② 溶接金網, 指定 使用箇所 径・間隔 備考)

※使用する溶接金網はJIS G 3551(溶接金網)の規格品とし、下表による。

Table with 2 columns: Part, Quantity and Arrangement of Pier and Spacer (e.g., 基礎, 基礎梁, スラブ, 梁, 柱, 壁)

注1)パーサポート・スぺーサーの種類は鋼製とし、被り厚さ範囲に防錆処理を施したものとす。 2)基礎、スラブ以外のスぺーサーは、側面に限り強度と剛性を有するプラスチック製としてもよい。

Table with 2 columns: Item (④ 継手及び定着) and Description (※特殊な鉄筋継手の採用 ※(財)日本建築センターの評定を取得した工法とする。

Table with 2 columns: Item (⑤ ガス圧接工) and Description (※ガス圧接業者は(社)日本鉄筋継手協会が認定する優良圧接業者より選定する。 ※ガス圧接技能者の技量確認試験を( ・行う ※行わない)

Table with 4 columns: Designation, Check Category, Extraction Rate, Inspector, Remarks (e.g., ⑥ ガス圧接部検査, 指定 検査種別 抜取率 検査者 備考)

注1)1ロットの大きさは、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所かつ200箇所以下とする。 2)第三者機関は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関または、これに準ずる機関とする。



7章	鉄骨工事	施工者による品質管理	諸試験・諸検査	※施行令第129条の2の4の事項 ※のある項目を適用する。																																											
<p>① 鉄骨製作工場 (7.1.3)</p> <p>② 施工管理技術者 (7.1.4)</p> <p>③ 鋼材 (7.2.1)</p> <p>④ 高力ボルト (7.2.2)</p> <p>⑤ アンカーボルトの種類及び設置 (7.2.4) (7.10.3)</p> <p>6. デッキプレート (7.2.7)</p> <p>⑦ 各種検査・試験 (7.2.10) (7.4.8) (7.6.3) (7.6.10) (7.6.11) (7.7.5)</p> <p>⑧ 錆止め塗装 (7.8.3) (7.8.4)</p> <p>⑨ 溶融垂鉛めっき (7.12.3) (7.12.4)</p>	<p>※鉄骨製作工場の指定 (※鉄骨規準図による ・下記による)</p> <p>※施工管理技術者を置く ・施工管理技術者を置く必要はない</p> <p>※鋼材の種類は鉄骨規準図、その他図示による。</p> <p>※高力ボルトの種類は鉄骨規準図、その他図示による。</p> <p>※アンカーボルトの種類・保持及び埋込工法は下表による。(表7.10.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>適用</th> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> <th>材質</th> <th>アンカーボルトの保持及び埋込工法</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>建方用アンカーボルト</td> <td>※一般柱脚 (間柱を除く)</td> <td>※SS400</td> <td>・A種 ・B種 ・C種 ・図示による</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>非埋込型固定用柱脚 (大臣認定工法)</td> <td>※図示による</td> <td>※図示による</td> <td>※図示による 図示の無い場合はメーカー仕様による</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>構造用アンカーボルト (柱脚等)</td> <td>※一般柱脚 (間柱を除く)</td> <td>※SNR400 ・SNR490</td> <td>※A種 ・B種 ・C種 ・図示による</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>構造用アンカーボルト (一般)</td> <td>※上記以外の箇所 ・全ての箇所</td> <td>※SS400</td> <td>・A種 ・B種 ・C種 ・図示による</td> </tr> </table> <p>注1) 構造用アンカーボルトの場合、台直しは不可とする (鉄骨製品の方で寸法調整すること)。 ※柱底均しモルタルの工法 (※A種・B種・図示による) (表7.10.2)</p> <p>※デッキプレートの材質は (※下表による ・図示による)</p> <table border="1"> <tr> <th>指定</th> <th>使用法</th> <th>形状</th> <th>厚さ</th> <th>垂鉛めっき</th> <th>種類</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>合成スラブ用</td> <td>※図示 ・h=75mm ・h=50mm</td> <td>※図示 ・t=1.2mm ・t= mm</td> <td>※有 ・無</td> <td>※SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27) ・SDP1T ・SDP2</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>型枠用</td> <td>※図示 ・フラット型</td> <td>※図示 ・t=1.2mm ・t= mm</td> <td>※有 ・無</td> <td>※SDP1GA (Z12) ・SDP1GB (Z27) ・SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27) ・SDP1 ・SDP1T ・SDP2</td> </tr> </table> <p>注) h: デッキプレートの山高</p> <p>※鉄骨に関する検査・試験は鉄骨規準図による。 ・その他検査・試験に関する特記 (・図示による ・下記による)</p> <p>※鉄鋼面の素地ごしらえの種類 (・A種 ・B種 ※C種) (表18.2.2) ※錆止め塗料 (下塗り) の種類は表18.3.1による。(表18.3.1) ※錆止め塗装の対象部材と仕様 (○一般 ・品確法) ○一般 (原則全ての鉄鋼面に塗装を行う) ※鉄鋼面の錆止め塗料塗りは表18.3.3による。錆止め塗料の種類はA種とし、18.8節の場合はB種とする。 ※A種 (JIS K ※5674 1種 ・5625 ・ ) ※B種 (※JIS K 5674 2種 ・JASS 18 M-111) ※耐火被覆 (吹き付け工法) を行う部分の錆止め塗装 (・行う ※行わない ・外周部のみ行う) ※錆止め塗装を必要とする箇所にて耐火被覆を行う場合は、吹き付け工法以外の工法を選定する。 ・品確法 (劣化等級に応じた防錆措置) ・劣化等級3 (最下階柱脚及び板厚12mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ・劣化等級2 (最下階柱脚及び板厚 9mm未満の鋼材全てに所定の防錆措置を施す) ※防錆措置の仕様は、図示 による ※防錆措置が求められる部分の防錆措置の適用と仕様 耐火被覆 (吹き付け工法) を施さない部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。 耐火被覆 (吹き付け工法) を施す部分 (・行う ・行わない ・外周部のみ行う) 仕様は 図示 による。</p> <p>※溶融垂鉛めっきの適用箇所 ※屋外の見え掛り部分 ※図示による指定箇所 ・ ※溶融垂鉛めっきの種類は表14.2.2による。 ※溶融垂鉛めっきの高力ボルト (F8T) 摩擦面の処理 ◎プラスト処理 ○りん酸塩処理</p>	適用	種別	適用箇所	材質	アンカーボルトの保持及び埋込工法	・	建方用アンカーボルト	※一般柱脚 (間柱を除く)	※SS400	・A種 ・B種 ・C種 ・図示による	・	非埋込型固定用柱脚 (大臣認定工法)	※図示による	※図示による	※図示による 図示の無い場合はメーカー仕様による	○	構造用アンカーボルト (柱脚等)	※一般柱脚 (間柱を除く)	※SNR400 ・SNR490	※A種 ・B種 ・C種 ・図示による	○	構造用アンカーボルト (一般)	※上記以外の箇所 ・全ての箇所	※SS400	・A種 ・B種 ・C種 ・図示による	指定	使用法	形状	厚さ	垂鉛めっき	種類	・	合成スラブ用	※図示 ・h=75mm ・h=50mm	※図示 ・t=1.2mm ・t= mm	※有 ・無	※SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27) ・SDP1T ・SDP2	・	型枠用	※図示 ・フラット型	※図示 ・t=1.2mm ・t= mm	※有 ・無	※SDP1GA (Z12) ・SDP1GB (Z27) ・SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27) ・SDP1 ・SDP1T ・SDP2	<p>1. ISO品質管理責任者</p> <p>② 専門技術者による作業所への支援</p> <p>③ 現場キックオフミーティング</p> <p>4. その他特記事項</p> <p>※施工者は自社のISO-9000システム等を活用し、品質管理責任者の指導により、一度指摘された事項が発生しないようにすること。</p> <p>※以下の項目について、作業所スタッフ以外の専門技術者が、施工計画の立案を作業所と協力して行い、施工計画書に確認印を押印する。 ・杭工事施工計画 ( ) ※コンクリート打設計画、ジャンカ・コールドジョイント・ひび割れ等の補修要領 (基礎梁及び柱壁立上りの打設第一回目立会い) ・マスコンクリート温度ひび割れ解析、施工計画、温度測定計画 ・鉄骨溶接部 (工場・現場共) の品質管理 (工場中間検査、製品検査及び現場溶接開始時に立会う) ・特殊工法の施工計画・品質管理 ( )</p> <p>※躯体の品質管理の関わるキックオフミーティングを (※行う ・行わない) ※出席者は、構造設計者、監理者、現場品質管理責任者、作業所スタッフ、上記専門技術支援者とする。 ※監理者もしくは構造設計者より、品質管理上の注意事項の伝達、提出書類リスト・立会い検査項目リストの運用方法の説明を行う。 ※施工者より、自社ISOシステムによる品質管理方法及び不具合再発防止策の説明を行う。施工者各技術支援者より、今回物件に対応した重点品質管理項目及びその方法について説明を行う。</p>	<p>① 試験検査に要する費用</p> <p>② 第三者試験・検査機関</p> <p>3. その他特記事項</p> <p>※工事現場外で行う諸試験・諸検査に要する費用 (監理者の名古屋からの交通費・宿泊費を含む) は全て施工業者の負担とする。</p> <p>※ガス圧接部の検査・コンクリート受入時の検査等、第三者による検査は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条 (試験機関) 条件を備えた機関または、これに準ずる機関とする。</p> <p>1 試験機関は、正確かつ公正な試験を実施するために必要な次に掲げる条件を備えるものとする。 (1) 試験の対象となる工事に関して公正な立場にあること。 (2) 試験の業務に関する専任の管理者を置いていること。 (3) 試験の業務に関する資格等を有する専任の試験技術者及び試験業務担当者も置いていること。 (4) 試験を実施するために必要な人員、機器及び設備を備えていること。 (5) 試験を正確かつ公正に実施するため、適切に定められた試験業務管理基準によって試験業務を運営していること。</p> <p>2 普通コンクリートの場合で、設計基準強度 (F<sub>c</sub>) が36N/mm<sup>2</sup>を超える高強度コンクリート (以下「高強度コンクリート」という。) の試験を実施する試験機関に必要な条件は、前項によるほか次に掲げる条件を備えるものとする。ただし、知事がこれと同等と認める試験機関についてはこの限りでない。 (1) 試験する高強度コンクリートに必要な試験の業務に関する資格を有する専任の技術者を置いていること。 (2) 高強度コンクリートに対して十分な性能をもつ試験機及び必要な設備機器を備えていること。 (3) 試験の信頼性を確保するため、試験に係わる供試体の作成、養生及び運搬等の業務を行う代行業者に対する審査基準を定めており、試験を受託する場合は、その審査基準に適合する代行業者の供試体以外は受託しないこと。</p> <p>※鉄骨工事における第三者試験・検査機関は上記条件を満足する他、鉄骨規準図による条件を満足すること。</p>	<p>※建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。</p> <p>※建築設備 (昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れのないものとする。</p> <p>※屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、構造耐力上主要な部分に、緊結すること。</p> <p>※煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。</p> <p>※煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。</p> <p>※建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、 ※ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。 ※ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。 ※ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。 ※ 管を支持し、又は固定する場合においては、コリ金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。</p> <p>※建築物に設ける電気温水器その他の給湯設備にあっては、建設省告示第1388号第5により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造上安全なものとする。</p> <p>※法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上からの突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。</p> <p>※設備機器の固定等は、「国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修 (建築設備耐震設計・施工指針 2005年版)」により行う。ただし、設計用地震力 (水平及び鉛直) は次の設計用水平震度KH及び設計用鉛直震度KV (KH/2) を用いて計算する。設計用水平地震力と設計用鉛直地震力は同時に作用するものとする。</p>
適用	種別	適用箇所	材質	アンカーボルトの保持及び埋込工法																																											
・	建方用アンカーボルト	※一般柱脚 (間柱を除く)	※SS400	・A種 ・B種 ・C種 ・図示による																																											
・	非埋込型固定用柱脚 (大臣認定工法)	※図示による	※図示による	※図示による 図示の無い場合はメーカー仕様による																																											
○	構造用アンカーボルト (柱脚等)	※一般柱脚 (間柱を除く)	※SNR400 ・SNR490	※A種 ・B種 ・C種 ・図示による																																											
○	構造用アンカーボルト (一般)	※上記以外の箇所 ・全ての箇所	※SS400	・A種 ・B種 ・C種 ・図示による																																											
指定	使用法	形状	厚さ	垂鉛めっき	種類																																										
・	合成スラブ用	※図示 ・h=75mm ・h=50mm	※図示 ・t=1.2mm ・t= mm	※有 ・無	※SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27) ・SDP1T ・SDP2																																										
・	型枠用	※図示 ・フラット型	※図示 ・t=1.2mm ・t= mm	※有 ・無	※SDP1GA (Z12) ・SDP1GB (Z27) ・SDP2GA (Z12) ・SDP2GB (Z27) ・SDP1 ・SDP1T ・SDP2																																										
<p>設備関連</p> <p>① 機械基礎</p> <p>② 設備貫通孔</p> <p>③ 埋込み配管</p> <p>④ 設備業者による工事に関する注意事項</p> <p>5. その他特記事項</p> <p>※建築工事施工者は、設備工事業者と打合せの上、機械基礎の位置・寸法・機器運搬重量・設計水平震度等を施工図に反映して監理者の承認を得ること。</p> <p>※建築工事施工者は、設備工事業者と打合せの上、梁・壁・スラブの貫通孔の位置・径・レベル等を施工図に反映して監理者の承認を得ること。 ※伏図・軸組図・平面図・立面図等の図示に無い設備による大開口 (ガリリ・ダクト等) や、多数の開口が並ぶ箇所が発生した場合は、監理者と協議の上、補強等対策を行うこと。</p> <p>※スラブ内に埋込む配管・ケーブル類の径はスラブ厚の1/4以下とし、間隔は径の3倍以上のピッチかつ、5cm以上のあきを確保すること。特に、EPS廻り等で、埋込む配管・ケーブル類が集中する箇所は、監理者と協議の上、スラブを下げ打しコンクリート内に埋込む等の処置を行うこと。</p> <p>※設備工事業者が鉄筋コンクリート造部分の貫通孔補強工事を施工する場合は、必ず建築工事施工者が検査し、補強方法・かぶり等不具合があった場合は是正を行うこと (費用等は各業者間で調整のこと)。 ※設備工事業者が鉄骨に設備機器・配管・ラック類を取付けるため、やむを得ず現場で溶接を行う必要が生じた場合は、監理者の承認を得た上で溶接すること。 溶接後は必ず建築工事施工者が検査し、溶接等不具合があった場合は是正し、かつ、錆止め塗装・仕上げ塗装タッチアップは全て建築工事施工者が行うこと (費用等は各業者間で調整のこと)。</p>																																															
<p>諸官庁との対応</p> <p>① 諸官庁への届出</p> <p>2. その他特記事項</p> <p>※諸官庁への提出書類は遅滞なく提出すること。</p>																																															
<p>大臣認定 性能評価</p> <p>・建築基準法</p> <p>・品確法</p> <p>・住宅瑕疵担保履行法</p> <p>・時刻歴 (・超高層 ・免震)</p> <p>・耐火</p> <p>・取得済み ・取得未了 ( )</p> <p>取得等級</p> <p>・耐震等級 (構造躯体の倒壊等防止) (・等級3 ・等級2 ・等級1)</p> <p>・耐震等級 (構造躯体の損傷防止) (・等級3 ・等級2 ・等級1)</p> <p>・耐風等級 (・等級3 ・等級2 ・等級1)</p> <p>・耐積雪等級 (・等級3 ・等級2 ・等級1)</p> <p>・劣化対策等級 (構造躯体等) (・等級3 ・等級2 ・等級1)</p> <p>・重量床衝撃音対策 (・重量床衝撃音対策等級 (等級 ( )))</p>																																															
<p>その他工事全般に関する特記事項</p> <p>① 使用材料</p> <p>※基礎、主要構造物に使用する材料は、平12建告第1446号に定めるJIS適合品とすること。</p>																																															

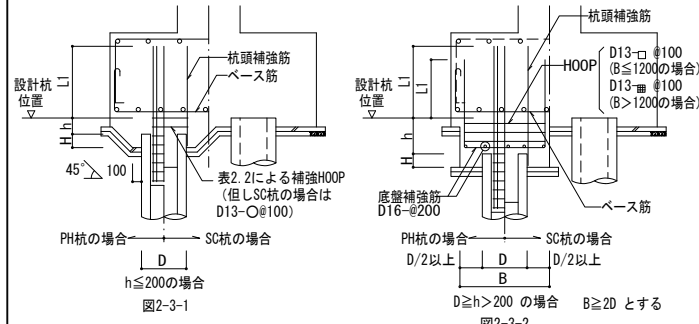
設置場所	機器種別	○ 特定の施設		・ 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	(2.0)	2.0	(2.0)	(1.5)
	水槽類 (※1)	(2.0)	(1.5)	(1.5)	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)
	水槽類 (※1)	(1.5)	(1.0)	(1.0)	(0.6)
地下・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)
	水槽類 (※1)	(1.5)	(1.0)	(1.0)	(0.6)

(注) ( ) 内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。  
( ) 内の数値は水槽類に適用する。

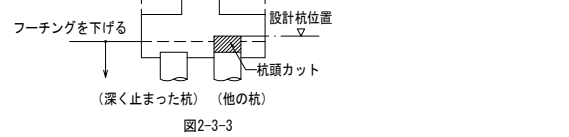
亀山消防署北東分署建設工事 (建築工事)



2-3 杭が所定の位置より深く止まった場合の処理 (高く止まった場合は、直ちに監理者と協議する)  
杭が所定の位置より深く止まった場合の処理は監理者の指示による (下記を参考にする)。  
(1) 深く止まった杭のみ処理する場合 (H: 杭の埋め込み深さ、D: 杭径、h: 杭の下がり量)



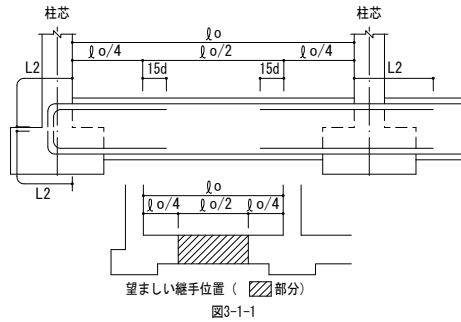
(2) 他の杭を深く止まった杭の高さに切りそろえる場合



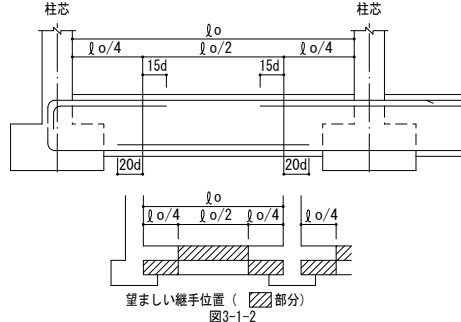
### 3. 地中梁

3-1 主筋の定着及び継手 (主筋の柱への定着は本図の他、図1-8-1参照)

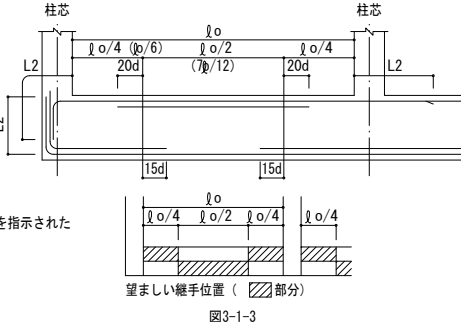
(1) 構造スラブの取り付かない独立基礎



(2) 構造スラブの取り付く独立基礎

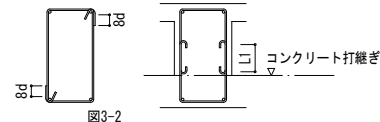


(3) 連続基礎及びべた基礎の場合及び地反力または下から水圧が作用する地中小梁の場合



( ) 内は本項の適用を指示された地中小梁の場合を示す。

3-2 あばら筋、腹筋、巾止筋の割付・加工



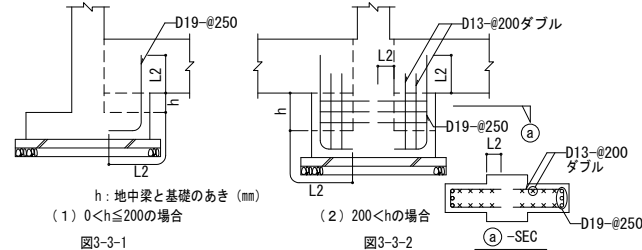
注1) 地中梁のあばら筋、腹筋、巾止筋の加工は5-4及び5-6に準ずる。  
注2) 梁成が1,500mmを超える場合のあばら筋は図3-2による事ができる。  
注3) 地中梁腹筋の割付け本数は図示による。図示の無い場合は表3-2による。

表3-2 地中梁腹筋の割付け本数

梁成	腹筋
D < 600	不要
600 ≤ D < 900	1段-2-D13 (2-D13)
900 ≤ D < 1200	2段-2-D13 (4-D13)
1200 ≤ D < 1500	3段-2-D13 (6-D13)
1500 ≤ D < 1800	4段-2-D13 (8-D13)

以後、梁成が300mm増す毎に1段増やす。

3-3 基礎・地中梁接合部の補強

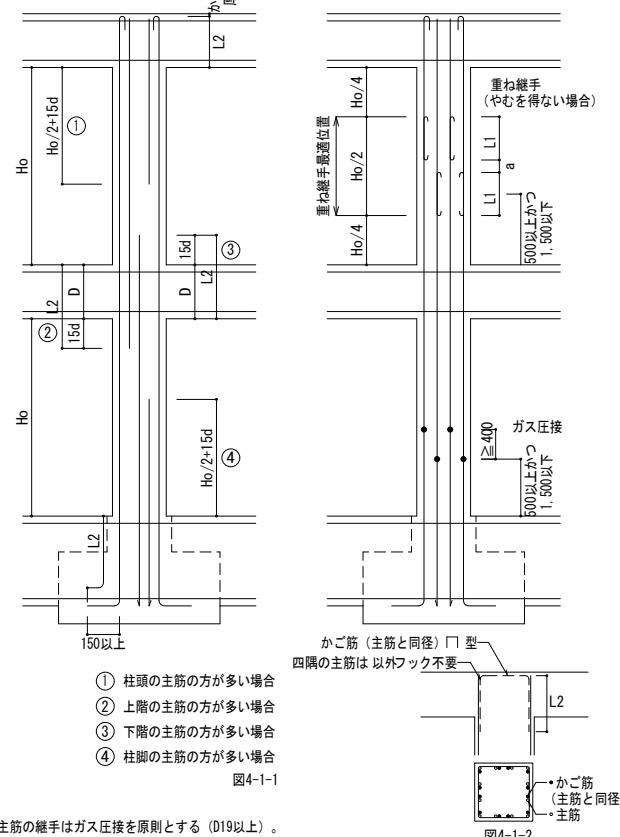


注) 補強部の厚さは原則として梁巾と同厚とし、横補強筋は □ 型加工とする。

### 4. 柱

4-1 主筋の定着及び継手

(1) 主筋の定着 (2) 主筋の継手



注1) 主筋の継手はガス圧接を原則とする (D19以上)。やむを得ず重ね継手とする場合は監理者の承認を得ること。  
注2) 柱で土に接する部分はコンクリートを打増してかぶり厚さを確保する。  
注3) 最上階柱頭で定着長さ(L2)が不足する場合は全数フックを設けるかまたは図4-1-2のようにかご筋を設ける。  
注4) 最下階柱脚の基礎への定着はL2以上かつ基礎底での水平折曲げ長さ150mm以上とする。  
注5) 仕口部への定着長さはL2以上かつD+15d以上とする (D: 梁成)。

4-2 帯筋・副帯筋、スパイラル筋の配筋

(1) 帯筋・副帯筋 (2) スパイラル筋

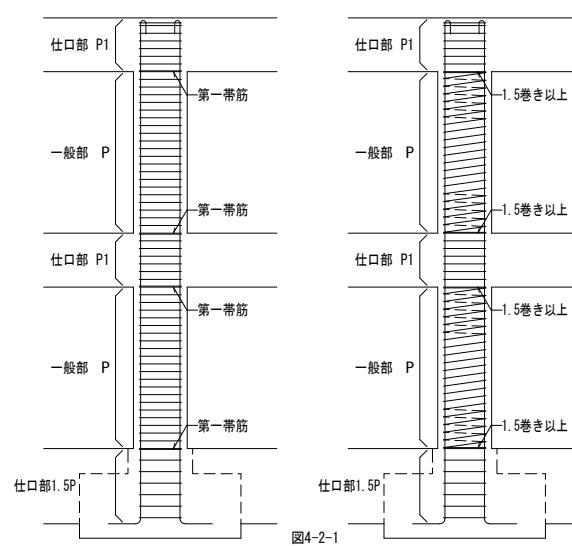
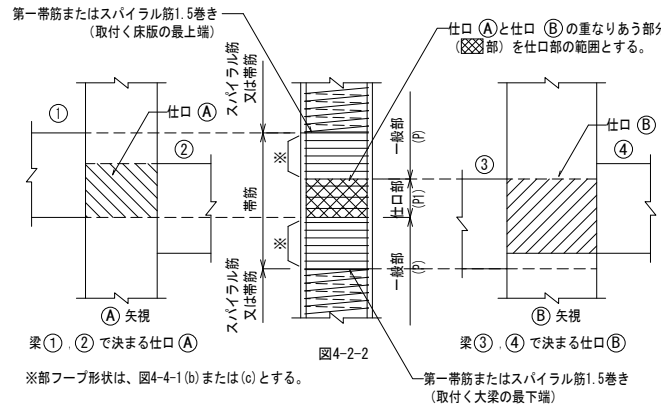
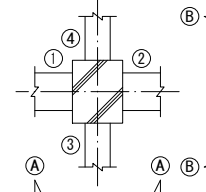


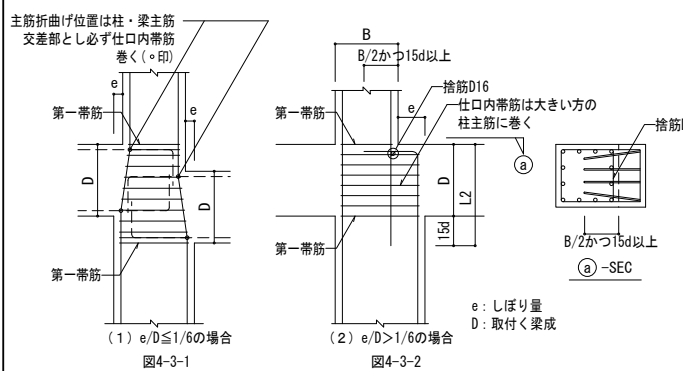
表4-2 仕口部の帯筋

一般部の帯筋がD10の場合		一般部の帯筋がD13の場合	
P1	上下階柱成の最大値D(mm)	P1	上下階柱成の最大値D(mm)
D10-@150	D ≤ 450	D13-@150	D ≤ 800
D10-@100	450 < D ≤ 700	D13-@100	800 < D ≤ 1250
		D16-@100	1250 < D ≤ 2000

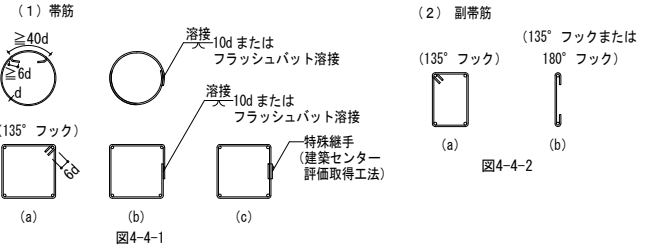
注1) 一般部の帯筋の径及びピッチ(P)は図示による。  
注2) 第一帯筋は柱脚においては取付く床版のうち最上端レベル、柱頭においては取付く大梁のうち最下端レベルに配する。  
注3) 仕口部帯筋の径及びピッチ(P1)は図示による。図示の無い場合は表4-2-1による。ただし、地中梁内は一般部帯筋と同径1.5Pとする。仕口部帯筋は図4-4-1(a)とする。  
注4) 取付く大梁に高低差がある場合の仕口部の範囲及び帯筋の配置は図4-2-2による。



4-3 柱筋のしほり方

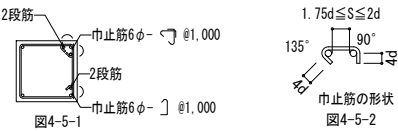


4-4 帯筋・副帯筋の加工



注) スパイラル筋は図1-8-3による。スパイラル筋の使用の有無は図示による。

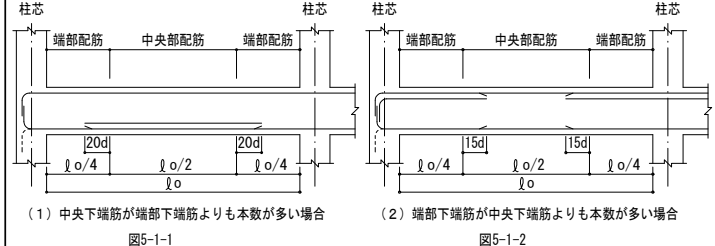
4-5 柱の隅部2段配筋



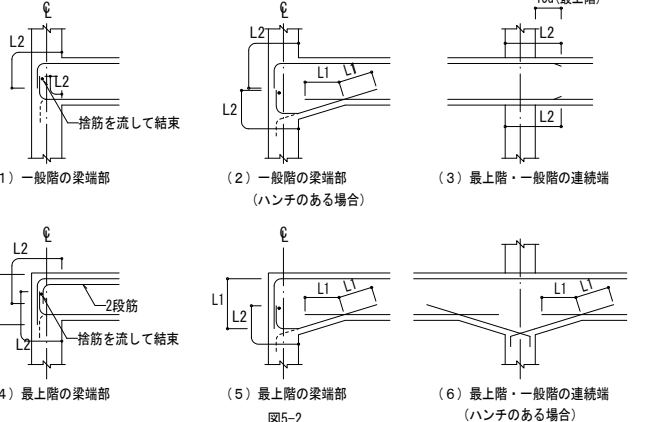
注1) 2段筋の表示は ) 印で示し上図の巾止筋を配置する。  
注2) 巾止筋と柱主筋とは必ず鉄線と結束すること。  
注3) 2段筋と隅筋のあき(S)は1.75d ≤ S ≤ 2.0d以下とする。

### 5. 大梁

5-1 主筋の端部・中央部の配筋

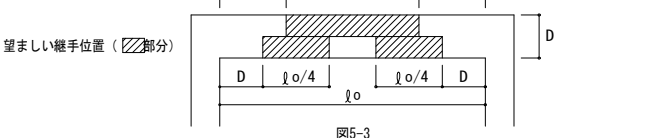


5-2 主筋の定着 (主筋の柱への定着は本図の他、図1-8-1参照)



注1) 下階筋の定着は原則として上向き定着 (仕口内) とする。やむを得ず下向き定着とする場合は監理者の承認を得ること。  
注2) ハンチ長さは図示による。図示の無い場合は柱面より l/4 位置をハンチ起点とする。

5-3 主筋の継手位置



5-4 あばら筋、腹筋の割付

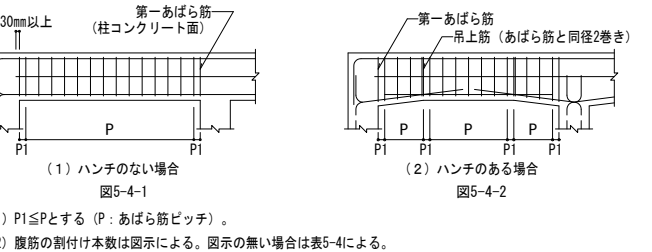
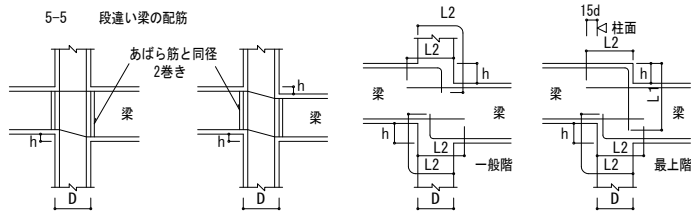


表5-4 大梁筋の割付け本数

梁成	腹筋
D < 600	不要
600 ≤ D < 900	1段-2-D10 (2-D10)
900 ≤ D < 1200	2段-2-D10 (4-D10)
1200 ≤ D < 1500	3段-2-D10 (6-D10)

以後、梁成が300増す毎に1段増やす。

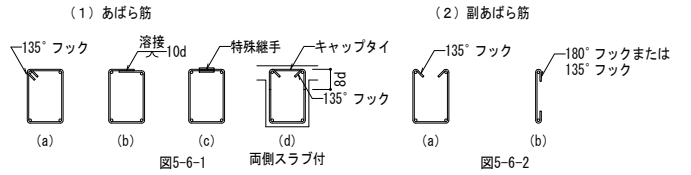
5-5 段違い梁の配筋



(1) h ≤ 100かつ h/D ≤ 1/6の場合 図5-5-1  
(2) h > 100または h/D > 1/6の場合 図5-5-2

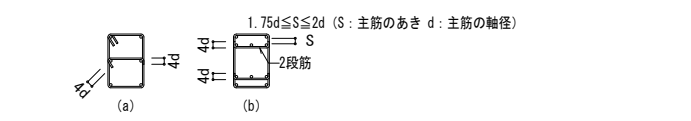
注) h/D ≤ 1/6の場合でも図5-5-2としてよい。

5-6 あばら筋、巾止筋の加工



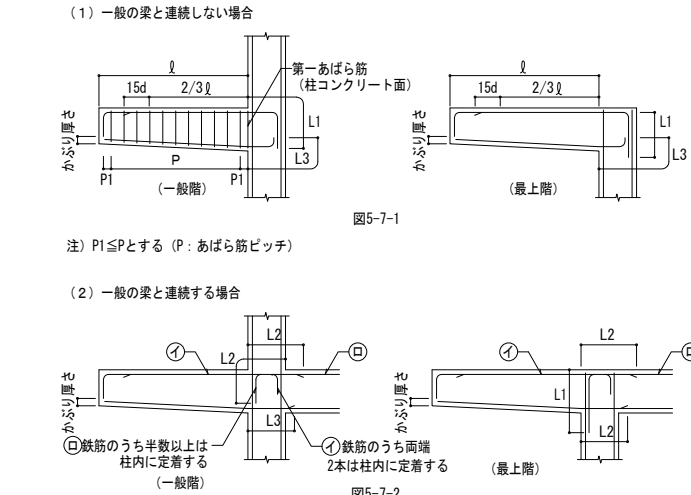
注) 両側スラブ付きの場合のあばら筋は(d)タイプとしてよい。(置スラブ形式の梁を除く)

(3) 巾止筋 2筋用巾止筋



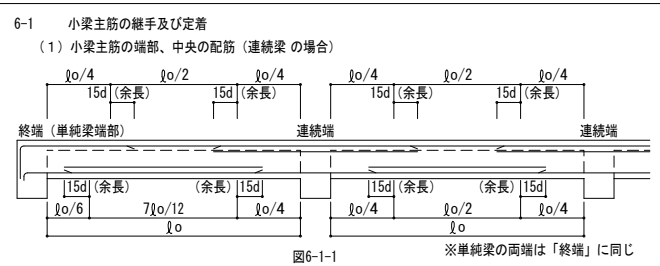
注) 巾止筋、2筋用の巾止筋は構造図に無き限りD10-φ1000以下とする。

5-7 片持梁の配筋要領



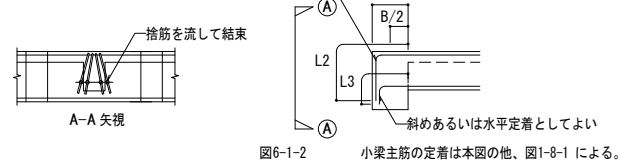
注1) 片持梁の主筋を一般の梁に引き通して定着してもよいが、その場合上端筋のうち両側2本は柱内に定着すること (⊙) の鉄筋。  
2) 一般梁の主筋を片持梁内に引き通して定着してもよいが、その場合上端筋のうち半数以上は柱内に定着すること (⊖) の鉄筋。  
3) 上端主筋は片持梁先端部において、梁底から かぶり厚さ程度 の位置まで垂直におよぶ。

6. 小梁



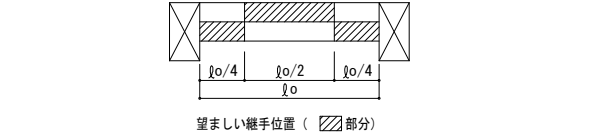
※単純梁の両端は「終端」に同じ

(2) 小梁主筋の定着



注) あばら筋、腹筋、巾止筋等については大梁の項に準ずる(5-4~5-6)。

(3) 主筋の継手位置

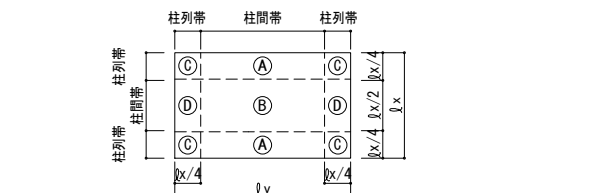


注) あばら筋、腹筋、巾止筋等については大梁の項に準ずる(5-4~5-6)。

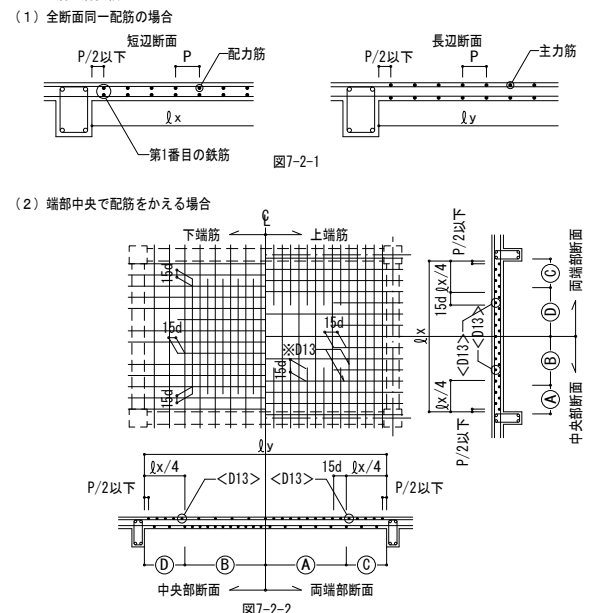
7. 床版

7-1 一般事項

- 配筋可能な限り、継手は設けない加工とする。
- 主筋は上下端筋共、配筋筋の外側に配筋する。
- この章を通して、図中の記号は下記による。  
 $\ell x$ : 主筋方向有効内法スパン <D13>: D13かつ受けるスラブの主筋径以上  
 $\ell y$ : 配筋方向有効内法スパン <D16>: D16かつ受けるスラブの主筋径以上  
 P: スラブ配筋間隔
- スラブ内に継手を設ける場合は、図7-1に示す上端筋(主筋方向-ⓑ、ⓓ) 配筋筋方向-ⓐ、ⓔ)、下端筋(主・配筋筋共-Ⓐ、Ⓒ、Ⓓ)の範囲内とする。
- 受け筋<D13>、<D16>でスラブ上端筋の受け筋パースポートを用いて位置を確保する。

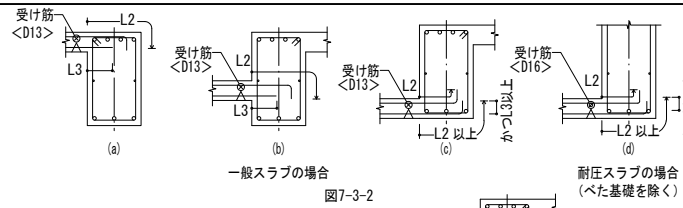
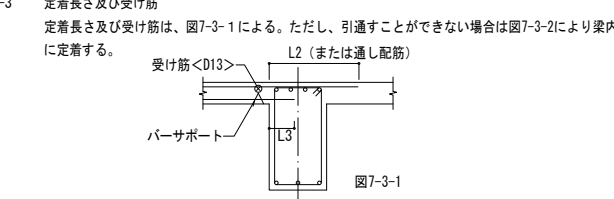


7-2 主筋配筋要領



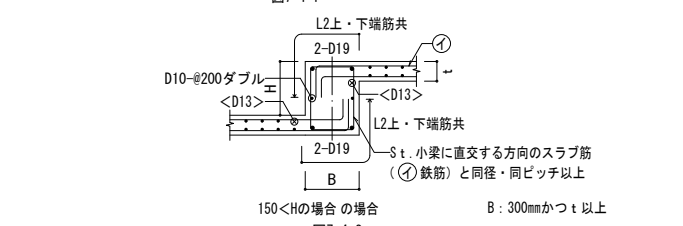
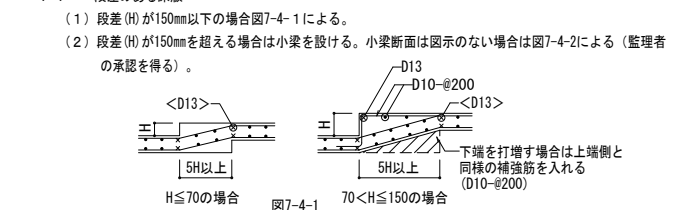
注) 主・配筋筋共、鉄骨梁の位置にかかわらず床全面で設計ピッチ以内に配筋する。

7-3 定着長さ及び受け筋



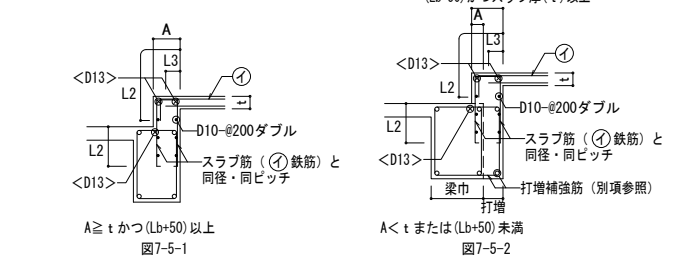
注) 受け筋<D13>、<D16>は梁内に設けてもよい。スラブ筋の定着は本図の他、図1-8-1による。

7-4 段差のある床版

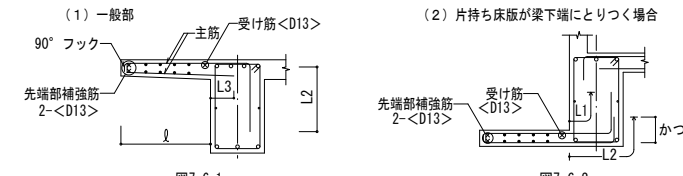


注1) 小梁断面の図示が無く図7-4-2を適用する場合、小梁への定着長さは上・下端筋L2とする。

7-5 両側の床版に高低差がある場合

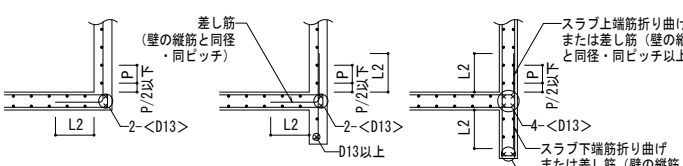


7-6 片持ち床版の基準配筋

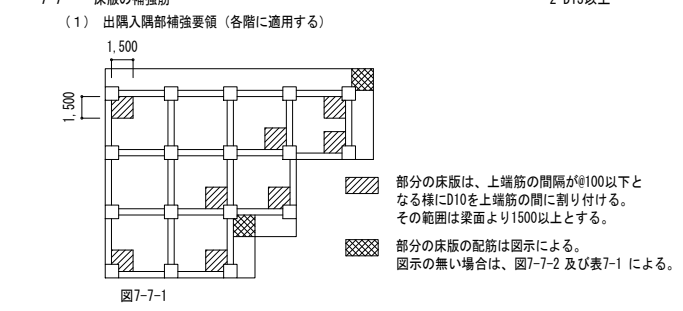


注) スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。スラブ筋の定着は本図の他、図1-8-1による。

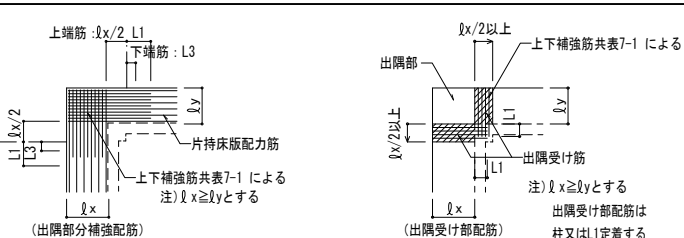
(3) 先端に壁が付く場合



7-7 床版の補強筋



部分の床版は、上端筋の間隔がφ100以下となる様にD10を上端筋の間に割り付ける。その範囲は梁面より1500以上とする。



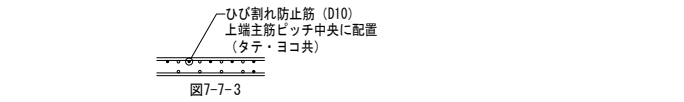
注)  $\ell x \geq \ell y$ とする  
注)  $\ell x \geq \ell y$ とする

7-7-1 出入隅部補強筋

径	ピッチ
○主筋と同径 ・主筋の1 サイズアップ	○主筋と同ピッチ (主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える) ・主筋の1/2ピッチ (主筋に加えて主筋量の2倍の補強筋を加える)
○主筋と同径 ・主筋の1 サイズアップ	○主筋と同ピッチ (主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える) ・主筋の1/2ピッチ (主筋に加えて主筋量の2倍の補強筋を加える)
○主筋と同径 ・主筋の1 サイズアップ	○主筋と同ピッチ (主筋に加えて主筋量と同量の補強筋を加える) ・主筋の1/2ピッチ (主筋に加えて主筋量の2倍の補強筋を加える)

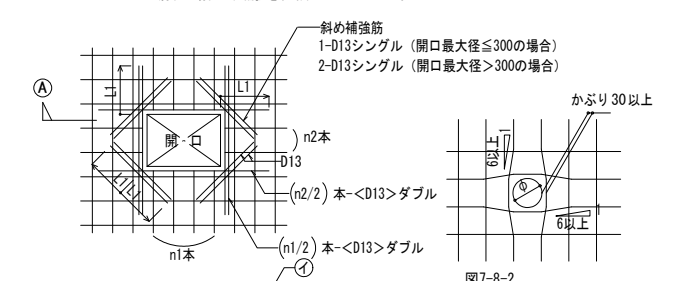
(2) 床版のひび割れ補強

床仕上げのない場合、塗り床仕上げ等の場合で、床版のひび割れ防止を目的として以下の補強を行う。適用の有無及び適用箇所は特記(構造関係特記仕様書6章2項)による。本補強を適用する床版は、7-7(1)の補強は不要。(片持床版出隅部を除く。)

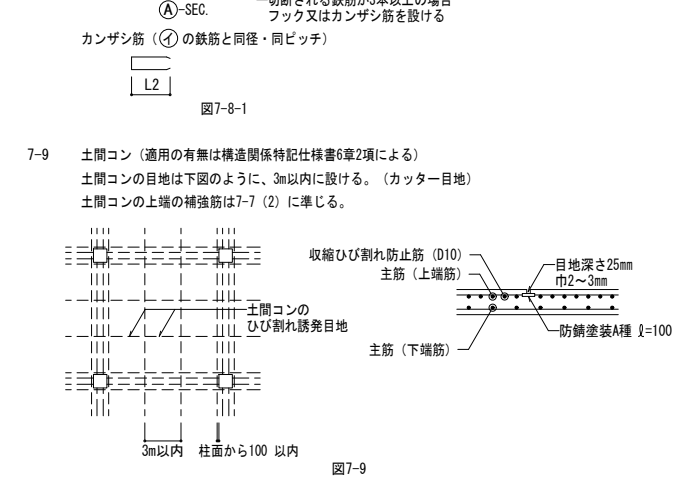


7-8 床版開口部の補強

床版開口部の補強は、特記による。特記がなければ、下記による。  
(1) 床版開口の最大径が700mm以下の場合、図7-8-1により開口によって切られる鉄筋と同量かつ2<D13>以上の鉄筋で周囲を補強し、隅部斜め方向に<D13>シングルを上下筋の内側に配筋する。また、床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合で図7-8-2により開口部を避けて配筋する場合は、補強を省略することができる。



7-9 土間コン



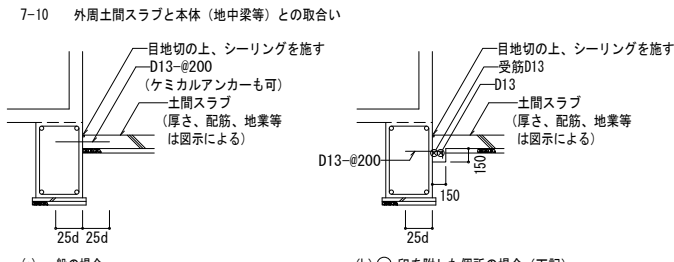


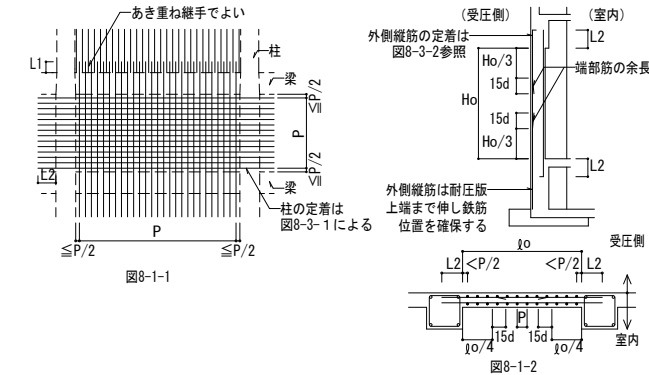
図7-10

8. 壁

8-1 一般事項

- 配筋可能な限り、継手は設けな加工とする。
- 土圧を受ける地下壁は図示の無い限り縦筋を外側に配筋する。
- 重ね継手のない場合は、監理者の承認を受けて溶接継手とすることができる。両面フレア溶接の場合は、5d以上、片面フレア溶接の場合は、10d以上とする。
- 幅止め筋は、縦横ともにD10-@1000程度とする。
- この章を通して、図中の記号は下記による。  
Ho: 有効内法高さ  
Lo: 有効内法スパン

- 一般壁及び土圧を受ける地下壁の配筋は図8-1-1、図8-1-2による。  
(a) 一般壁 (b) 耐圧(土圧水圧)壁



8-2 継手

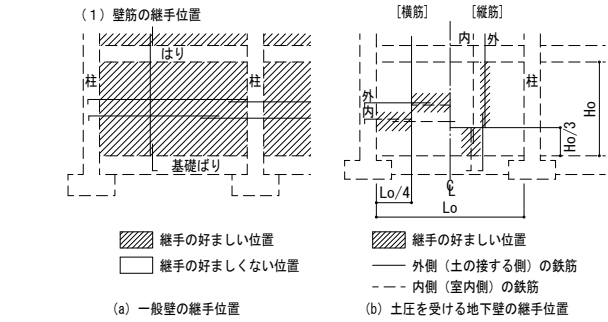


図8-2-1

- 原則として、はり・柱の中には壁筋の継手を設けな加工。
- 横筋の場合は、1スパンごとに柱に定着することは差し支えない。その場合の定着方法は図8-3-1による。

(2) 壁筋の継手及びあき重ね継手

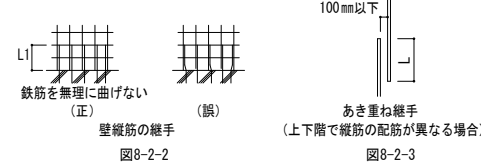
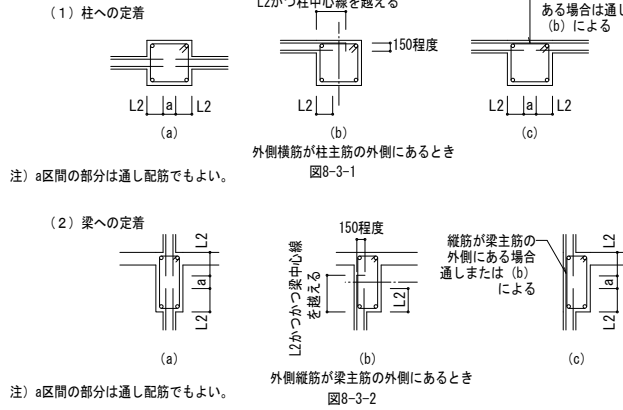


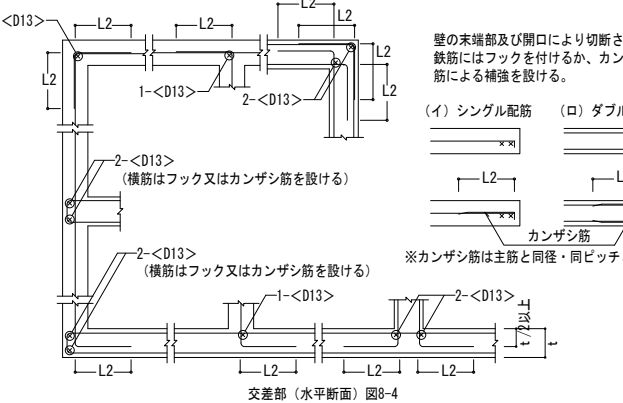
図8-2-2

図8-2-3

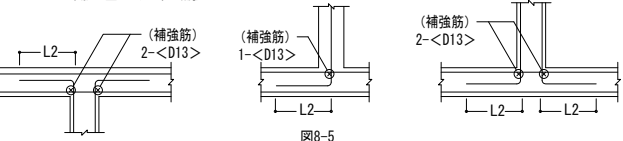
8-3 定着



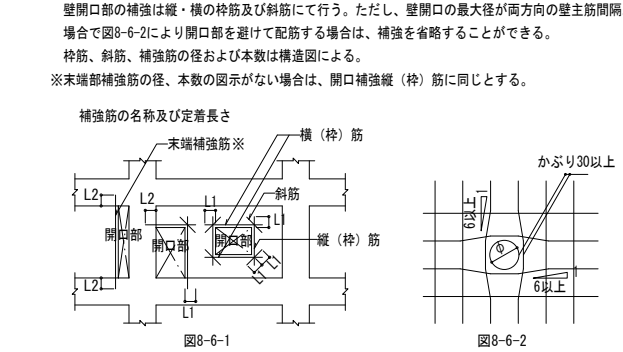
8-4 交差部及び端部の配筋



8-5 床版と壁の交互部の補強



8-6 壁開口部の補強



8-7 外壁の補強筋

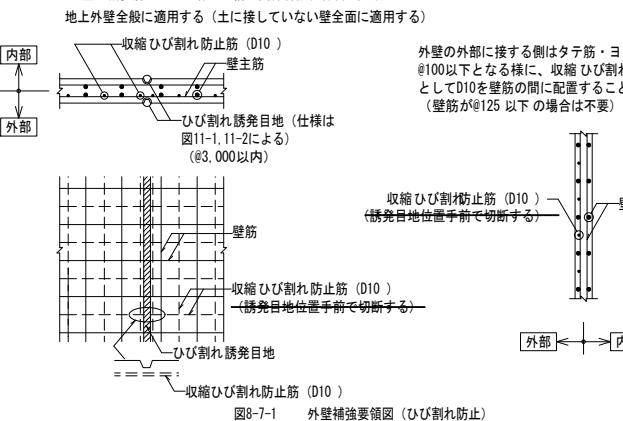


図8-7-1 外壁補強要領図(ひび割れ防止)

8-8 外壁開口部補強筋

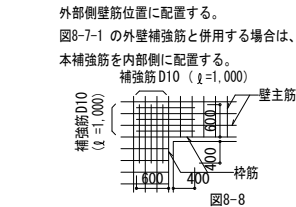


図8-8

8-9 構造スリット部補強要領

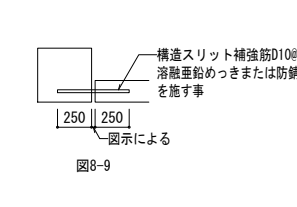


図8-9

9. 階段

9-1 片階段

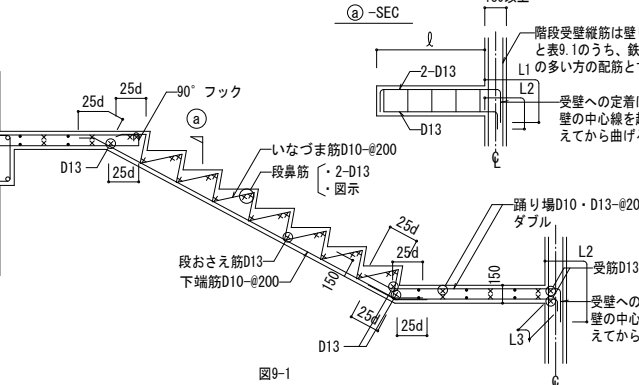


表9-1 階段受壁の縦筋(片階段の寸法)

壁厚	l ≤ 1200	1200 < l ≤ 1500	1500 < l ≤ 1800
180	D13-@200ダブル	D13-@150ダブル	D13-@125ダブル
200, 220	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル	D13-@150ダブル
250	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル	D13-@200ダブル

- 階段寸法は意匠図による。
- 段及び踊り場の配筋は図示による。図示の無い場合は図9-1による。
- 階段受け壁については図示(壁リスト)と表9-1のうち、配筋量の多い方を適用する。

9-2 スラブ階段

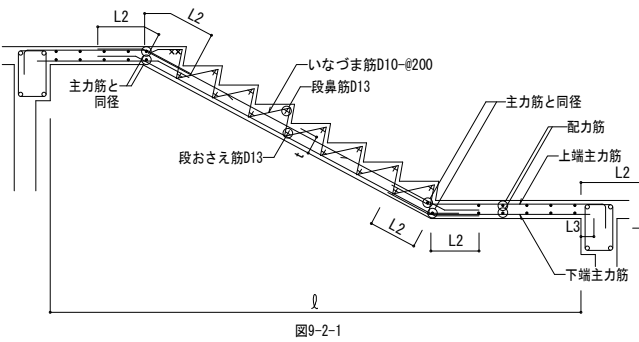


図9-2-1

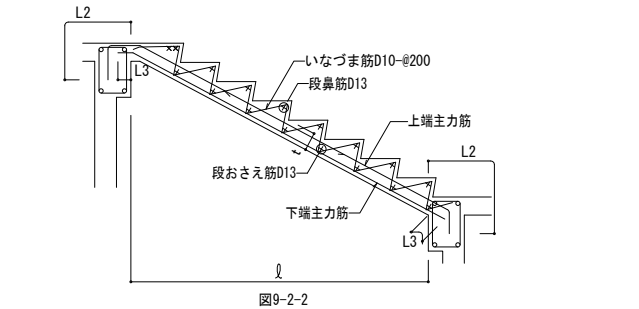


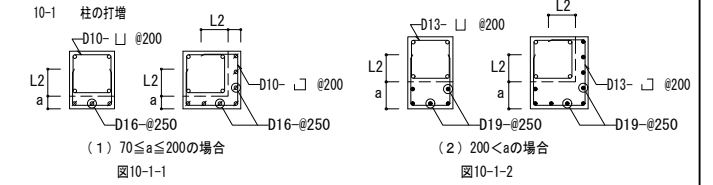
図9-2-2

表9-2 スラブ階段の板厚及び配筋(スラブ階段の内法スパン)

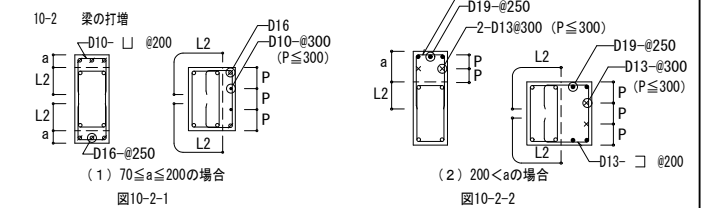
適用	t	主筋	配筋
・	l ≤ 3000	150	D13-@200ダブル
・	3000 < l ≤ 3500	150	D13-@150ダブル
・	3500 < l ≤ 4000	180	D13-@125ダブル
・	4000 < l ≤ 4500	180	D13-@100ダブル
・	4500 < l ≤ 5000	200	D13・D16-@125ダブル
・	5000 < l ≤ 5500	220	D16-@125ダブル
・	5500 < l ≤ 6000	250	D16-@125ダブル

- 階段寸法は意匠図による。
- 段及び踊り場の配筋は図示による。図示の無い場合は表9-2及び図9-2-1図9-2-2による。

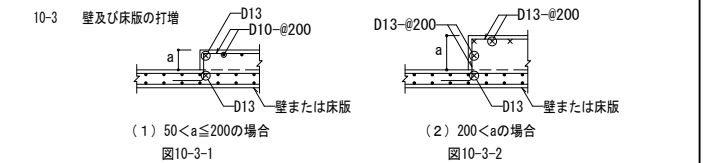
10. 打増補強



- 200 < a の場合で図示の無い場合は監理者の承認を得て(2)を適用すること。
- a < 70 の場合は補強不要とする。



- 200 < a の場合で図示の無い場合は監理者の承認を得て(2)を適用すること。
- a < 70 の場合は補強不要とする。



- 50 < a の場合で図示の無い場合は監理者の承認を得て(1)、(2)を適用すること。
- a ≤ 50 の場合は補強不要とする。

11. ひび割れ誘発目地

- 壁のひび割れ誘発目地  
(1) 外壁のひび割れ誘発目地の位置・形状は意匠図による。意匠図に図示の無い場合は下図による。  
(2) 内壁のひび割れ誘発目地は下図による。

11-2 目地詳細図

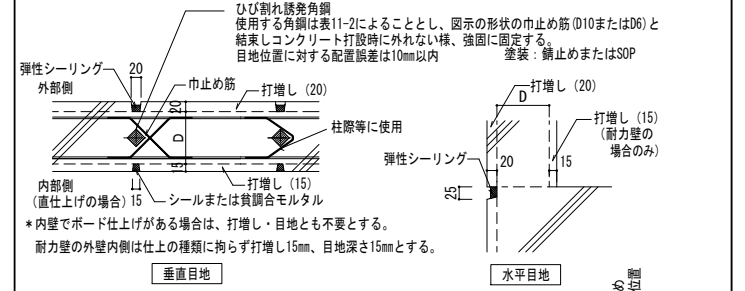


図11-2-1 目地詳細図

表11-2 ひび割れ誘発角隅(目地と合わせた欠損率=25%)

壁種	目地	壁厚 D (mm)	外目地深さ (mm)	内目地深さ (mm)	ひび割れ誘発角隅
外壁	両面	150	20	15	1-①-16
		180	20	15	1-①-16
		200	20	15	1-①-16
		220	20	15	1-①-22
		250	20	15	1-①-25
		300	20	15	1-①-28
内壁	片面	150	-	15	1-①-19
		180	-	15	1-①-25
		200	-	15	1-①-28
		220	-	15	1-①-32
		250	-	15	1-①-38
		300	-	15	1-①-44
両面	両面	150	15+15	15	1-①-16
		180	15+15	15	1-①-16
		200	15+15	15	1-①-19
		220	15+15	15	1-①-25
		250	15+15	15	1-①-28
		300	15+15	15	1-①-38

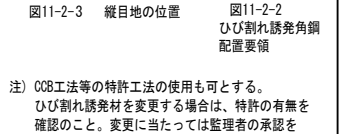


図11-2-3 縦目地の位置

図11-2-2 ひび割れ誘発角隅配置要領

- はね出しスラブ及び外部立上り壁のひび割れ誘発目地  
(1) 庇、バルコニー等のはね出しスラブ及びパラベット、手摺壁等の立上り壁には3m以内にひび割れ誘発目地を設け、両側り部分には防水措置をほどこす。
- パラベット、手摺壁等のコンクリートは原則として下部躯体と一体打ちとする。但し、打継ぎを行う場合はコンクリート打設時にスラブより100mm上までをスラブと一体に打設し、打継ぎ部分には水平目地を設け防水措置を施す。

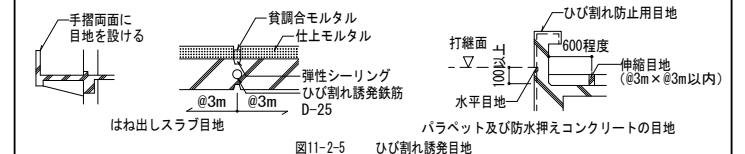


図11-2-5 ひび割れ誘発目地

12. 梁貫通孔の補強

- 12-1 一般事項
- 1) 梁貫通孔の補強は特記による。特記がなければ下記による。梁貫通孔補強筋の名称などは、図12-1-1による。
  - 2) 孔の径は、梁成の1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外径とする。
  - 3) 孔の上下方向の位置は、図12-1-2による。
  - 4) 孔の中心位置の限度は、柱及び直行する大梁の面から原則として1.2D (Dは、梁成) かつ1000mmのうち、小さい方の値以上とする。(図12-1-3)
  - 5) 孔が並列する場合は、その中心間隔は孔の径の平均値の3倍以上とする(図12-1-3)。
  - 6) 孔の径が梁成の1/10以下かつ150mm以下のものは、補強を省略することができる(孔両側のあばら筋が設計ピッチを超える場合は孔の両側にあばら筋を2巻き配筋する)。

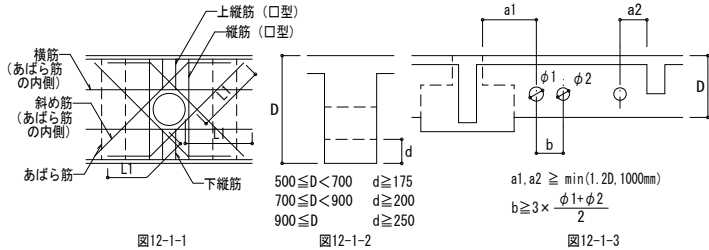


図12-1-1 補強要領  
人通り補強は図示による。図示の無い場合は表12-2による。

表12-2 人通り補強要領

補強筋	地中梁	地中小梁
斜筋	8-2-D25	4-2-D25
横筋	4-D25	2-D25
縦筋	2-Ⅲ-D16	2-Ⅲ-D16
上下縦筋	D16-○@100以内	D13-○@100以内

注) 配筋の表示の凡例は、表12-3-3による。

12-2 一般の梁貫通孔 (400φ以下) の補強要領

表12-3-1 補強種別

400φ以下の梁貫通孔の補強要領は、梁のあばら筋量 (表12-3-4) に応じ、表12-3-1、表12-3-2による。

梁成 cm	30				40				50				60				70				80			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D
50	1	1	2	2	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
55	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
60	1	2	2	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
65	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
70	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
75	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
80	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
85	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
90	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
95	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
100	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
105	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
110	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
115	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
120	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
125	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
130	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
135	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3
140	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	3	3

注1) A~Fは表12-3-4の梁のあばら筋を示す。

注2) 1~7の数字は表12-3-2における補強種別を示す。数字が8の場合の補強は特記による。

注3) 梁成、梁幅、あばら筋、貫通孔径が上表の中間にある場合は補強量の多い方を採用する。

表12-3-2 補強要領

補強種別	斜め筋	縦筋	横筋	上・下縦筋	配筋図
1	2-2-D13	なし	なし	なし	
2	2-2-D13	なし	なし	なし	
3	4-2-D13	A~D: 2-○-D13 E: 2-○-D13	A~D: 2-D13 E, F: 2-D16	A~D: 2-○-D13 E: 2-○-D13	
4	4-2-D16	F: 2-Ⅲ-D13	なし	F: 2-Ⅲ-D13	
5	4-2-D16	A~D: 2-○-D13	A~D: 2-D13	A~D: 2-○-D13	
6	4-2-D19	E: 2-○-D13	E, F: 2-D16	E: 2-○-D13	
7	4-2-D22	F: 2-Ⅲ-D13	なし	F: 2-Ⅲ-D13	

注1) A~Fは表12-3-4の梁のあばら筋を示す。

表12-3-3 配筋の表示

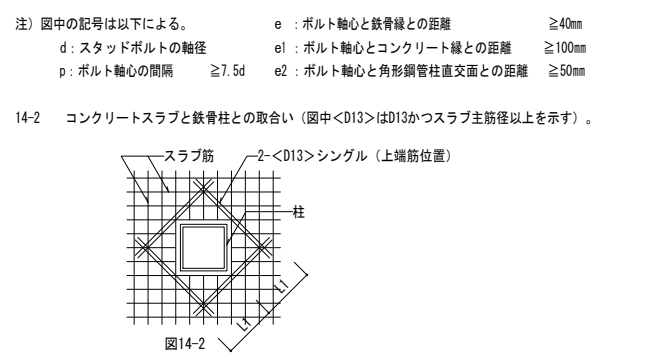
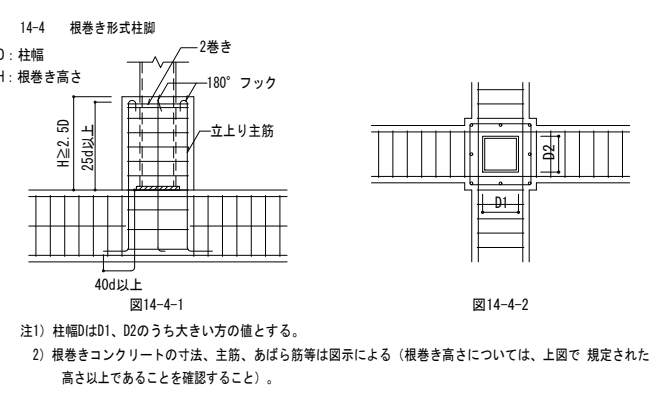
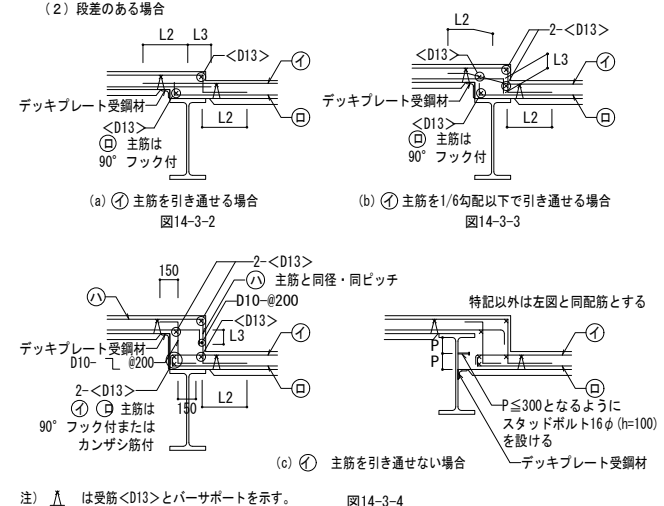
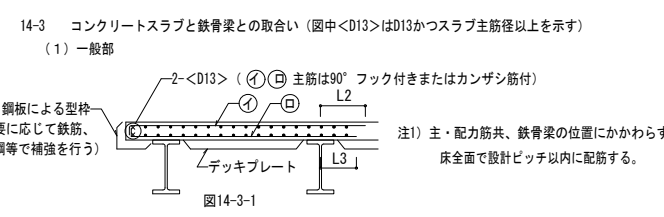
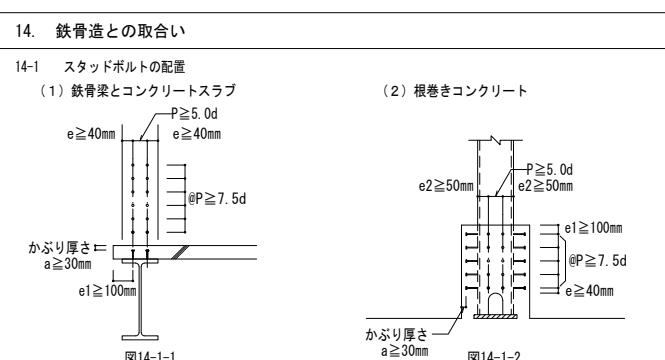
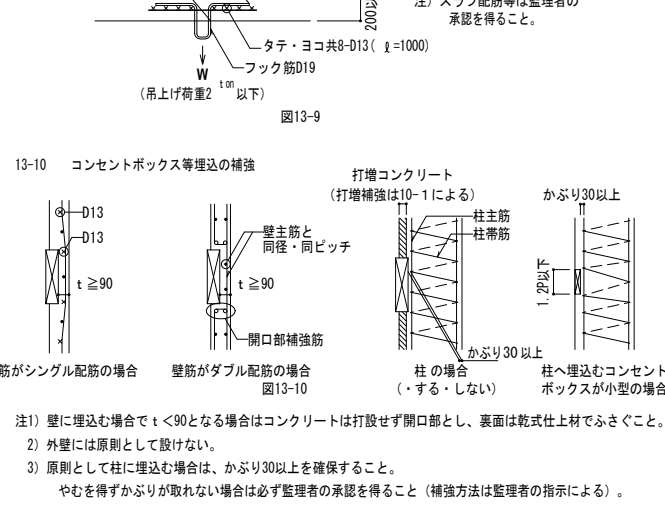
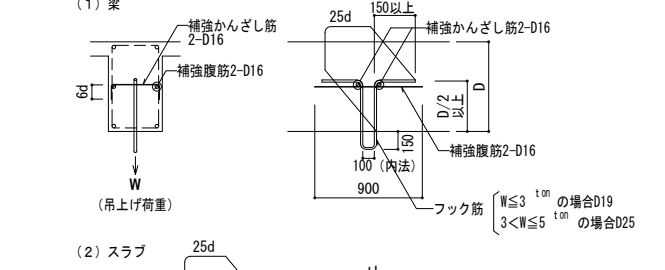
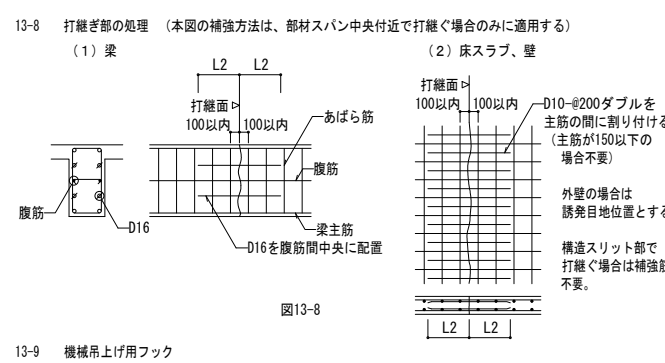
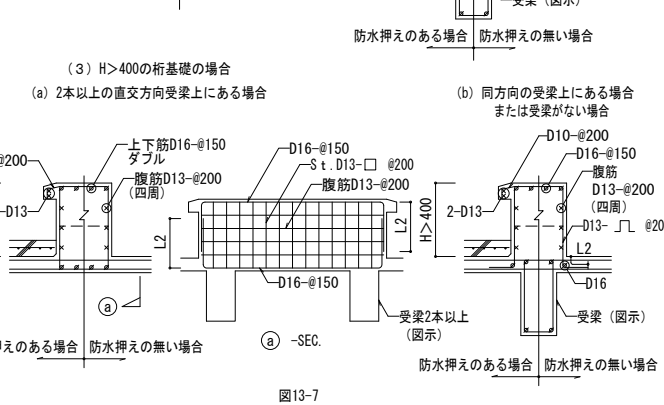
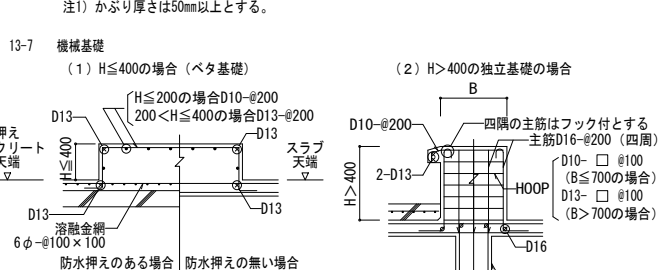
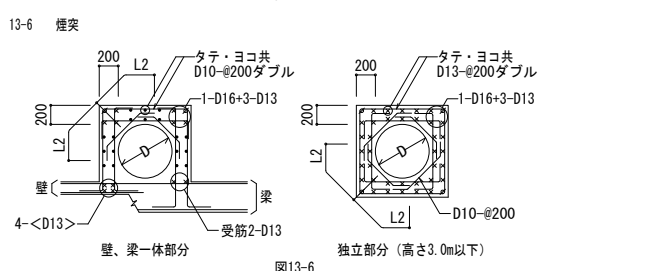
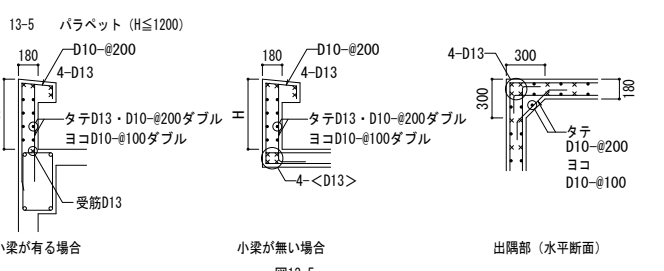
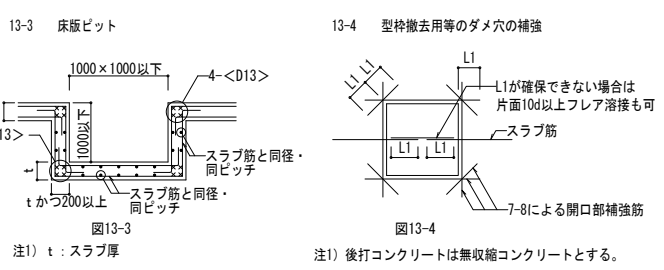
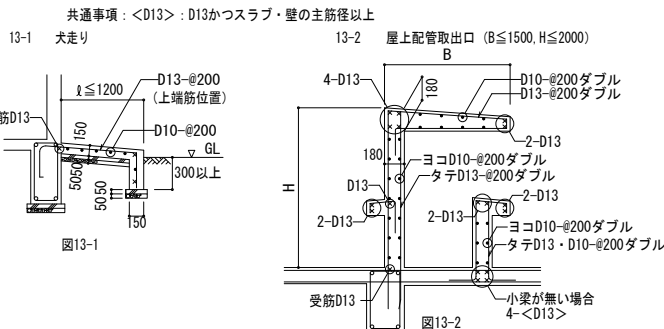
凡例	配筋
斜め筋	4-2-D22 4本のD22が2面入ることを示す
縦筋	2-Ⅲ-D13 4本のD13があばら筋状に孔の両側に2本ずつ入ることを示す
横筋	2-D16 孔の上下の部分にそれぞれD16が2本ずつ入ることを示す
上下縦筋	3-○-D13 孔の上下の部分にそれぞれD13のあばら筋が3本入ることを示す

表12-3-4 梁のあばら筋

A	B	C	D	E	F
D10-○@150, 200	D10-○@125	D10-○@100	D13-○@100, 125	D16-○@150	D16-○@100
D13-○@200	D13-○@150	D13-○@100	D13-○@100	D13-○@100	D16-○@100

12-4 既製品を用いる場合  
梁貫通孔補強材として、既製品を使う場合は(財)日本建築センターの評価を取得した製品を用い、構造計算等を事前に監理者に提出する。

13. 雑配筋 (構造図に配筋詳細図の無い場合、当配筋図による)







溶接接合

1. 溶接継手標準

表-1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号

分類		記号
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接	
	セルフシールドアーク半自動溶接	
	サブマージアーク自動溶接	
	エレクトロスラグ溶接	
溶接継手	完全溶込み溶接	B
	突合わせ継手	
	T形継手	
	かど継手	L
	隅肉溶接	F
溶接面	部分溶込み溶接	P
	フレア溶接	FL
	片面溶接	1
	両面溶接	2

表-2 溶接の補助記号

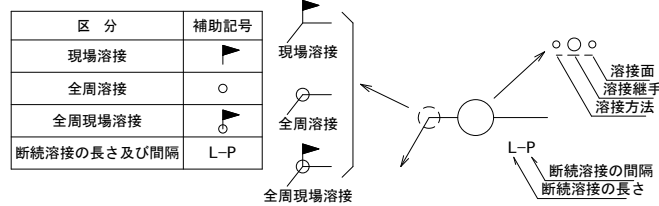


表-3 余盛り高さの限度

溶接継手	溶接方法	余盛り高さの限度 (単位: mm)
突合わせ継手	手溶接	3
かど継手	半自動溶接	4
	自動溶接	4
隅肉溶接	手溶接	3
フレア溶接	半自動溶接	3

補強隅肉溶接

T型継手、かど継手（両面溶接）及び部分溶込み溶接の場合には、補強隅肉を付加し、そのサイズは、突合わせる板厚の1/4以上かつ10mm以下とする。

(単位: mm)

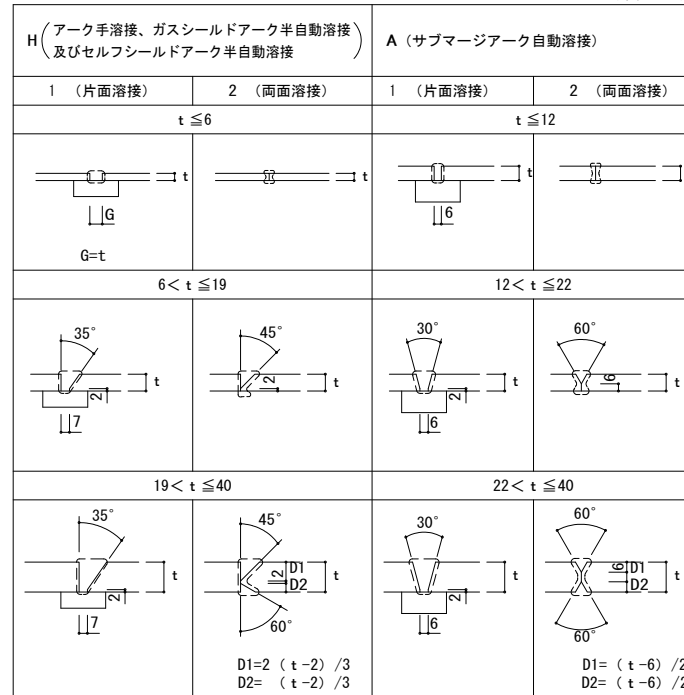


図-1 突合わせ継手の開先標準 (B)

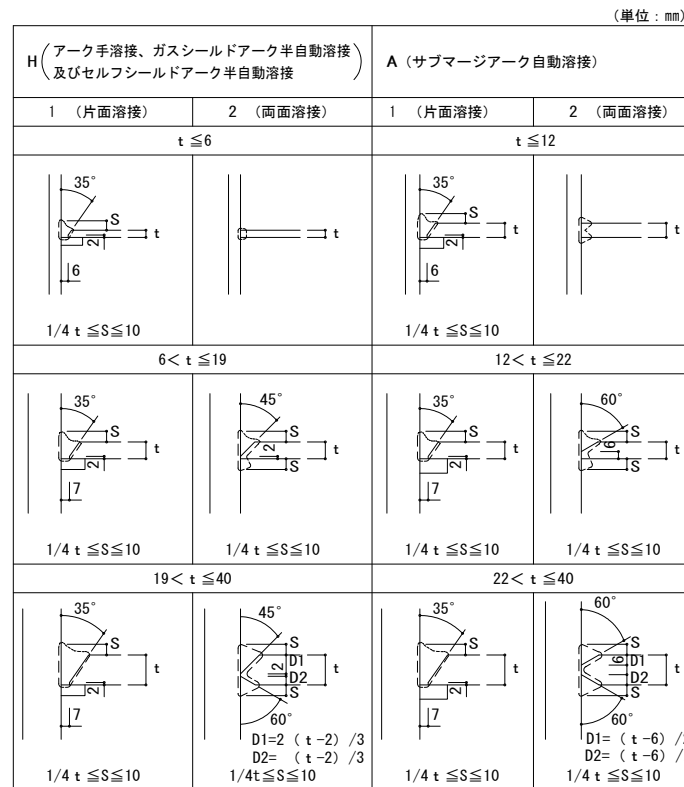


図-2 T型継手の開先標準 (T)

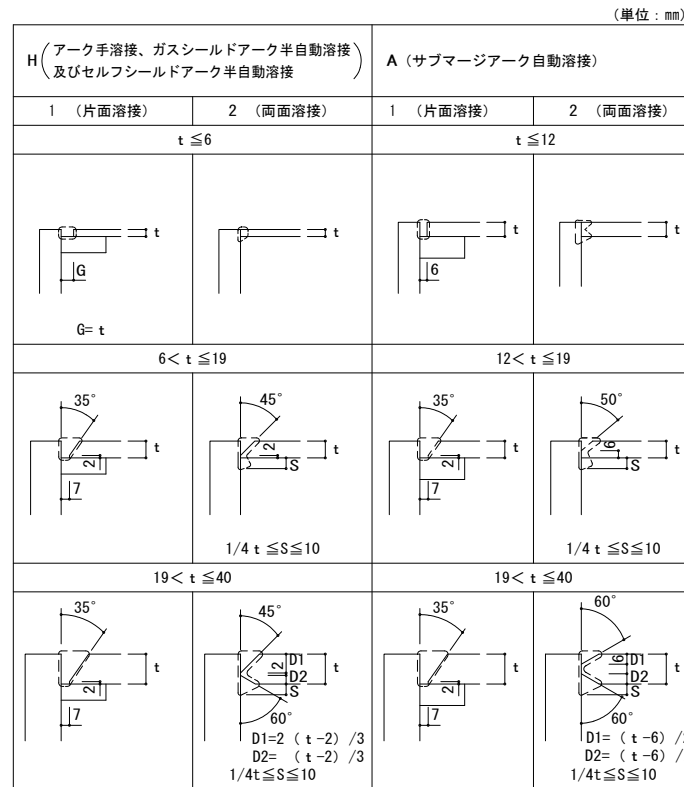


図-3 かど継手の開先標準 (L)

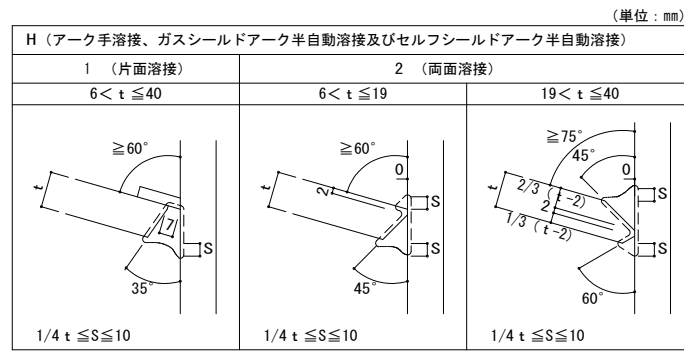


図-4 部材が直行しない場合の開先標準 (T)

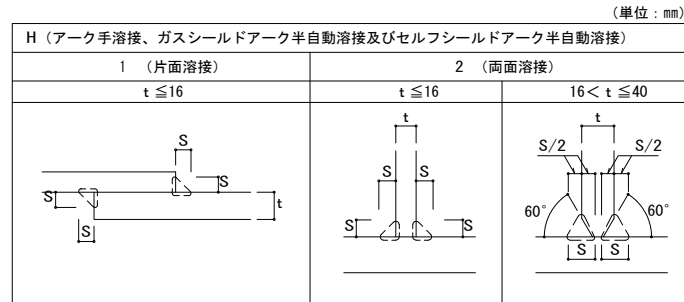


図-5 隅肉溶接の開先標準 (F)

表-4 隅肉溶接サイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

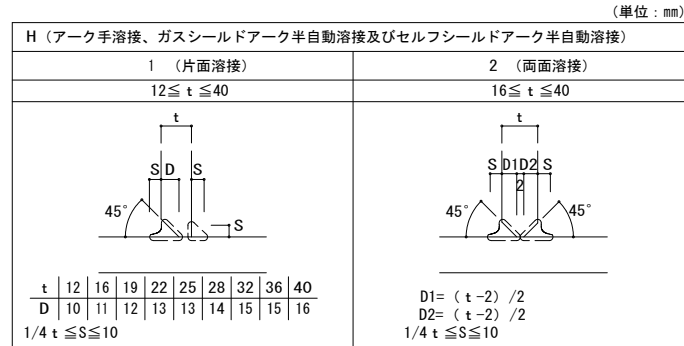


図-6 部分溶込み溶接の開先標準 (P)

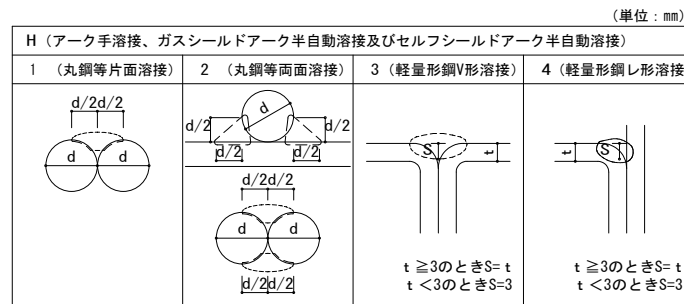


図-7 フレア溶接の開先標準 (FL)

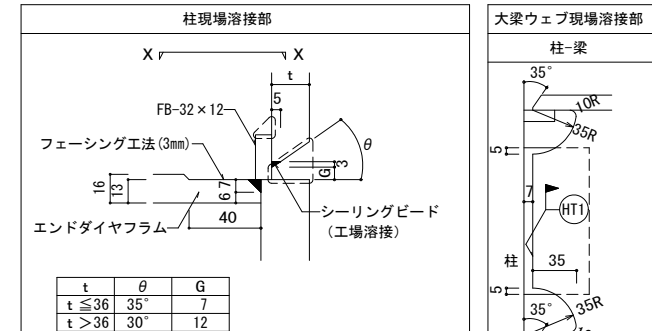


図-8 柱現場溶接部継手標準図

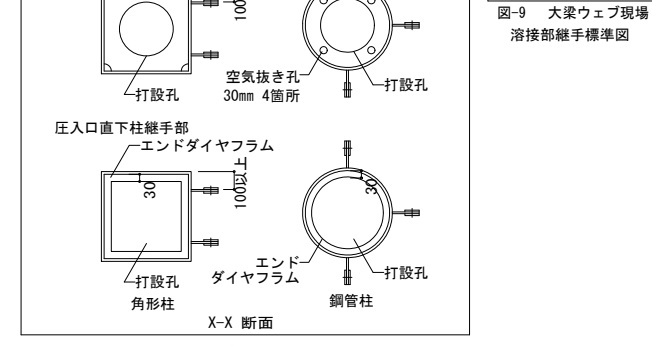


図-9 大梁ウェブ現場溶接部継手標準図

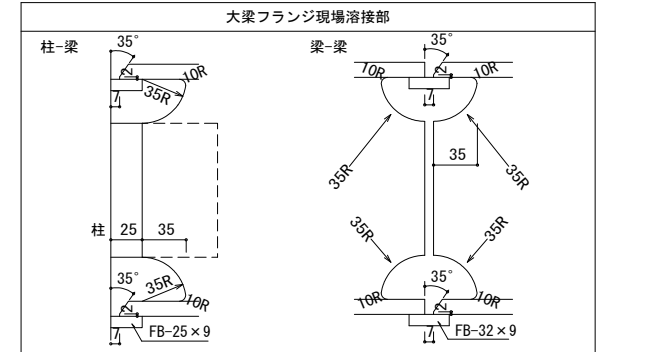


図-10 大梁フランジ現場溶接部継手標準図

- 現場溶接の特記事項
- 溶接部は可能な限り連続して行う様にする。
  - スカラップ加工はフランジ部にノッチを与えない様、充分に注意しフランジの交差部にはRを付けグラインダー仕上げを施す。改良スカラップの複合円は滑らかに仕上げる。
  - 開先部は溶接の支障のない塗料等による防錆処理を行う。開先の仕上げは自動ガス切断仕上げ以上とする。
  - エンドタブの仮付は原則として溶接直前にする。
  - 裏当ての鋼板は表面に損耗が生じた時には再研磨し裏波にピート形状の不整を防ぐ。
  - 原則としてエンドタブはノッチの生じない様に5mm残してガス切断し、平滑に仕上げる。
  - 溶接部には氏名、溶接日時等を記入、責任の所在を明らかにしておく。

・BOX柱ダイヤフラム

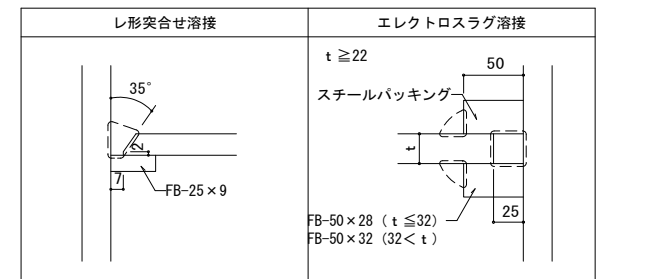
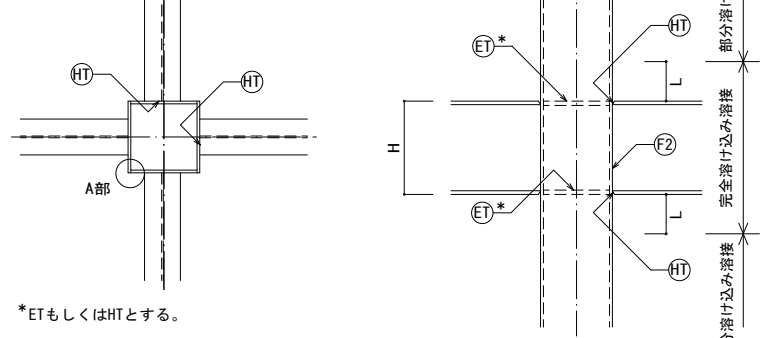


図-11 BOX柱ダイヤフラム溶接部標準図

2. 各部標準詳細

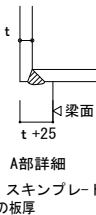
(1) 溶接組み立て箱型断面柱

a) 仕口部標準詳細図



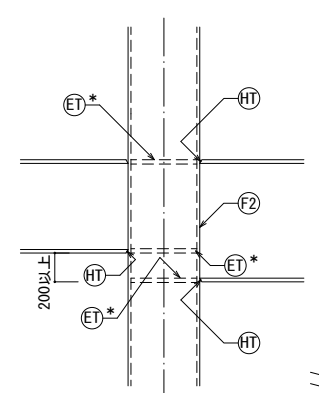
\*ETもしくはHTとする。

- イ. ダイアフラムの板厚は原則として22mm以上とし、取り付く梁フランジ最大板厚の1サイズUPとする。
- ロ. ダイアフラムの材質は取り付く梁フランジの材質のうち高強度のものと同等以上とする。
- ハ. スキンプレートはSN鋼材C鋼種とする。
- ニ. 角継手の溶接は仕口部およびその上下Lの範囲は完全溶け込み溶接とし、それ以外は部分溶け込み溶接とする。ただし、(※300mmかつ柱せい/2)とする。
- ホ. 上下柱の板厚は同厚とし、柱板厚の変化は現場溶接継手部の位置とする。
- ヘ. 梁フランジ取り付け位置はスキンプレート板厚+25mmの範囲を避ける。
- ト. エレクトロスラグ溶接部の検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査」に準じて垂直探傷法にて行う。
- チ. 付属金物は、原則として溶接部のビードに干渉しないように取り付ける。



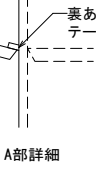
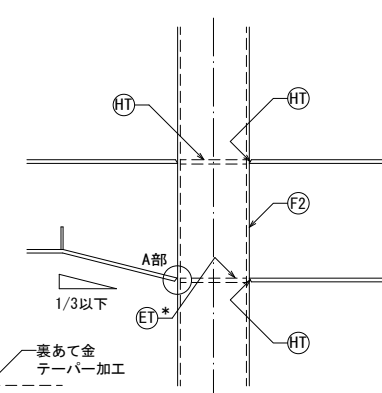
b) 梁段差標準詳細図

(A) ダイアフラムが多段になる場合



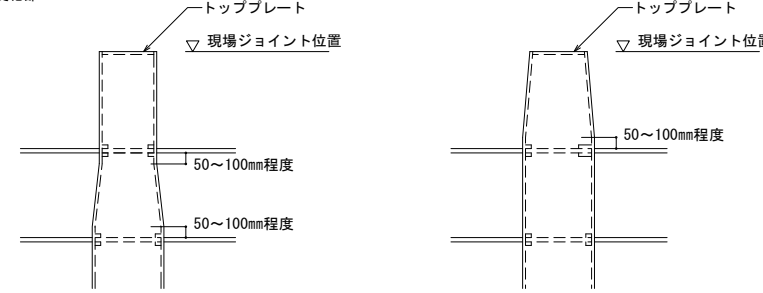
\*ETもしくはHTとする。

(B) 鉛直ハンチ形式



- イ. 梁段差によるダイアフラム間の寸法は200mm以上とする。
- ロ. 梁フランジの段差が200未満となる場合は垂直ハンチ形式とし、ダイアフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をテーバー加工する。
- ハ. 鉛直ハンチを形式とする場合、梁ハンチ勾配は1/3以下とする。

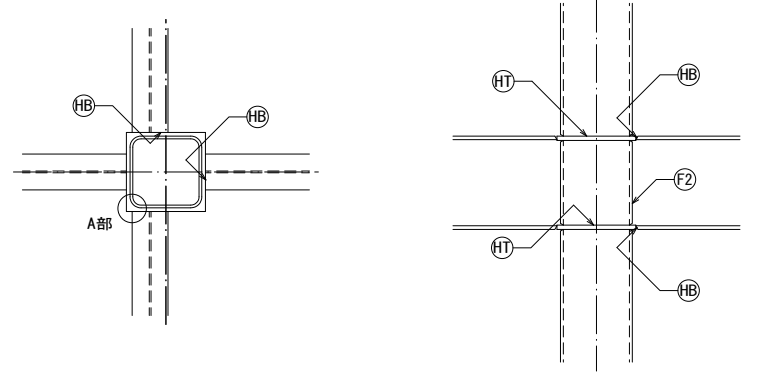
c) 断面変化部



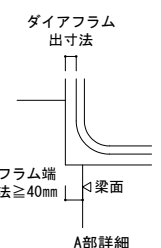
・柱外径を絞る場合はテーバー部分がエレクトロスラグ溶接部およびその裏あて金にかからないこととする。

(2) 角形鋼管柱詳細図 (通しダイアフラム形式)

a) 仕口部標準詳細図

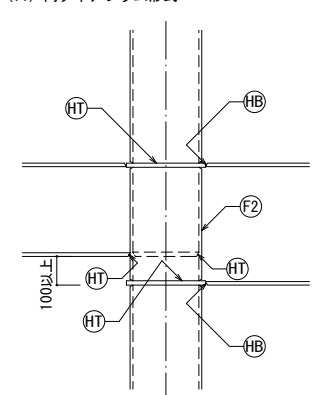


- イ. ダイアフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の2サイズUP、かつ柱板厚以上とする。
- ロ. ダイアフラムの寸出法は25mm (柱板厚28mm未満)、30mm (柱板厚28mm以上)とする。
- ハ. ダイアフラムの材質は柱、梁フランジの材質のうち高強度のもの以上とし、SN鋼材C鋼種とする。
- ニ. 仕口パネルの板厚は上下の柱の板厚以上とする。
- ホ. 仕口パネルの材質は上下柱の材質のうち高強度のものと同等以上とする。
- ヘ. 梁の偏心はダイアフラムの端より40mmまでとする。

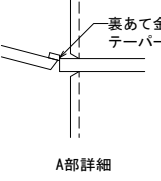
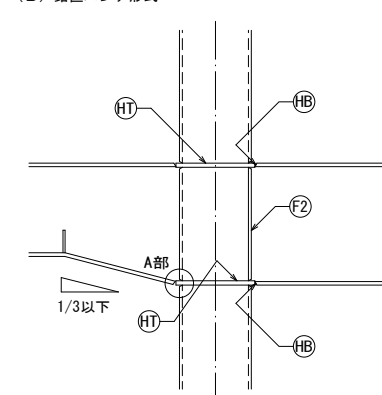


b) 梁段差標準詳細図

(A) 内ダイアフラム形式



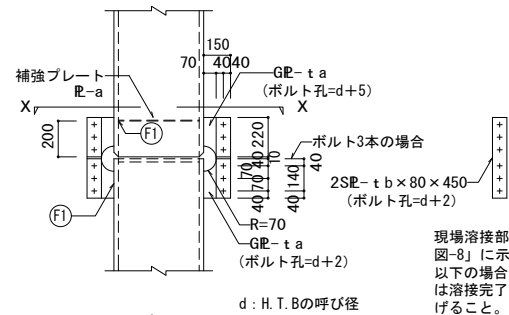
(B) 鉛直ハンチ形式



- イ. 梁段差によるダイアフラム間の寸法は100mm以上とする。
- ロ. ダイアフラムが3枚以上の場合、中段にセットされるダイアフラムは内ダイアフラム形式とする。
- ハ. 内ダイアフラム形式とする場合、ダイアフラム材質は上下柱および取り付く梁の材質のうち高強度のものと同等以上、板厚は取り付く大梁フランジ最大板厚の1サイズアップとする。
- ニ. 梁段差の仕口で梁が偏心する場合、鉛直ハンチを設けるか、段差部を通しダイアフラムとする。
- ホ. ダイアフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をテーバー加工する。
- ヘ. 鉛直ハンチ形式とする場合、梁ハンチ勾配は1/3以下とする。

(4) 各部詳細図

a) エレクションピース

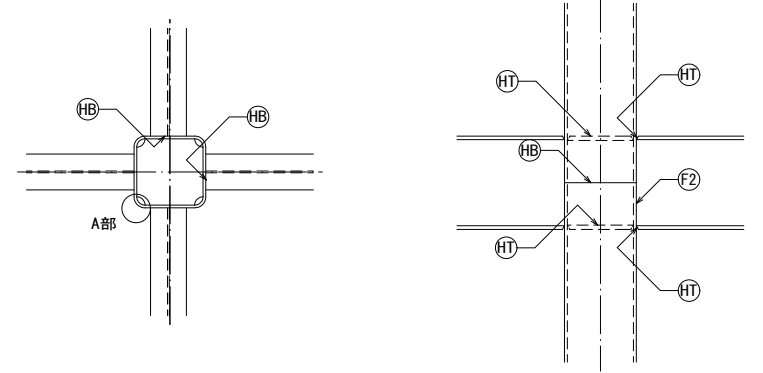


エレクションピースリスト

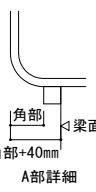
柱の最大板厚 t	GR-t a	2SR-tb	H.T.B
t ≤ 19	GR-16	2SR-9	2-M20
19 < t ≤ 40	GR-19	2SR-12	3-M20
40 < t	GR-22	2SR-16	3-M22

(3) 角形鋼管柱詳細図 (内ダイアフラム型)

a) 仕口部標準詳細図

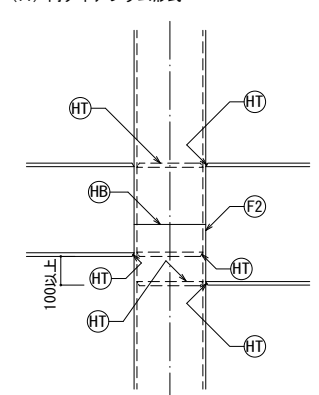


- イ. ダイアフラムの板厚は取り付く梁フランジ最大板厚の1サイズUPとする。
- ロ. ダイアフラムの角部はスカラップ加工とする。
- ハ. ダイアフラムの材質は取り付く梁フランジの材質のうち高強度のものと同等以上とする。
- ニ. 柱板厚の変化は現場溶接継手部の位置とする。
- ホ. 梁の取り付く位置は、角部寸法とエンドタブ長さを確保し、角部には溶接を行わない。
- ヘ. 柱仕口部は同一部材を切断し、切断した方向と同方向で合わせて溶接する。
- ト. ダイアフラムの位置および溶接は、原則として柱の溶接施工前に第三者検査機関による検査を行う。

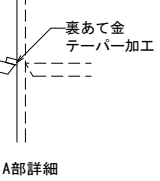
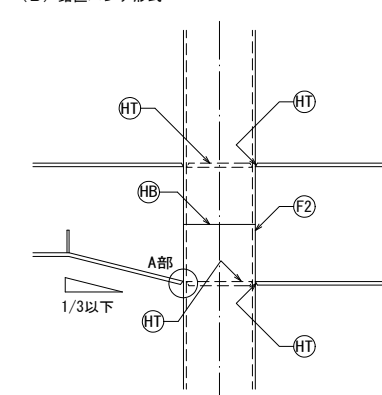


b) 梁に段差が生じる場合

(A) 内ダイアフラム形式

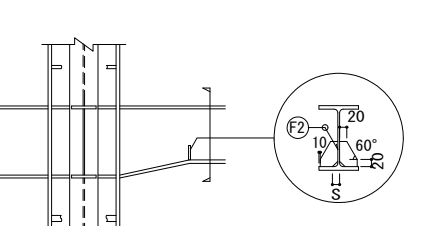


(B) 鉛直ハンチ形式

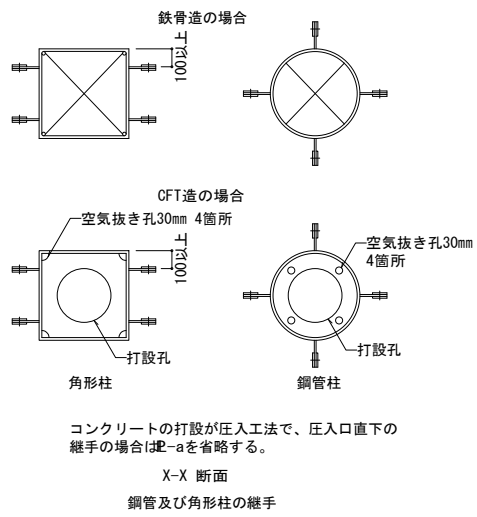


- イ. 梁段差によるダイアフラム間の寸法は100mm以上とする。
- ロ. ダイアフラムに取り付く梁ハンチ端部は裏あて金をテーバー加工する。
- ハ. 鉛直ハンチ形式とする場合、梁ハンチ勾配は1/3以下とする。

b) リブプレート



梁にハンチを設ける場合は左図に示すようリブプレートを付け、板厚はウェブと同厚とする。リブプレートの形状S=10とする。ただしウェブ厚16mmの場合は、S=15とする。



コンクリートの打設が圧入工法で、圧入口直下の継手の場合はaを省略する。  
X-X 断面  
鋼管及び角形柱の継手

3. 溶接作業要領

(1) エンドタブ

エンドタブは、原則として母材と同厚のものを用い、長さは表-1による。  
AW検定協議会代替エンドタブ試験合格者が溶接作業を行う場合は、代替エンドタブの使用可とする。ただしその場合試験に用いたエンドタブと同製品を使用すること。

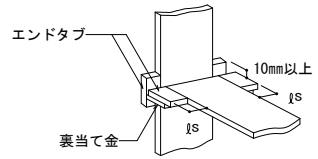
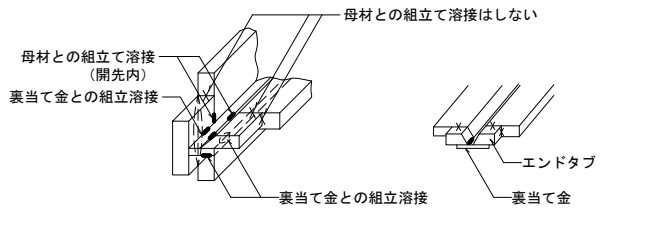


図-1 エンドタブ

表-1 エンドタブの長さ (単位: mm)

溶接方法	ts
手溶接	35 以上
半自動溶接	38 以上
自動溶接	70 以上

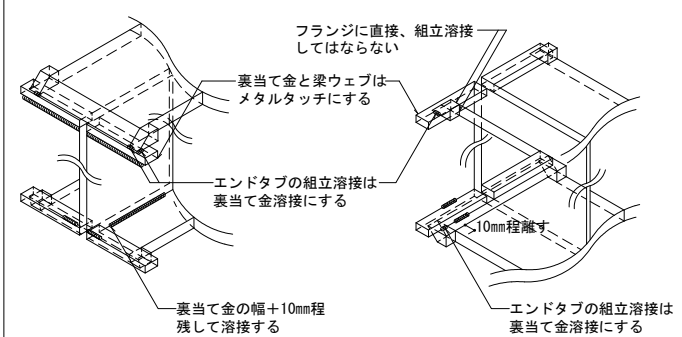
柱梁接合部エンドタブの組立溶接例



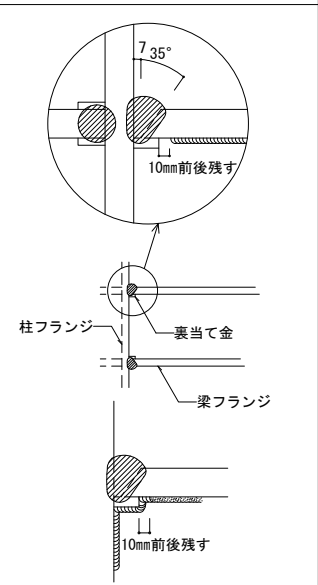
(2) スカラップ

原則としてノンスカラップ工法とする。

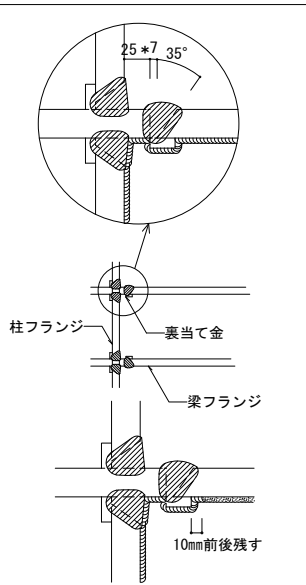
同時組みビルドH梁の場合



柱通し



梁通し



スカラップを設ける場合は、改良型スカラップとする。なお、BH梁のスカラップ端のまわし溶接は行わない。(スカラップ手前10mmで溶接を止めておく)

工場溶接の場合

柱通し形式		梁通し形式	
裏当て金形式	ガウジング形式	裏当て金形式	ガウジング形式

(3) 裏当て金

片面溶接に用いる裏当て金の溶接は、断続隅肉溶接とする。

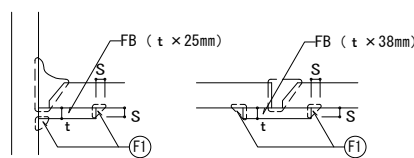


図-2 裏当て金の溶接

表-2 裏当て金の厚さ

(単位: mm)

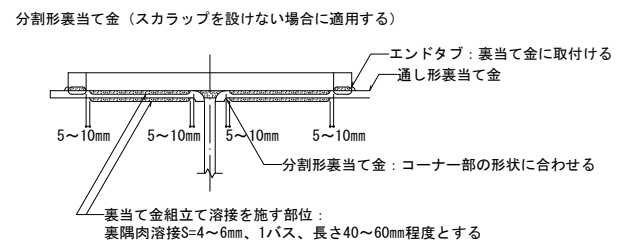
溶接方法	t
手溶接	6 以上
半自動溶接	9 以上
自動溶接	12 以上

表-3 溶接のサイズ

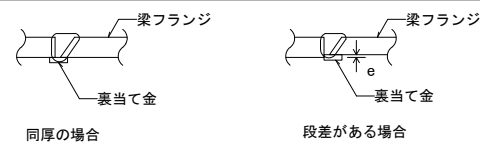
(単位: mm)

裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

エンドタブ、裏当て金の組立て溶接



裏当て金の組立位置



(4) スニップカット

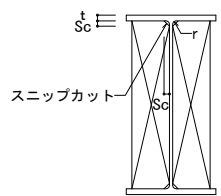


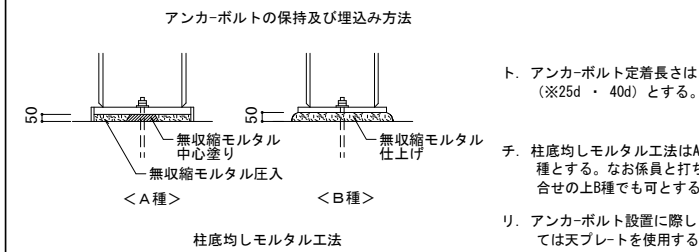
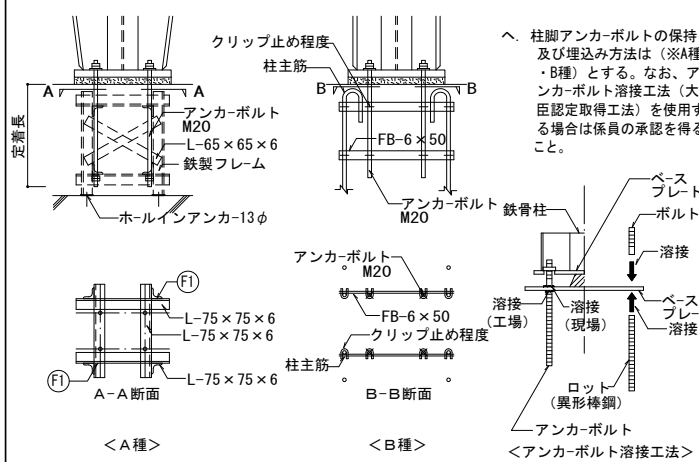
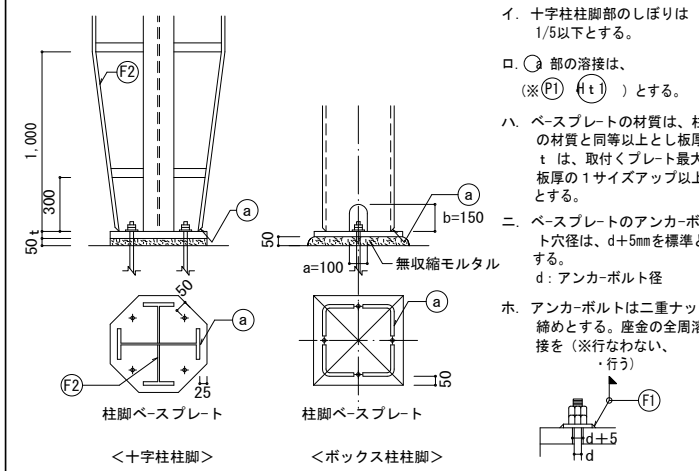
図-3 スニップカット

表-3 スニップカットの寸法

(単位: mm)

t	6	9	12	16 以上
Sc	10	12	14	15

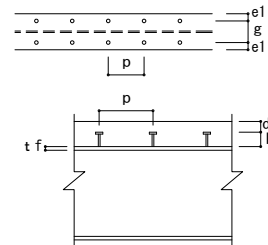
柱脚部標準詳細図



頭付きスタッド溶接

イ. 材料 頭付きスタッドの材料はJIS B1198 (頭付きスタッド) を使用する。  
ロ. はしあき、かぶり等

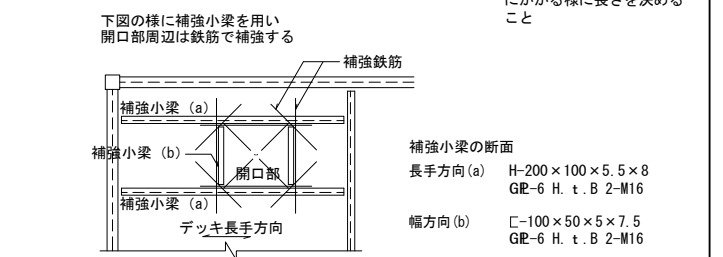
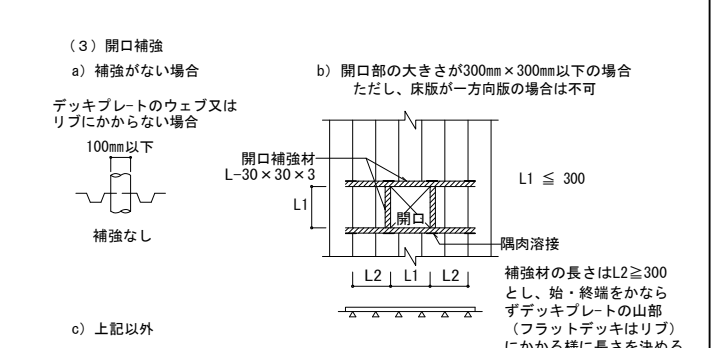
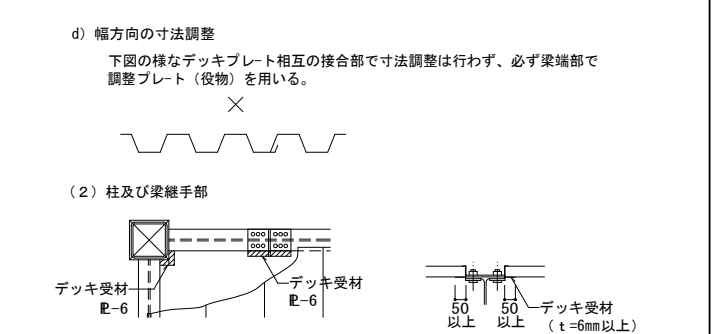
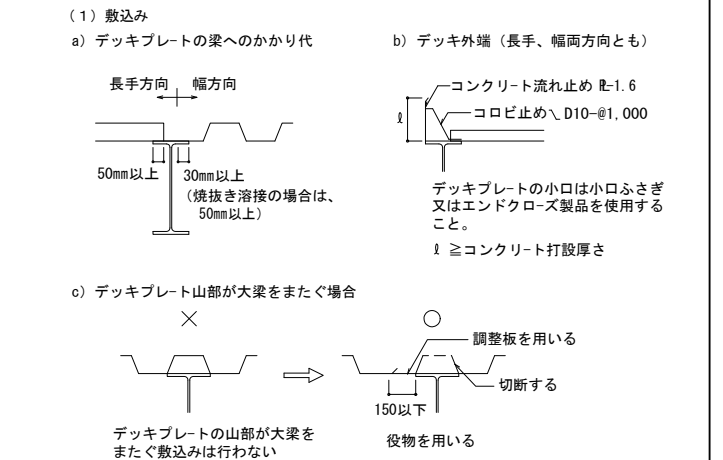
項目	寸法
間隔 (p)	呼び名の7.5倍以上かつ 600mm 以下
最小ゲージ (g)	呼び名の 5 倍以上
へりあき (e1)	40mm 以上
かぶり (dc)	30mm 以上 (あらゆる方向)
径 (d)	2.5 × t 以下 (鉄骨はリウェブ直上に溶接される場合をのぞく)
長さ径比	L/d ≥ 4



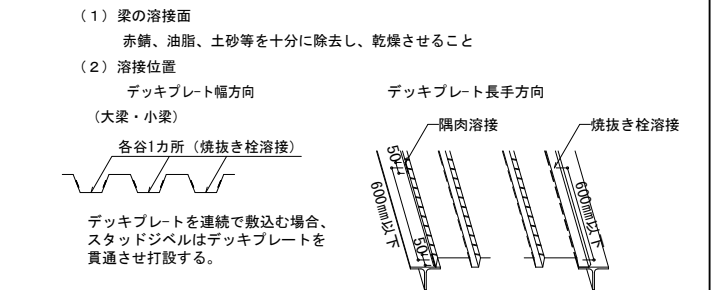
デッキプレート

(特記なき限り、鉄骨工事技術指針、工事現場施工編 (日本建築学会) による) 適用範囲は、JIS系デッキ、フラットデッキとする。

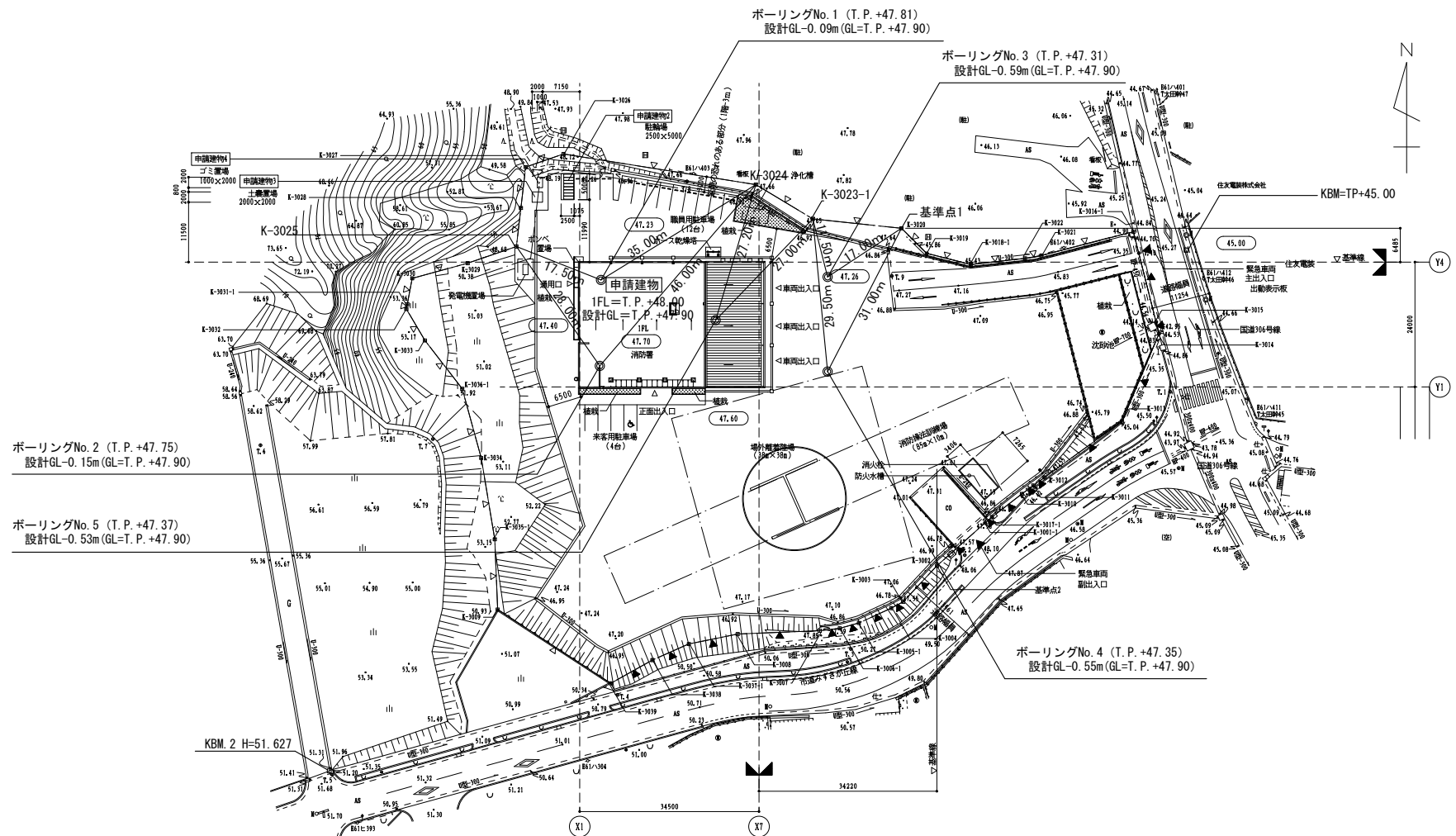
1. デッキプレート標準納まり (フラットデッキも同様とする)



2. 梁との接合





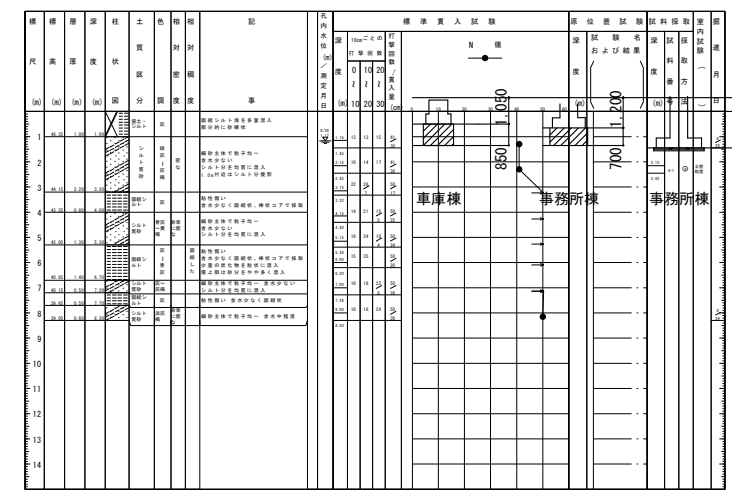


ボーリングNo. 2 (T.P.+47.75)  
設計GL=0.15m (GL=T.P.+47.90)

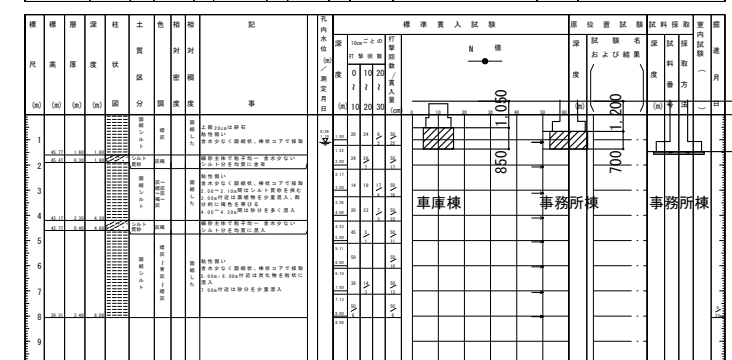
ボーリングNo. 5 (T.P.+47.37)  
設計GL=0.53m (GL=T.P.+47.90)

※外構レベル・建物配置は建築意匠図を参考すること。

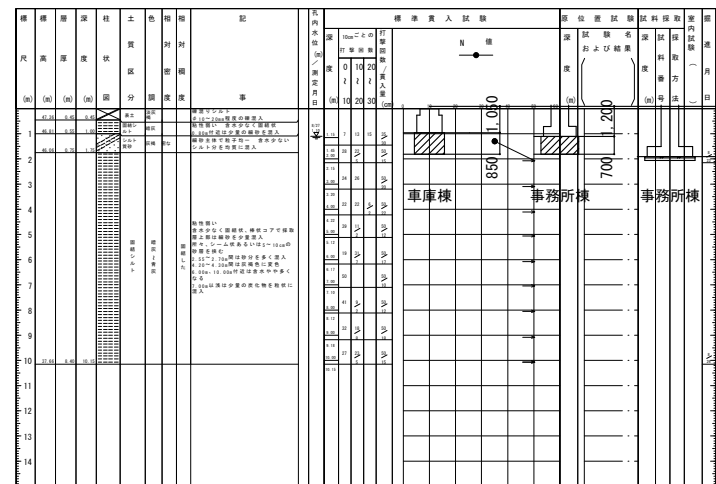
ボーリング名	No. 4	調査位置	亀山市長寿寺町地内	北緯	34° 52' 50.3"
調査時期	平成 25年 8月 28日	調査期間	平成 25年 8月 28日 ~ 25年 8月 30日	東経	136° 28' 21.5"
調査業者名	株式会社 加山建設	調査者	加山 哲也	ボーリング	林本清治
穴口標高	47.35m	調査機	KR-50型	地下層	半自動落下型
調査深さ	8.30m	調査機	NFD-8型	ポンプ	V-4型



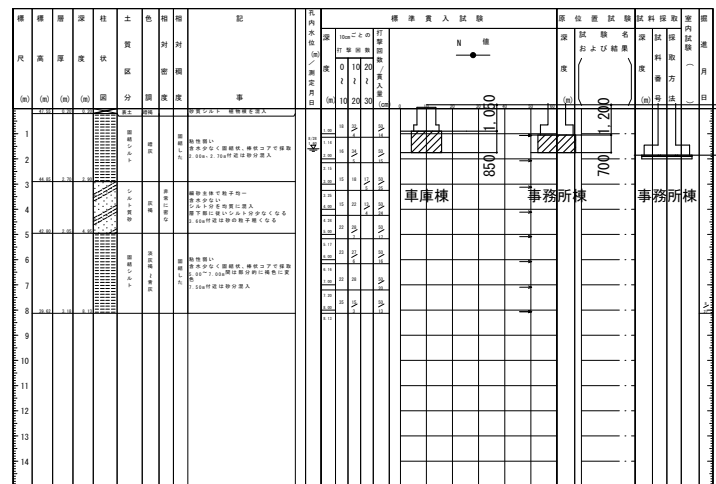
ボーリング名	No. 5	調査位置	亀山市長寿寺町地内	北緯	34° 52' 50.3"
調査時期	平成 25年 8月 27日	調査期間	平成 25年 8月 27日 ~ 25年 8月 29日	東経	136° 28' 20.7"
調査業者名	株式会社 加山建設	調査者	加山 哲也	ボーリング	林本清治
穴口標高	47.37m	調査機	KR-50型	地下層	半自動落下型
調査深さ	8.00m	調査機	NFD-8型	ポンプ	V-4型



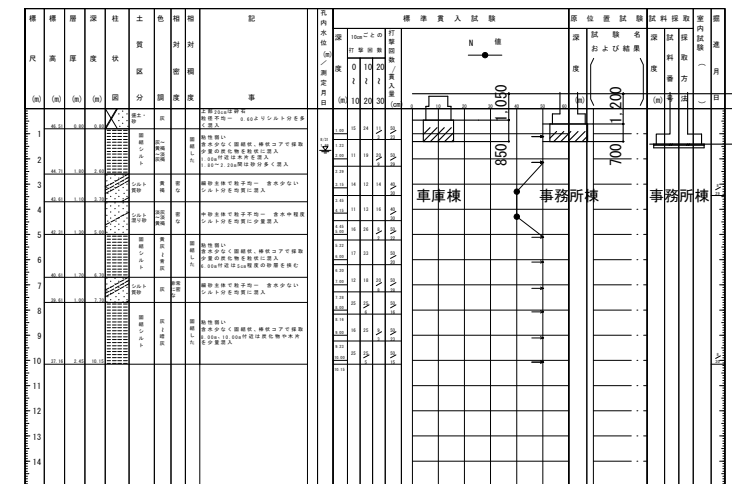
ボーリング名	No. 1	調査位置	亀山市長寿寺町地内	北緯	34° 52' 50.9"
調査時期	平成 25年 8月 23日	調査期間	平成 25年 8月 23日 ~ 25年 8月 27日	東経	136° 28' 19.4"
調査業者名	株式会社 加山建設	調査者	加山 哲也	ボーリング	高橋 一
穴口標高	47.81m	調査機	KR-100PA-3型	ハンマー	半自動落下型
調査深さ	10.15m	調査機	NFD-9K型	ポンプ	V5-P型

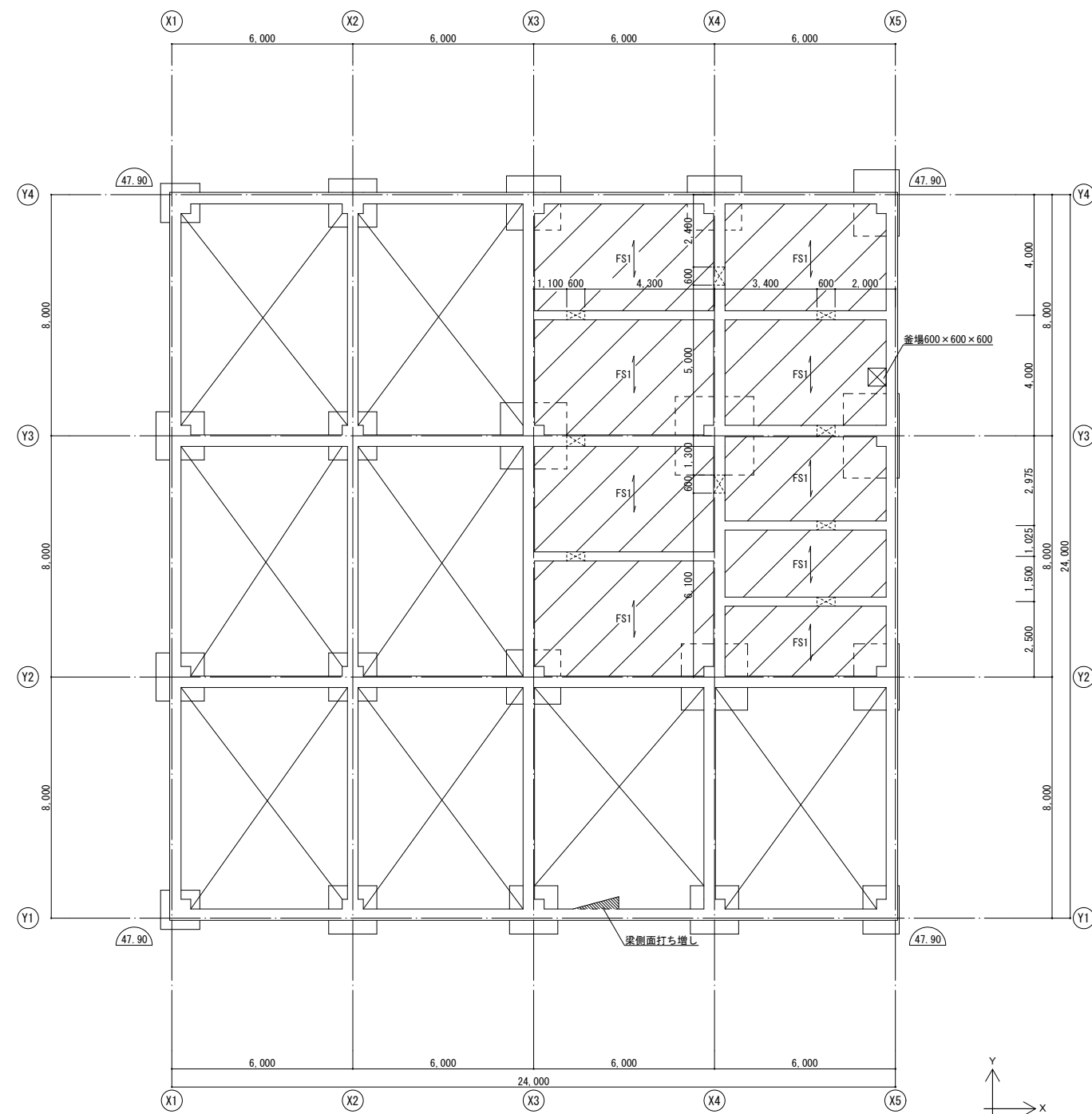
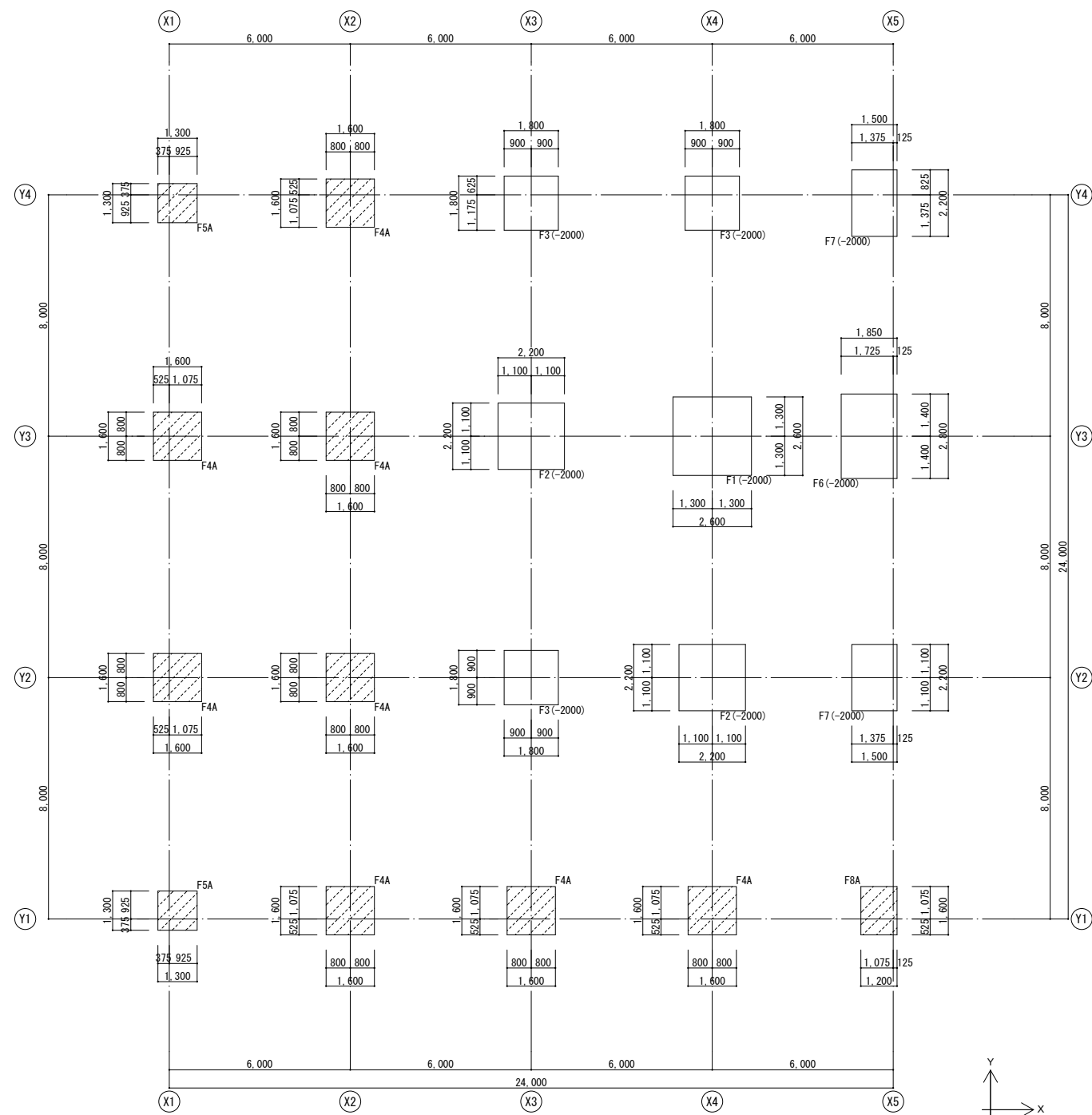


ボーリング名	No. 2	調査位置	亀山市長寿寺町地内	北緯	34° 52' 50.3"
調査時期	平成 25年 8月 27日	調査期間	平成 25年 8月 27日 ~ 25年 8月 28日	東経	136° 28' 19.6"
調査業者名	株式会社 加山建設	調査者	加山 哲也	ボーリング	高橋 一
穴口標高	47.75m	調査機	KR-100PA-3型	ハンマー	半自動落下型
調査深さ	8.13m	調査機	NFD-9K型	ポンプ	V5-P型



ボーリング名	No. 3	調査位置	亀山市長寿寺町地内	北緯	34° 52' 50.9"
調査時期	平成 25年 8月 28日	調査期間	平成 25年 8月 28日 ~ 25年 8月 31日	東経	136° 28' 21.5"
調査業者名	株式会社 加山建設	調査者	加山 哲也	ボーリング	林本清治
穴口標高	47.31m	調査機	KR-50型	ハンマー	半自動落下型
調査深さ	10.15m	調査機	NFD-8型	ポンプ	V-4型





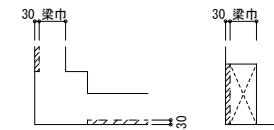
特記事項

- 特記無き限り基礎下端=GL-1,200 (GL=47.90)。  
( ) 内の数値は基礎下端の深さを示す。
- 印は基礎下のラップコンクリートを示す。t=700mm。
- 見下げ図とする。

特記事項

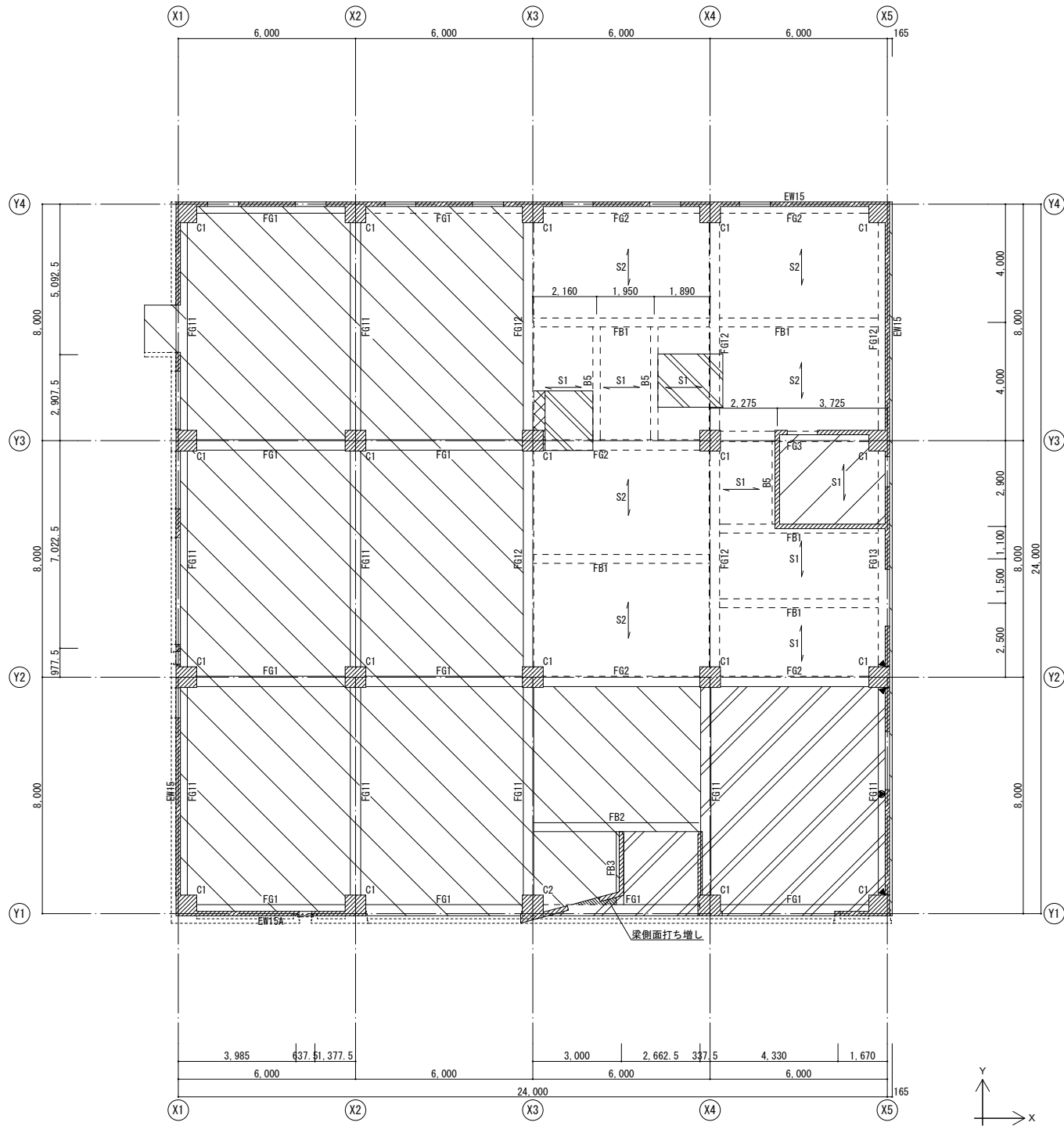
- 特記無き限り地中梁天端はGL-150とする。(GL=47.90)。  
地中梁天端からスラブ天端まで打増しとする。
- 印はスラブ天端GL-1750とする。
- 印は埋戻しを示す。
- 印は外構のレベルを示す。
- 印はスラブ主筋方向を示す。
- 印は人通口600φを示す。
- 見下げ図とする。

8. 柱面と梁面が同一の場所は梁30mm打増しとする。



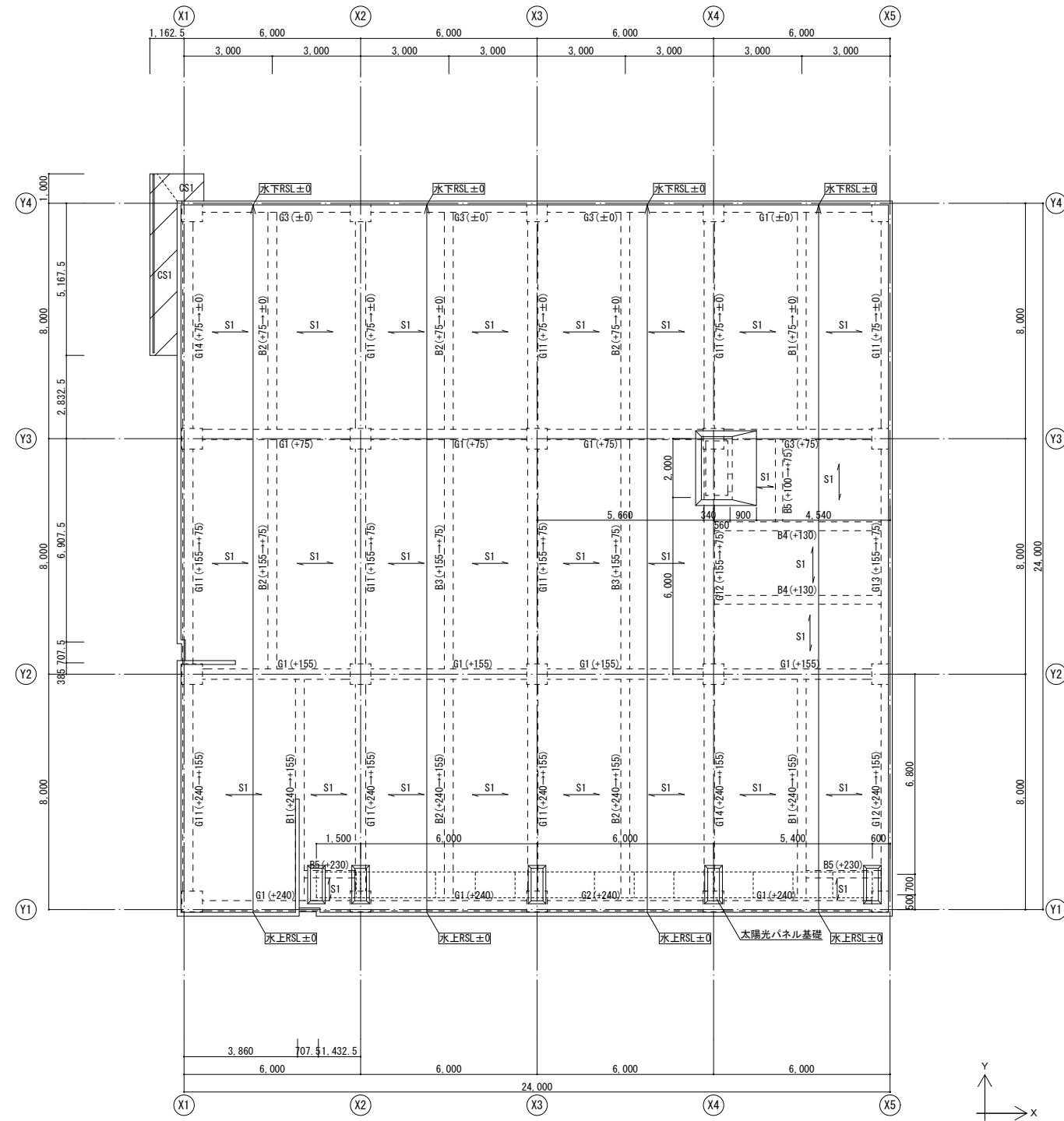
スリーブ表

径 (φ)	梁幅 (mm)		合計
	300	350	
100 φ	0	2	2
200 φ	7	18	25
250 φ	2	2	4
275 φ	0	2	2
600 φ	5	4	9



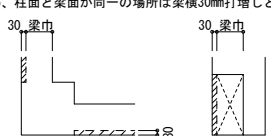
特記事項

1. 特記無き限り壁符号はW15とする。
2. 特記無き限りスラブ天端は1FL-10とする。
3. 印はスラブ天端1FL-200とする。
4. 印はスラブ天端1FL-250とする。
5. 印は土間コンクリート天端1FL-50とする。
6. 印は土間コンクリート天端1FL-10とする。
7. 印はスラブ上打ち増しとする。
8. 土間コンクリートは、t=150mm、両方向共D10-#200(ダブル)、砕石厚150とする。  
土間コンクリート下は十分な締め固めを行うこと。
9. 印は完全スリット型(鉛直)構造壁完全スリット位置を示す。  
 印は完全スリット型(水平)スリット幅は20mmとする。
10. 印はスラブ主筋方向を示す。
11. 印は見下げ図とする。



特記事項

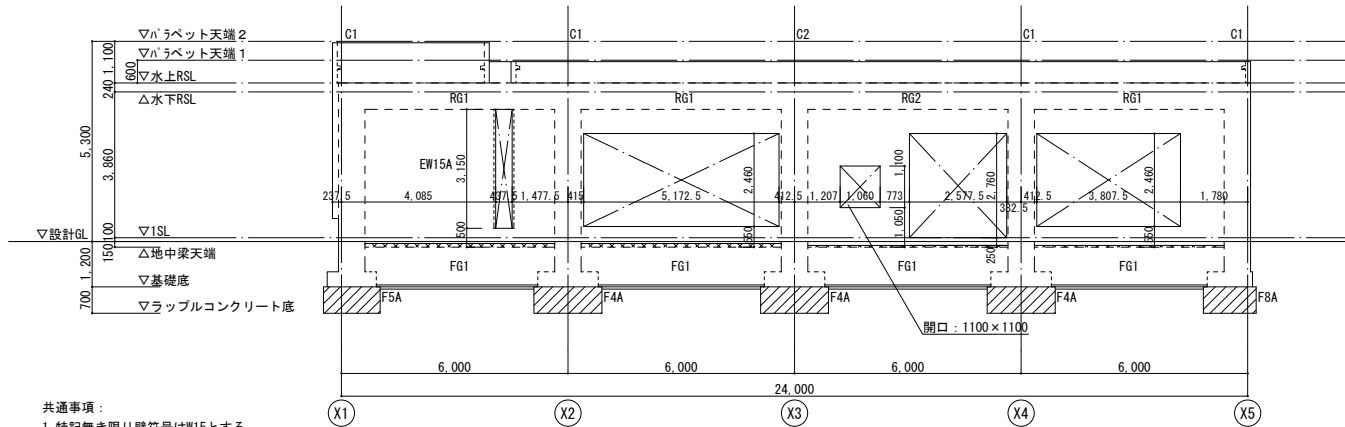
1. は水勾配方向を示す。
2. 印はスラブ天端水RSL-970~990を示す。
3. ( ) 内の数字は水RSLからの梁天端レベルを示す。
4. 印はスラブ主筋方向を示す。
5. 見下げ図とする。
6. 柱面と梁面が同一の場合は梁横30mm打ち増しとする。



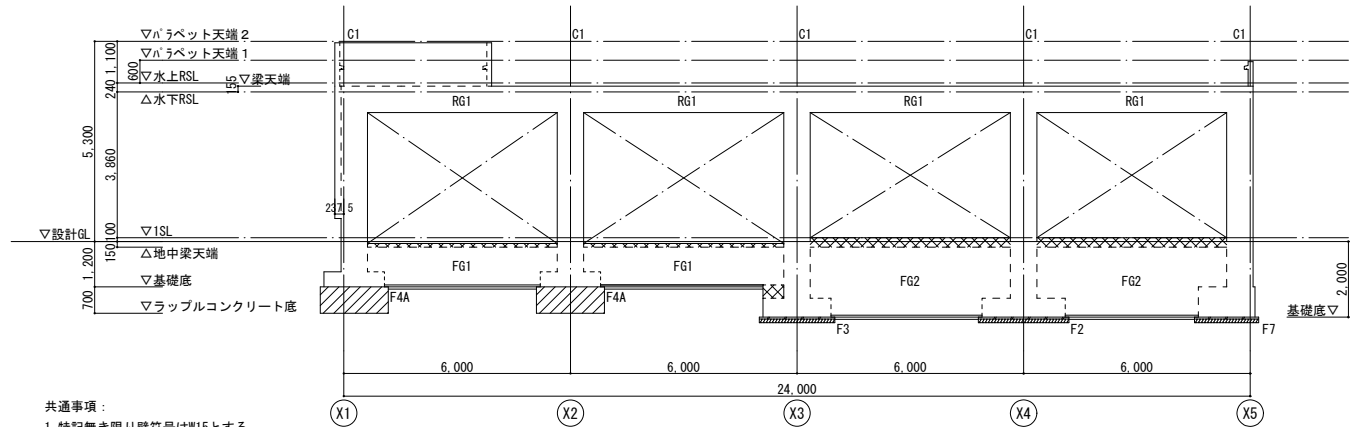
スリーブ表

径(φ)	梁幅(mm)		合計
	300	350	
100φ	12	15	27
200φ	0	16	16
250φ	0	0	0
275φ	3	4	7
600φ	0	0	0

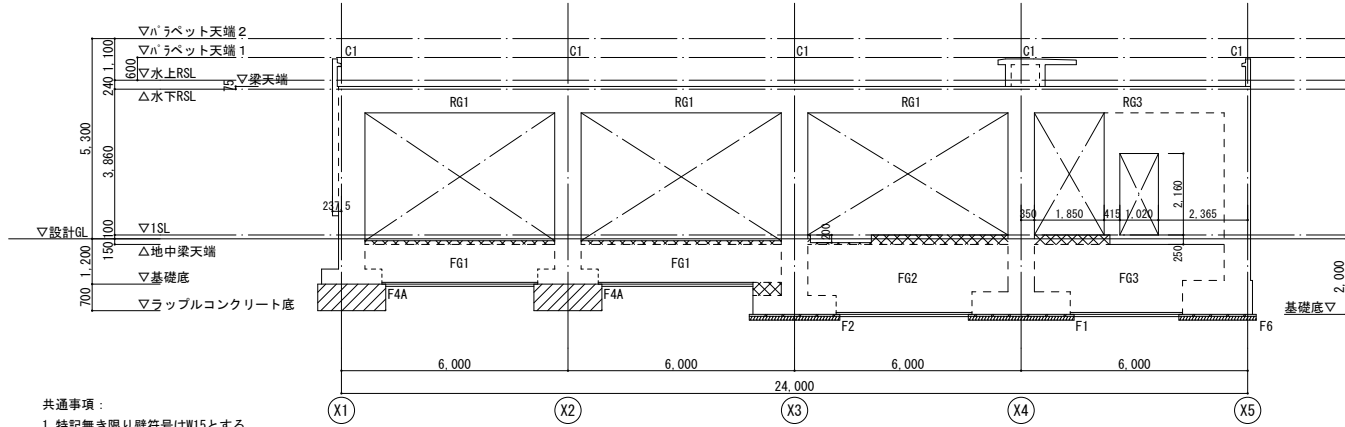




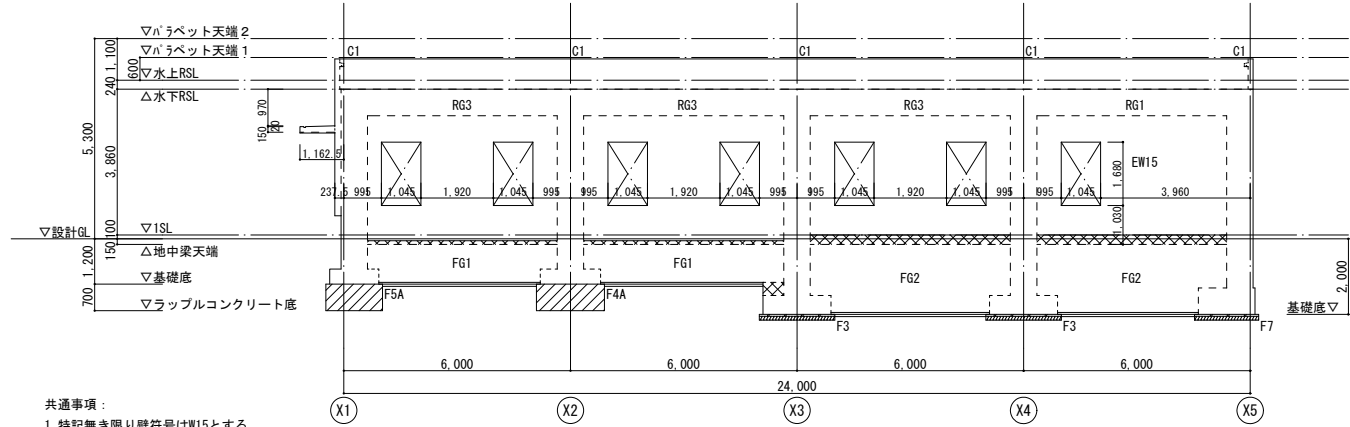
- 共通事項:
1. 特記無き限り壁符号はW15とする。
  2. 特記無き限り地中梁天端から土間コンクリート下端まで打増しとする。
  3. 印は梁上打増の部分を示す。



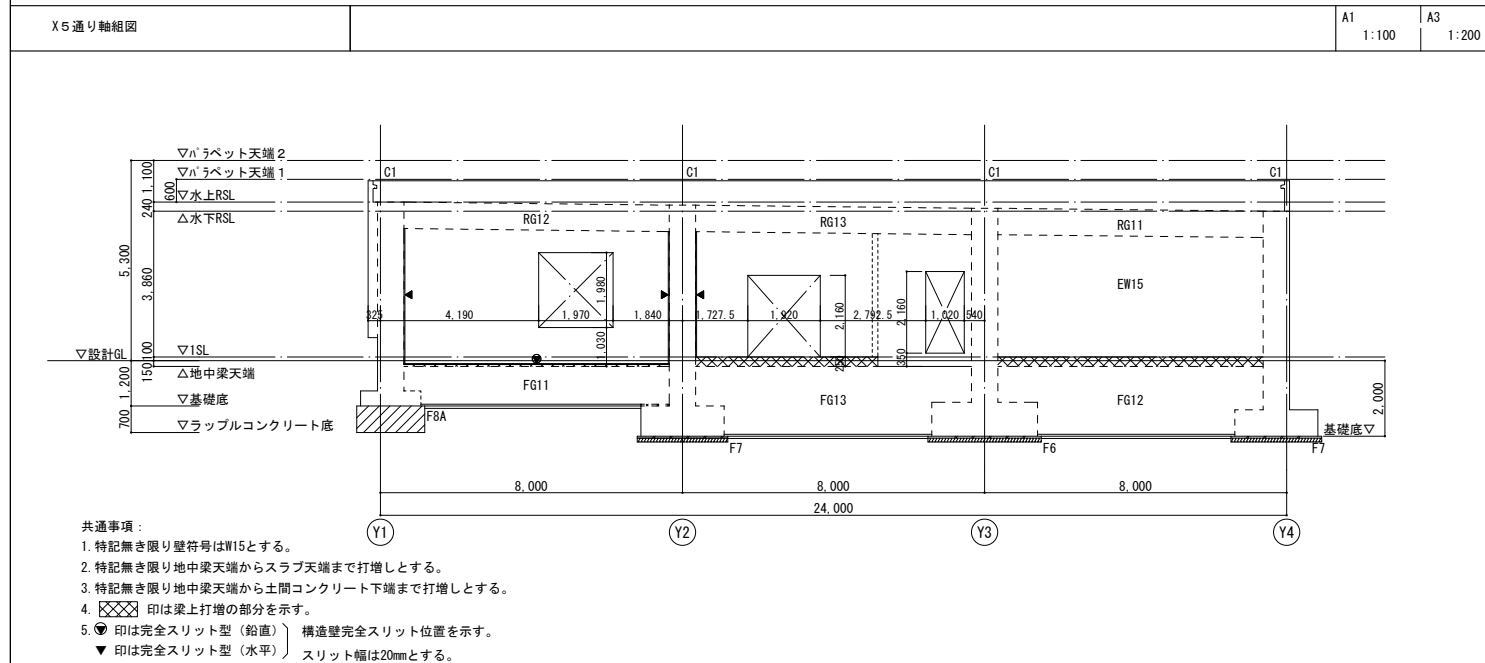
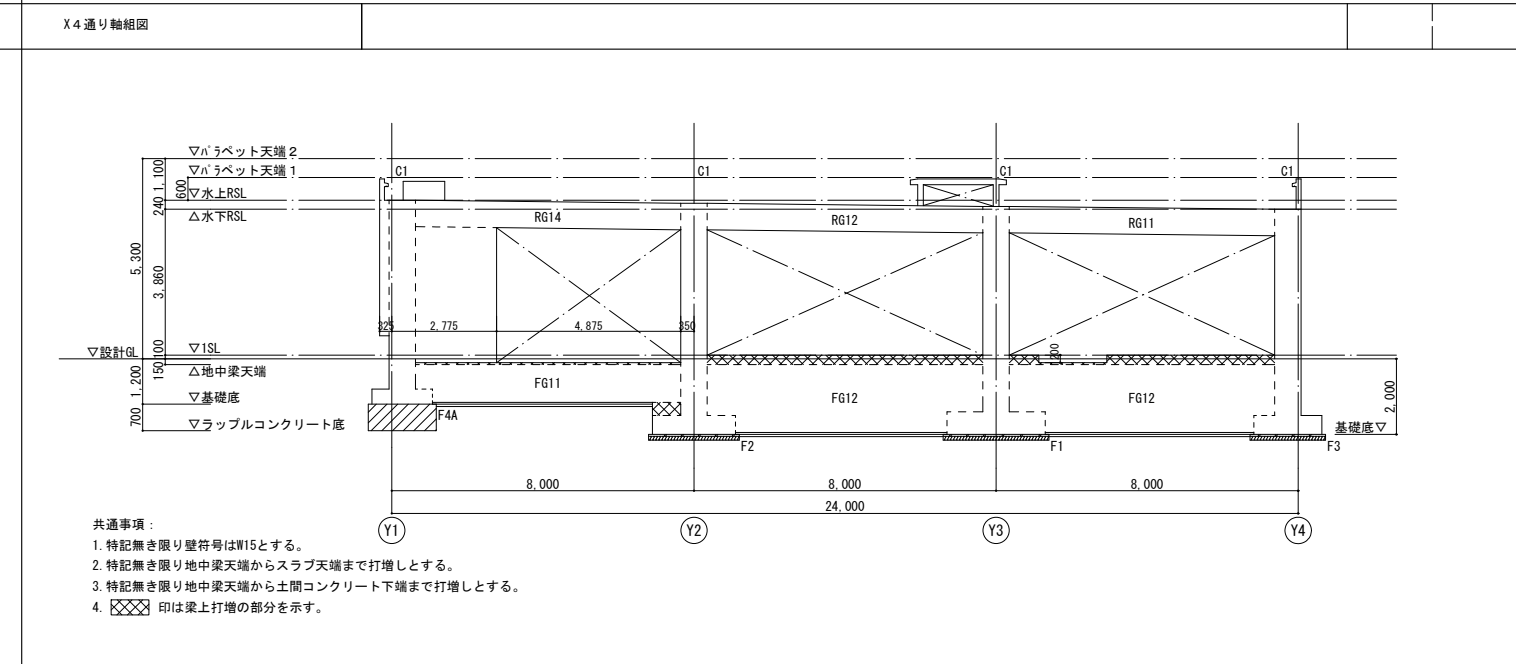
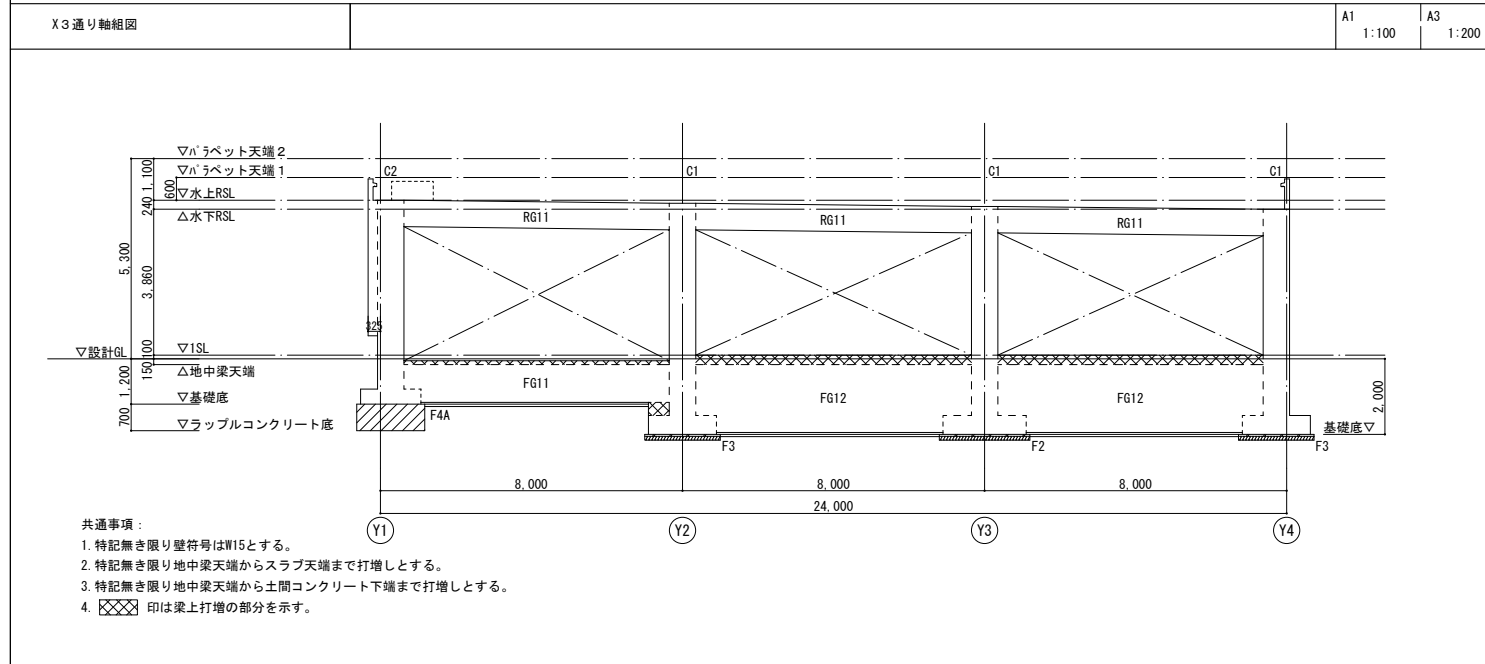
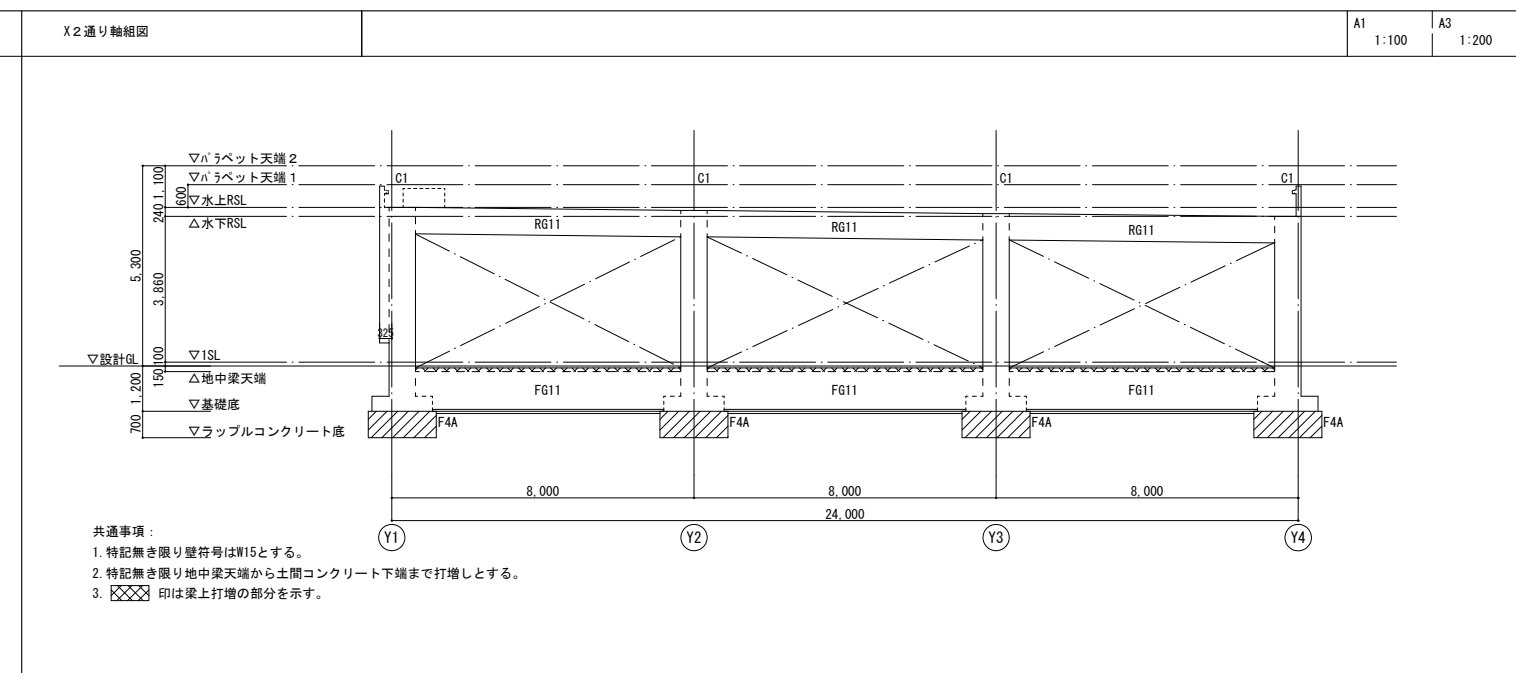
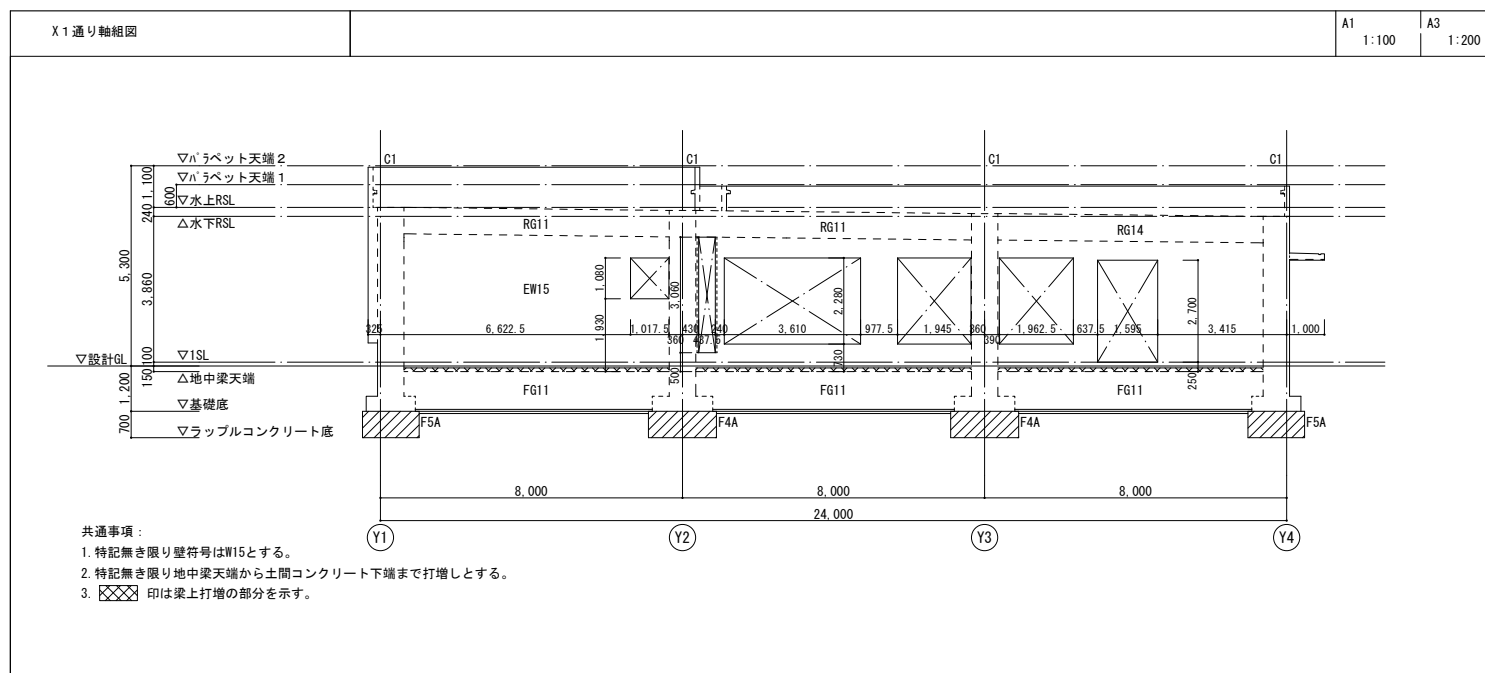
- 共通事項:
1. 特記無き限り壁符号はW15とする。
  2. 特記無き限り地中梁天端からスラブ天端まで打増しとする。
  3. 特記無き限り地中梁天端から土間コンクリート下端まで打増しとする。
  4. 印は梁上打増の部分を示す。



- 共通事項:
1. 特記無き限り壁符号はW15とする。
  2. 特記無き限り地中梁天端からスラブ天端まで打増しとする。
  3. 特記無き限り地中梁天端から土間コンクリート下端まで打増しとする。
  4. 印は梁上打増の部分を示す。

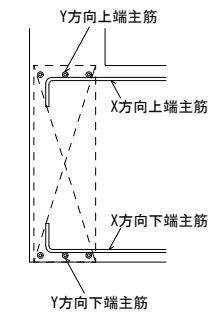


- 共通事項:
1. 特記無き限り壁符号はW15とする。
  2. 特記無き限り地中梁天端からスラブ天端まで打増しとする。
  3. 特記無き限り地中梁天端から土間コンクリート下端まで打増しとする。
  4. 印は梁上打増の部分を示す。

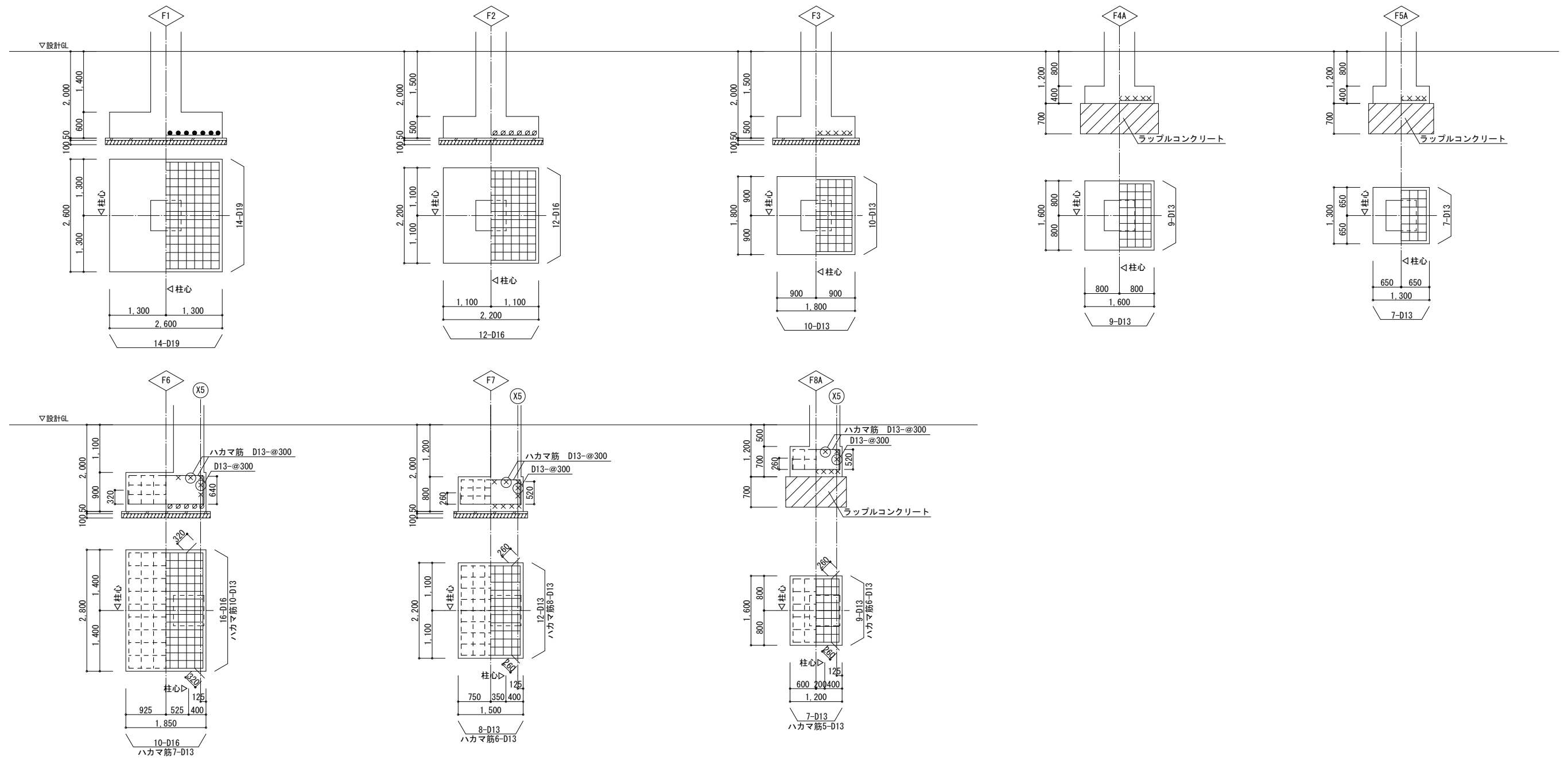


※巾止め筋は、D10-@1000以内とする。  
 ※スリーブ補強に既成品を使用する場合は、(財)日本建築センターの評価を取得した製品を用い、  
 構造計算書を事前に監理者に提出し、断面性能を損なわないことを確認した上で使用する。

符号	FG 1	FG 2	FG 3	FG 11	FG 12	FG 13	FB 1	FB 2	FB 3
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面									
BxD	350 x 1000	350 x 1800	350 x 1800	350 x 1000	350 x 1800	350 x 1800	300 x 1800	300 x 600	250 x 450
上端筋	4 - D22	4 - D22	6 - D22	4 - D22	6 - D22	5 - D22	3 - D 22	3 - D 19	2 - D 19
下端筋	4 - D22	4 - D22	4 - D22	4 - D22	5 - D22	4 - D22	3 - D 22	3 - D 19	2 - D 19
腹筋	4 - D10	10 - D10	10 - D10	4 - D10	10 - D10	10 - D10	2 - D 10	2 - D 10	
STP	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200	□ - D 10 - # 200
備考									



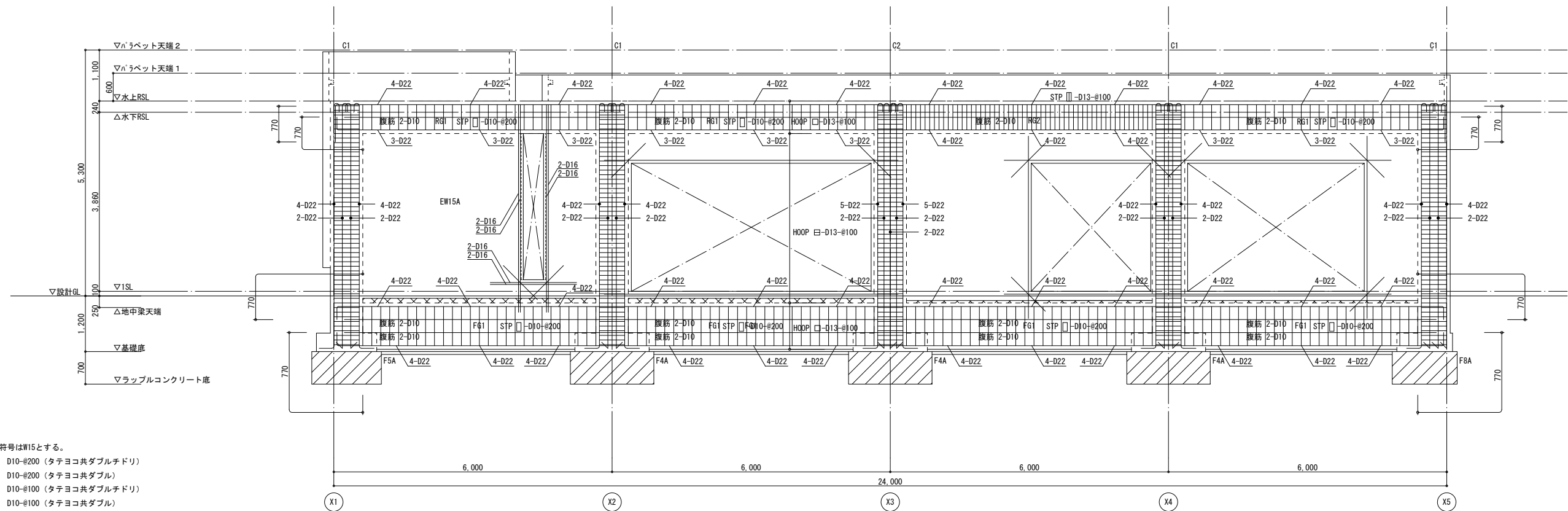
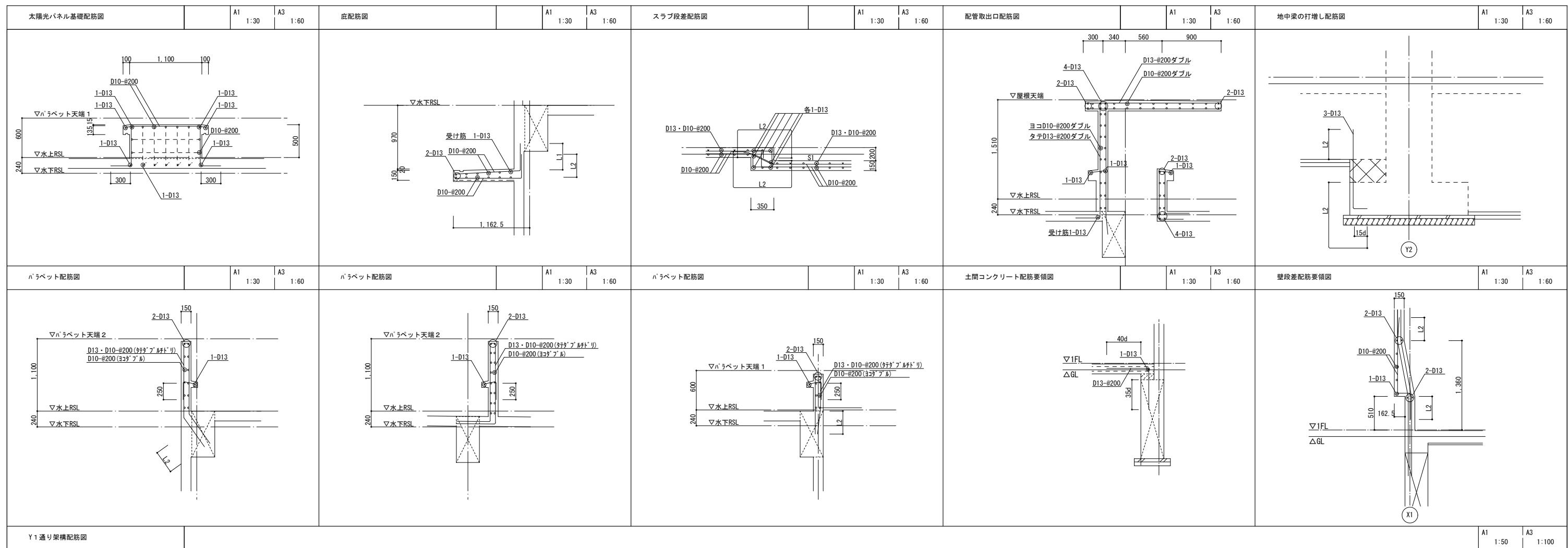
直交する梁の主筋レベルが同一の場合は、Y方向梁(FG11, FG12, FG13)の上端筋を直交梁(FG1, FG2, FG3)の上端筋の上に、又、下端筋は直交梁の下端筋の下に配置すること。



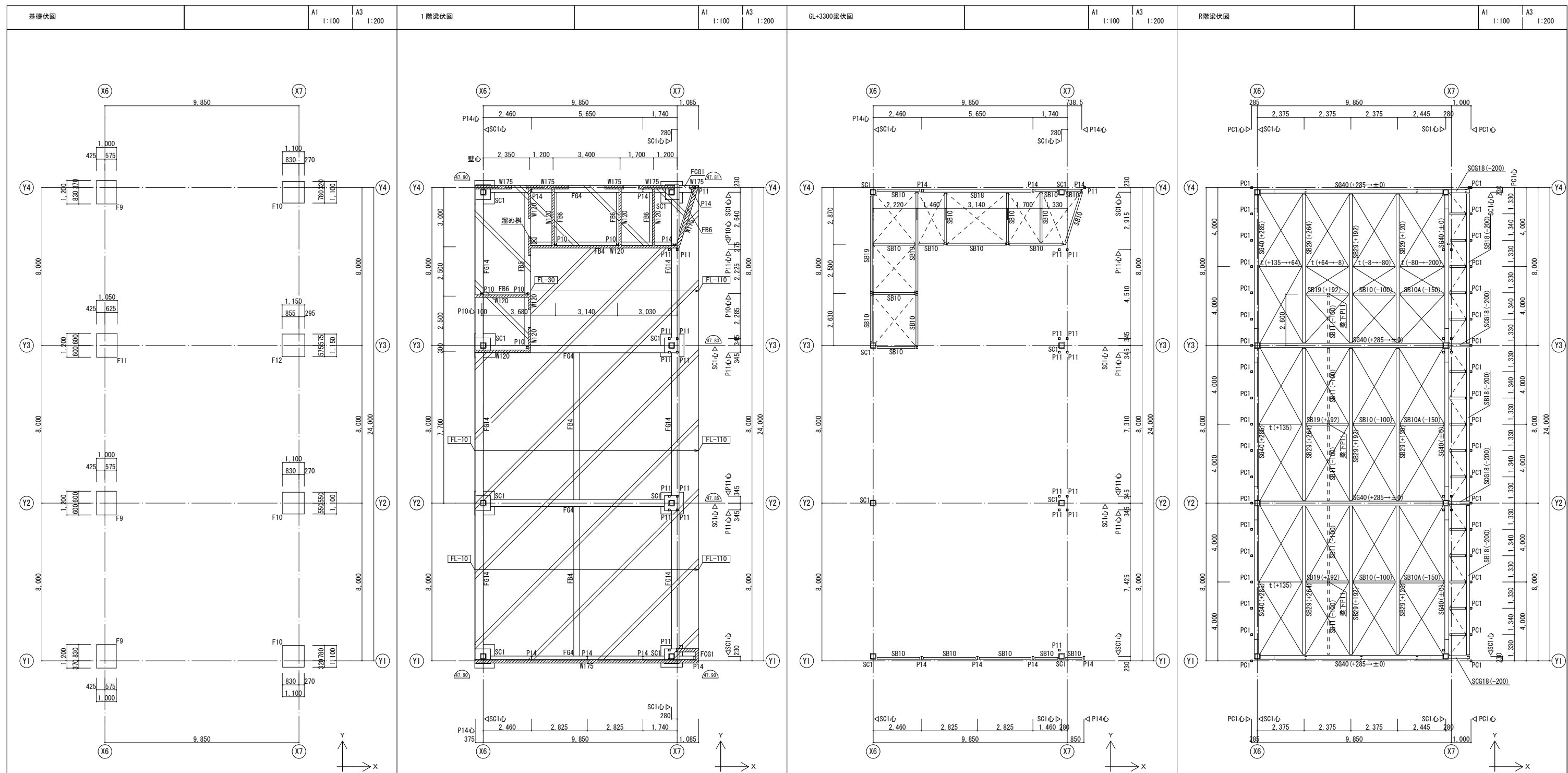
柱リスト	A1 1:30	A3 1:60	柱配筋共通事項	梁配筋共通事項	梁筋のカットオフ要領																	
<p>※ 柱HOOPは、すべてタ型とし、中子の端部はフック付きとする。 ※ 巾止筋は、D10-@500以内とする。</p> <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th>C1</th> <th>C2</th> </tr> <tr> <td>断面</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>BxD</td> <td>700×700</td> <td>700×700</td> </tr> <tr> <td>主筋</td> <td>12-D22</td> <td>16-D22</td> </tr> <tr> <td>HOOP</td> <td>□-D10-@100</td> <td>□-D13-@100</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	符号	C1	C2	断面			BxD	700×700	700×700	主筋	12-D22	16-D22	HOOP	□-D10-@100	□-D13-@100	備考			<p>1. 柱脚区分は、下記とする。 梁アンカー筋 下端筋は 上向き</p> <p>2. 柱梁接合部内HOOPは、下階柱HOOPと同径同ピッチとする。</p>		<p>特記なき限り下記とする。</p> <p>1. 巾止筋 D10 #1,000 以内とする。</p> <p>2. 桁行方向の梁主筋を外側に配置すること。 ・スターラップ形状に注意すること。 ・但し逆梁等、直交の梁主筋と干渉しない時はこの限りではない。</p>	
符号	C1	C2																				
断面																						
BxD	700×700	700×700																				
主筋	12-D22	16-D22																				
HOOP	□-D10-@100	□-D13-@100																				
備考																						

大梁リスト	A1 1:30	A3 1:60	壁リスト	A1 1:30	A3 1:60																																																																																																																														
<p>※ 梁主筋の柱への定着は、40d以上とする。 ※ 巾止筋は、D10-@1000以内とする。 ※ スリーブ補強に既成品を使用する場合は、(財)日本建築センターの評価を取得した製品を用い、構造計算書を事前に監理者に提出し、断面性能を損なわないことを確認した上で使用する。</p> <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th>G1</th> <th>G2</th> <th>G3</th> <th colspan="2">G11</th> <th colspan="2">G12</th> <th colspan="2">G13</th> <th>G14</th> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>全断面</td> <td>全断面</td> <td>全断面</td> <td>両端</td> <td>中央</td> <td>両端</td> <td>中央</td> <td>Y2端</td> <td>中央・Y3端</td> <td>全断面</td> </tr> <tr> <td>断面</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>b x D</td> <td>350×700</td> <td>350×700</td> <td>350×700</td> <td colspan="2">350×700</td> <td colspan="2">350×700</td> <td colspan="2">350×700</td> <td>350×700</td> </tr> <tr> <td>上端筋</td> <td>4-D22</td> <td>4-D22</td> <td>4-D22</td> <td>4-D22</td> <td>3-D22</td> <td>6-D22</td> <td>4-D22</td> <td>7-D22</td> <td>5-D22</td> <td>4-D22</td> </tr> <tr> <td>下端筋</td> <td>3-D22</td> <td>4-D22</td> <td>3-D22</td> <td>3-D22</td> <td>3-D22</td> <td>4-D22</td> <td>4-D22</td> <td>5-D22</td> <td>4-D22</td> <td>3-D22</td> </tr> <tr> <td>腹筋</td> <td>2-D10</td> <td>2-D10</td> <td>2-D10</td> <td colspan="2">2-D10</td> <td colspan="2">2-D10</td> <td colspan="2">2-D10</td> <td>2-D10</td> </tr> <tr> <td>S T P</td> <td>□-D10-@200</td> <td>□-D10-@100</td> <td>□-D10-@100</td> <td colspan="2">□-D10-@200</td> <td colspan="2">□-D10-@200</td> <td colspan="2">□-D10-@150</td> <td>□-D13-@150</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	符号	G1	G2	G3	G11		G12		G13		G14	位置	全断面	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央	Y2端	中央・Y3端	全断面	断面											b x D	350×700	350×700	350×700	350×700		350×700		350×700		350×700	上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	6-D22	4-D22	7-D22	5-D22	4-D22	下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	5-D22	4-D22	3-D22	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10	S T P	□-D10-@200	□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@150		□-D13-@150	備考											<p>※ 巾止筋は、D10-@1,000以内とする。</p> <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th>W15</th> <th>EW15</th> <th>EW15A</th> <th>開口補強要領</th> </tr> <tr> <td>壁厚</td> <td>150</td> <td>150</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>断面</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縦筋</td> <td>D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)</td> <td>D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)</td> <td>D10-@100 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>横筋</td> <td>D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)</td> <td>D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)</td> <td>D10-@100 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開口補強</td> <td>タテ 2-D13 ヨコ 2-D13 ナナメ 1-D13</td> <td>タテ 4-D13 ヨコ 4-D13 ナナメ 1-D13</td> <td>タテ 4-D16 ヨコ 4-D16 ナナメ 1-D13</td> <td></td> </tr> </table>		符号	W15	EW15	EW15A	開口補強要領	壁厚	150	150	150		断面					縦筋	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)	D10-@100 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)		横筋	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D10-@100 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)		開口補強	タテ 2-D13 ヨコ 2-D13 ナナメ 1-D13	タテ 4-D13 ヨコ 4-D13 ナナメ 1-D13	タテ 4-D16 ヨコ 4-D16 ナナメ 1-D13	
符号	G1	G2	G3	G11		G12		G13		G14																																																																																																																									
位置	全断面	全断面	全断面	両端	中央	両端	中央	Y2端	中央・Y3端	全断面																																																																																																																									
断面																																																																																																																																			
b x D	350×700	350×700	350×700	350×700		350×700		350×700		350×700																																																																																																																									
上端筋	4-D22	4-D22	4-D22	4-D22	3-D22	6-D22	4-D22	7-D22	5-D22	4-D22																																																																																																																									
下端筋	3-D22	4-D22	3-D22	3-D22	3-D22	4-D22	4-D22	5-D22	4-D22	3-D22																																																																																																																									
腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10		2-D10		2-D10		2-D10																																																																																																																									
S T P	□-D10-@200	□-D10-@100	□-D10-@100	□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@150		□-D13-@150																																																																																																																									
備考																																																																																																																																			
符号	W15	EW15	EW15A	開口補強要領																																																																																																																															
壁厚	150	150	150																																																																																																																																
断面																																																																																																																																			
縦筋	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)	D10-@100 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)																																																																																																																																
横筋	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D10-@200 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)	D10-@100 (ﾀﾞﾌﾞﾙ)																																																																																																																																
開口補強	タテ 2-D13 ヨコ 2-D13 ナナメ 1-D13	タテ 4-D13 ヨコ 4-D13 ナナメ 1-D13	タテ 4-D16 ヨコ 4-D16 ナナメ 1-D13																																																																																																																																

小梁リスト	A1 1:30	A3 1:60	スラブリスト																																																																																																																																																																														
<p>※ 巾止筋は、D10-@1000以内とする。 ※ スリーブ補強に既成品を使用する場合は、(財)日本建築センターの評価を取得した製品を用い、構造計算書を事前に監理者に提出し、断面性能を損なわないことを確認した上で使用する。</p> <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th colspan="2">B1</th> <th colspan="3">B2</th> <th colspan="2">B3</th> <th colspan="2">B4</th> <th>B5</th> </tr> <tr> <td>位置</td> <td>両端</td> <td>中央</td> <td>外端</td> <td>中央</td> <td>内端</td> <td>両端</td> <td>中央</td> <td>両端</td> <td>中央</td> <td>全断面</td> </tr> <tr> <td>断面</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>b x D</td> <td colspan="2">300×700</td> <td colspan="3">300×700</td> <td colspan="2">300×700</td> <td colspan="2">300×600</td> <td>250×450</td> </tr> <tr> <td>上端筋</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>5-D19</td> <td>4-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> </tr> <tr> <td>下端筋</td> <td>3-D19</td> <td>5-D19</td> <td>3-D19</td> <td>4-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>3-D19</td> <td>4-D19</td> <td>3-D19</td> </tr> <tr> <td>腹筋</td> <td colspan="2">2-D10</td> <td colspan="3">2-D10</td> <td colspan="2">2-D10</td> <td colspan="2">2-D10</td> <td>2-D10</td> </tr> <tr> <td>S T P</td> <td colspan="2">□-D10-@200</td> <td colspan="3">□-D10-@200</td> <td colspan="2">□-D10-@200</td> <td colspan="2">□-D10-@200</td> <td>□-D10-@200</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	符号	B1		B2			B3		B4		B5	位置	両端	中央	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	全断面	断面											b x D	300×700		300×700			300×700		300×600		250×450	上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	5-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	下端筋	3-D19	5-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19	腹筋	2-D10		2-D10			2-D10		2-D10		2-D10	S T P	□-D10-@200		□-D10-@200			□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@200	備考											<p>※ ( ) 内は、溝部を示す</p> <table border="1"> <tr> <th>符号</th> <th>版厚</th> <th>区別</th> <th colspan="2">短辺方向・主筋方向</th> <th colspan="2">長辺方向・配力筋方向</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>端部</td> <td>中央</td> <td>端部</td> <td>中央</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S1</td> <td>150</td> <td>上端筋</td> <td colspan="2">D13・D10-@200</td> <td colspan="2">D10-@200</td> <td rowspan="2">四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>下端筋</td> <td colspan="2">D10-@200</td> <td colspan="2">D10-@200</td> </tr> <tr> <td>S2</td> <td>150</td> <td>上端筋</td> <td colspan="2">D13・D10-@150</td> <td colspan="2">D10-@150</td> <td rowspan="2">四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>下端筋</td> <td colspan="2">D10-@150</td> <td colspan="2">D10-@150</td> </tr> <tr> <td>FS1</td> <td>200</td> <td>上端筋</td> <td colspan="2">D13・D10-@200</td> <td colspan="2">D13・D10-@200</td> <td rowspan="2">四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>下端筋</td> <td colspan="2">D13・D10-@200</td> <td colspan="2">D13・D10-@200</td> </tr> <tr> <td>CS1</td> <td>170~150 (130)</td> <td>上端筋</td> <td colspan="2">D10-@200</td> <td colspan="2">D10-@200</td> <td rowspan="2">片持ち</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>下端筋</td> <td colspan="2">D10-@200</td> <td colspan="2">D10-@200</td> </tr> </table>		符号	版厚	区別	短辺方向・主筋方向		長辺方向・配力筋方向		備考				端部	中央	端部	中央		S1	150	上端筋	D13・D10-@200		D10-@200		四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)			下端筋	D10-@200		D10-@200		S2	150	上端筋	D13・D10-@150		D10-@150		四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)			下端筋	D10-@150		D10-@150		FS1	200	上端筋	D13・D10-@200		D13・D10-@200		四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)			下端筋	D13・D10-@200		D13・D10-@200		CS1	170~150 (130)	上端筋	D10-@200		D10-@200		片持ち			下端筋	D10-@200		D10-@200	
符号	B1		B2			B3		B4		B5																																																																																																																																																																							
位置	両端	中央	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	全断面																																																																																																																																																																							
断面																																																																																																																																																																																	
b x D	300×700		300×700			300×700		300×600		250×450																																																																																																																																																																							
上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	5-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19																																																																																																																																																																							
下端筋	3-D19	5-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19																																																																																																																																																																							
腹筋	2-D10		2-D10			2-D10		2-D10		2-D10																																																																																																																																																																							
S T P	□-D10-@200		□-D10-@200			□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@200																																																																																																																																																																							
備考																																																																																																																																																																																	
符号	版厚	区別	短辺方向・主筋方向		長辺方向・配力筋方向		備考																																																																																																																																																																										
			端部	中央	端部	中央																																																																																																																																																																											
S1	150	上端筋	D13・D10-@200		D10-@200		四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)																																																																																																																																																																										
		下端筋	D10-@200		D10-@200																																																																																																																																																																												
S2	150	上端筋	D13・D10-@150		D10-@150		四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)																																																																																																																																																																										
		下端筋	D10-@150		D10-@150																																																																																																																																																																												
FS1	200	上端筋	D13・D10-@200		D13・D10-@200		四辺固定 (ﾀﾞﾌﾞﾙｽﾄﾘｯｸ)																																																																																																																																																																										
		下端筋	D13・D10-@200		D13・D10-@200																																																																																																																																																																												
CS1	170~150 (130)	上端筋	D10-@200		D10-@200		片持ち																																																																																																																																																																										
		下端筋	D10-@200		D10-@200																																																																																																																																																																												



- 共通事項
- 特記なき壁符号はW15とする。
  - W15: 縦筋 D10-#200 (タテヨコ共ダブルドリ)  
横筋 D10-#200 (タテヨコ共ダブル)
  - EW15A: 縦筋 D10-#100 (タテヨコ共ダブルドリ)  
横筋 D10-#100 (タテヨコ共ダブル)
  - 特記なき開口補強筋は、縦筋、横筋共 各2-D13、斜め筋 各1-D13 とする。
  - 特記なき柱HOOPは、□-D10-#100とする。



- 特記事項
- 特記無き限り基礎下端=GL-1.050。  
ラップコンクリートはGL-1.900までとする。
  - 見下げ図とする。
  - 地耐力qa=300kN/m<sup>2</sup>(長期)。

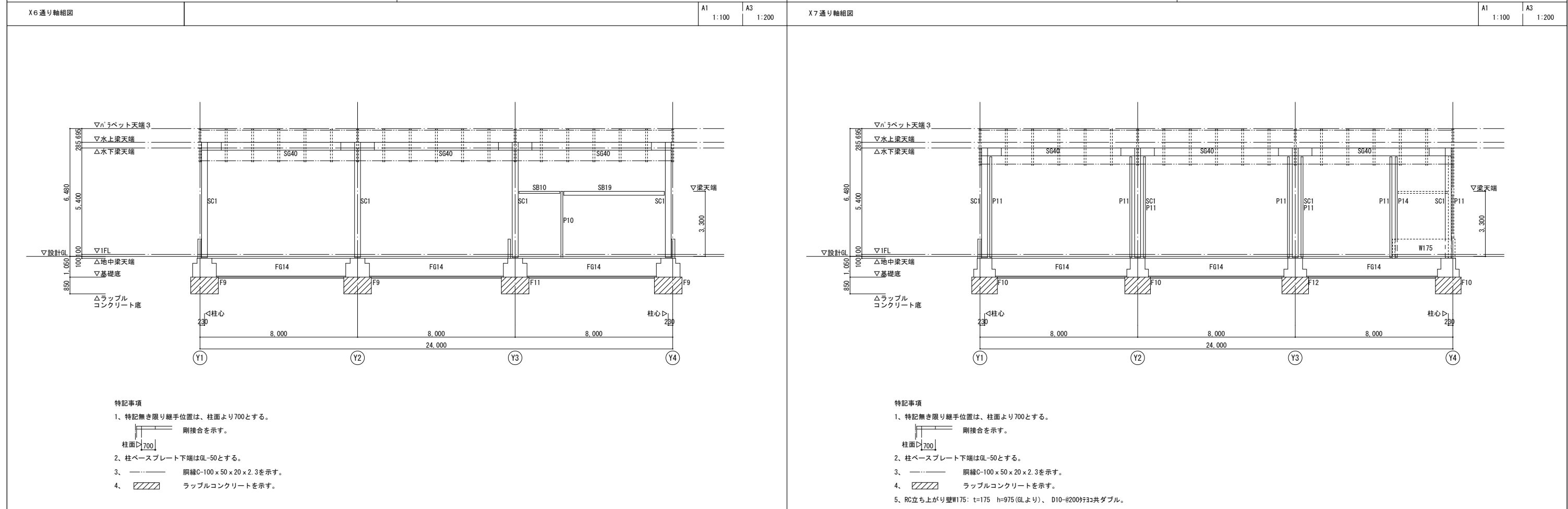
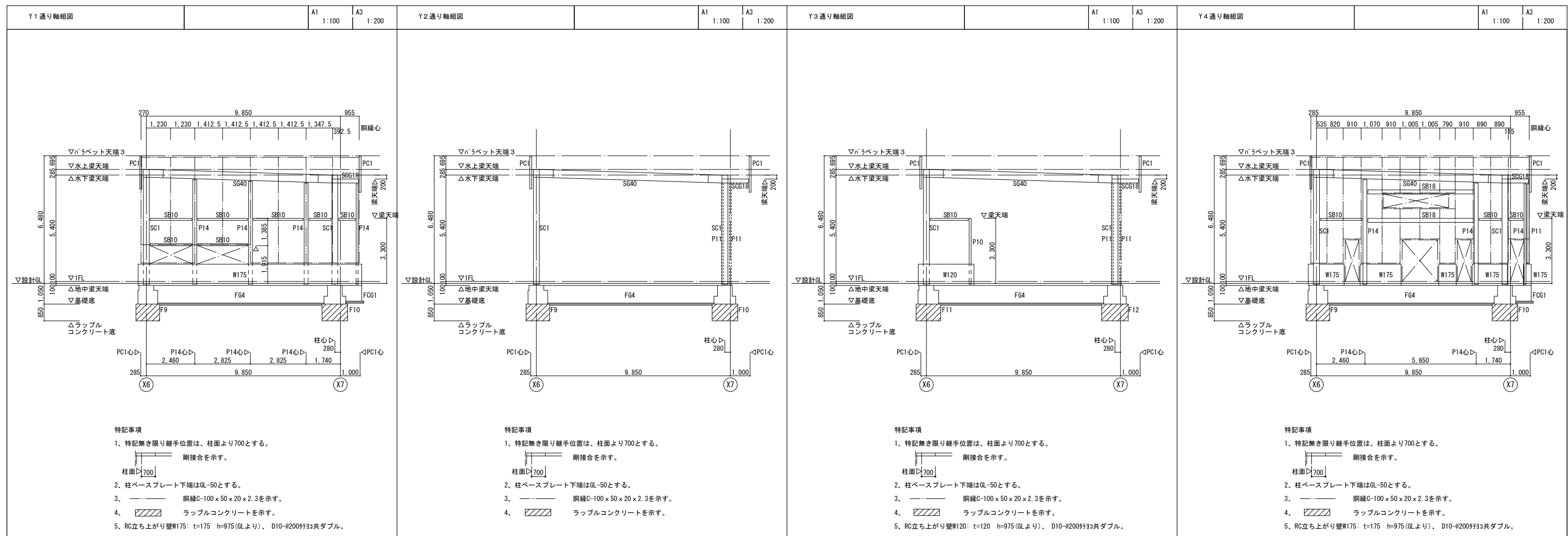
- 特記事項
- 印は土間コンクリートt=150mmを示す。
  - 印は土間コンクリートt=200mmを示す。
  - 特記無き限り土間コンクリート天端は1FL-10とする。  
土間コンクリートは、両方向共D10-@200(ダブル)、砕石厚150とする。  
土間コンクリート下は埋戻し、十分な締め固めを行うこと。
  - 特記無き限り地中梁天端はGL-100とする。(GL=47.90)  
地中梁天端から土間コンクリート下端まで打増しとする。
  - 印はRC立ち上がり壁 h=975(GLより)を示す。  
W120: t=120 D10-@200(3共シングル)  
W175: t=175 D10-@200(3共ダブル)
  - 印は外積のレベルを示す。
  - 見下げ図とする。
  - RC柱面と地中梁面が同一の場合は地中梁横30mm打増しとする。

スリーブ表

径(φ)	梁幅(mm)		合計
	300	350	
100φ	0	3	3
200φ	0	2	2
250φ	0	0	0
275φ	0	0	0
600φ	0	0	0

- 特記事項
- 水平ブレース  
印はV1を示す。  
印はV2を示す。

- 特記事項
- 特記無き限り継手位置は柱面より700とする。  
剛接合を示す。
  - 補剛材を示す
  - 水平ブレース  
印はV1を示す。  
印はV2を示す。
  - ( )内の数字は水下梁天端からの梁天端レベルを示す
  - 特記無き限り小梁符号はSB19(-200)とする。
  - 見下げ図とする。

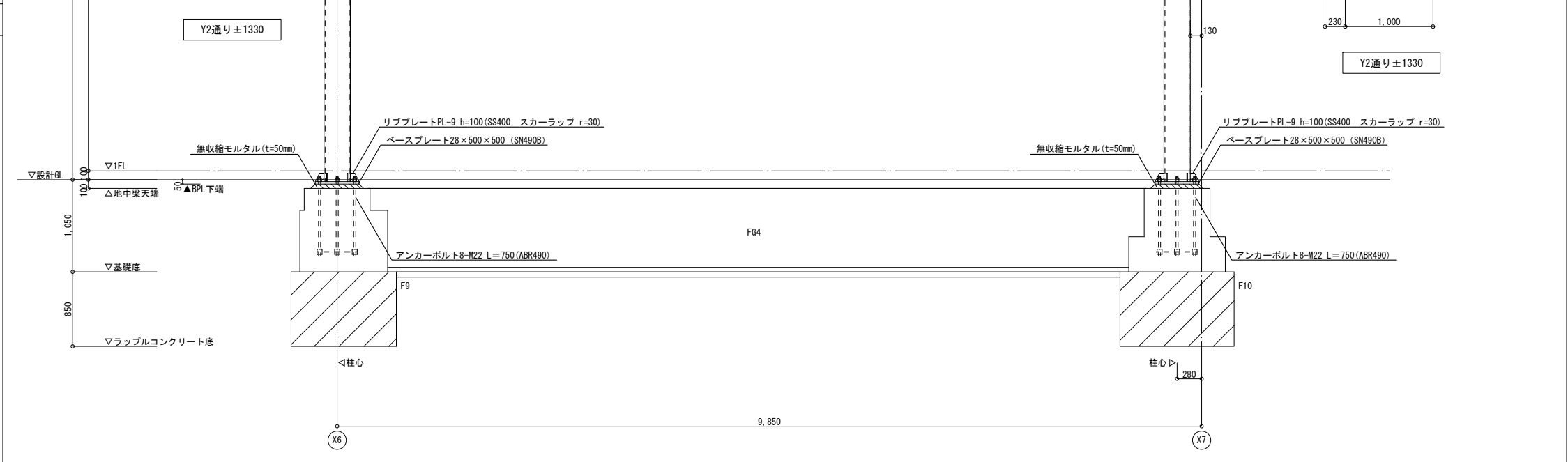
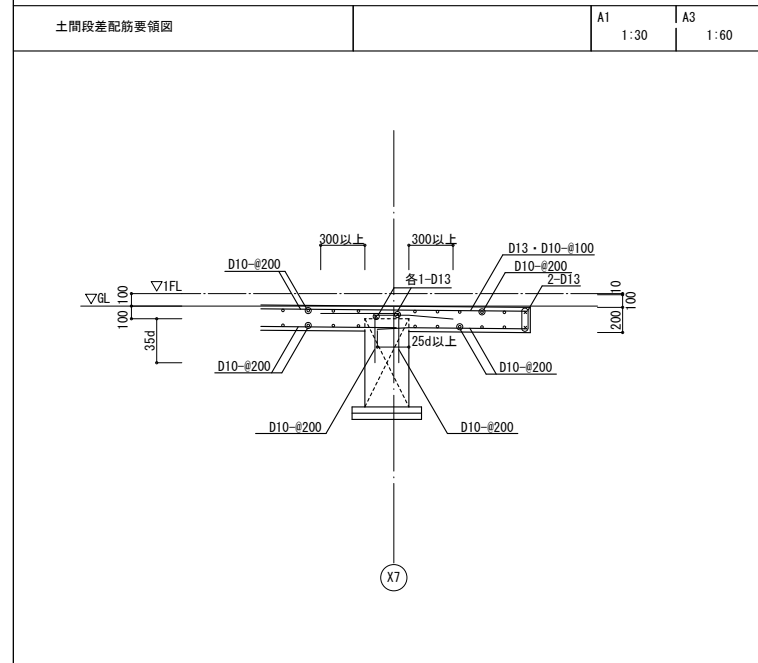
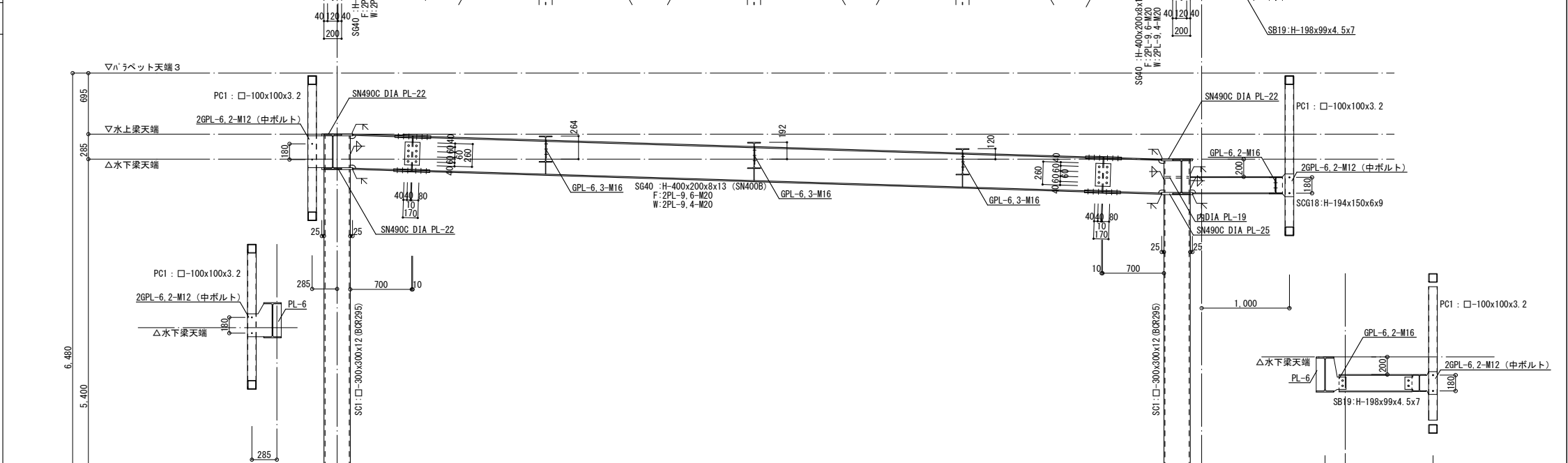
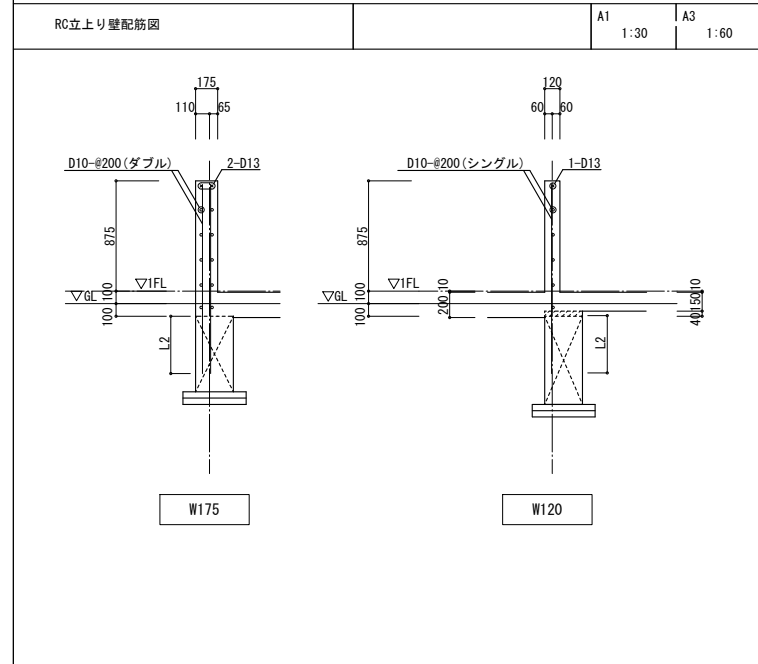
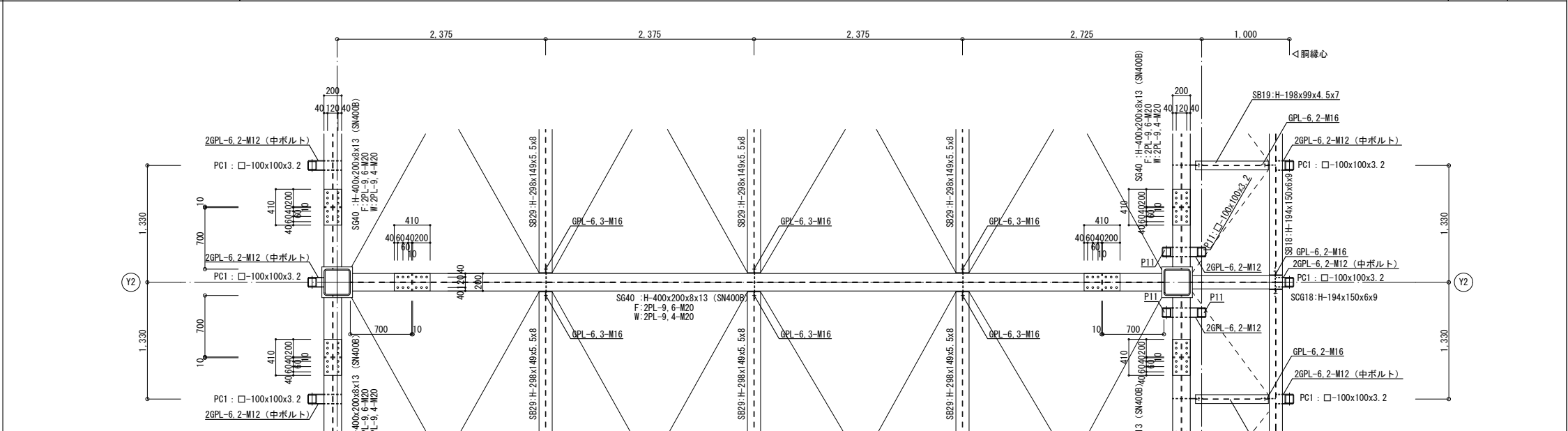
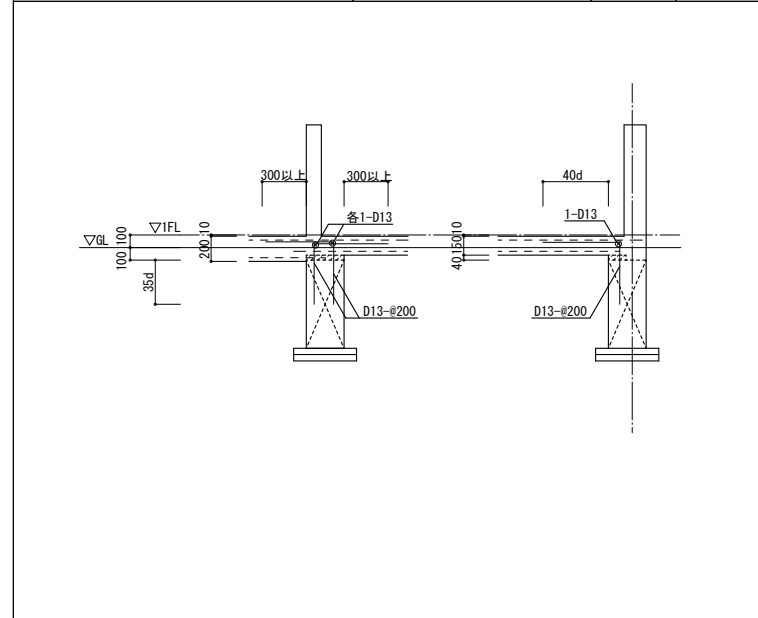


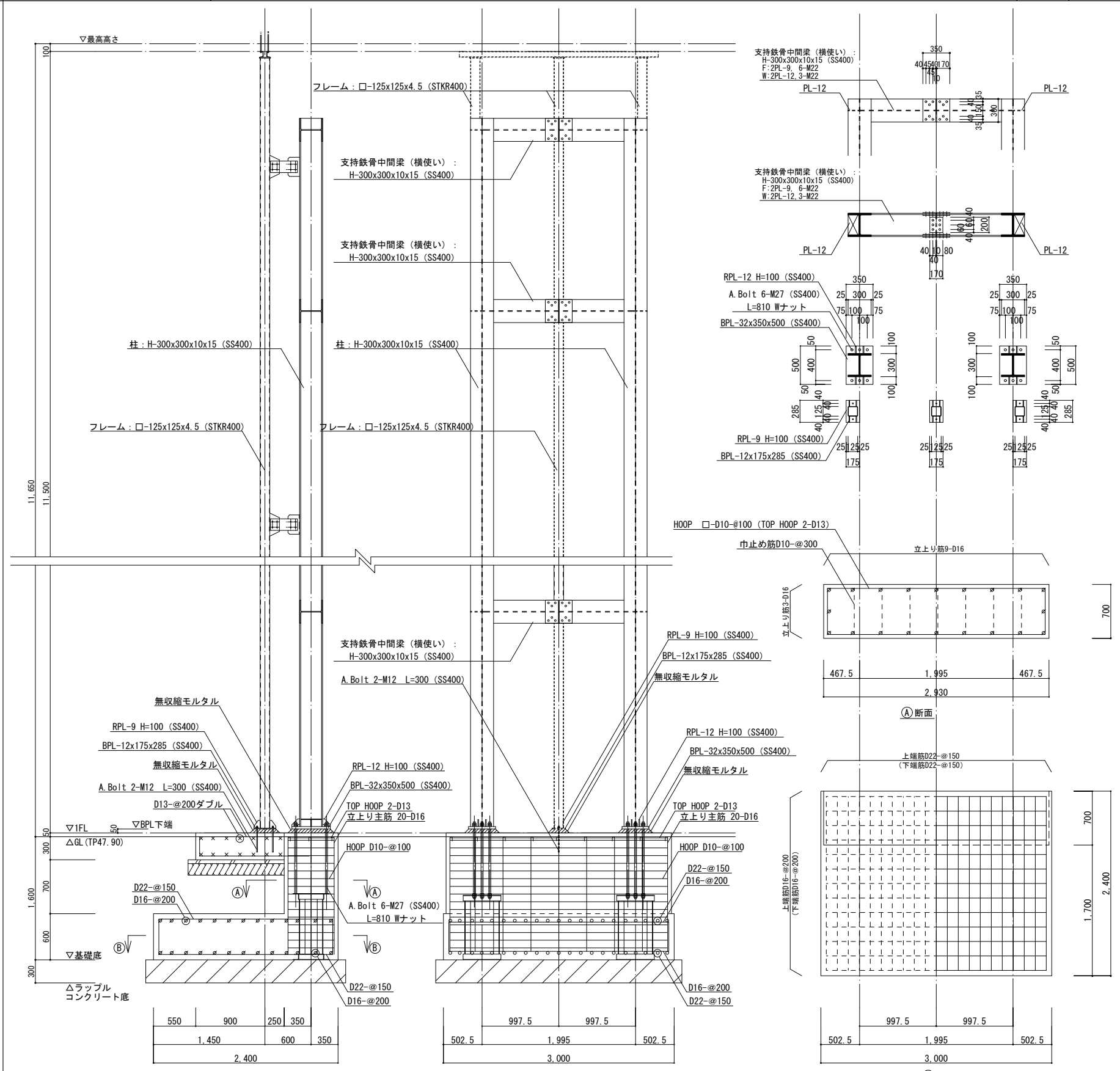
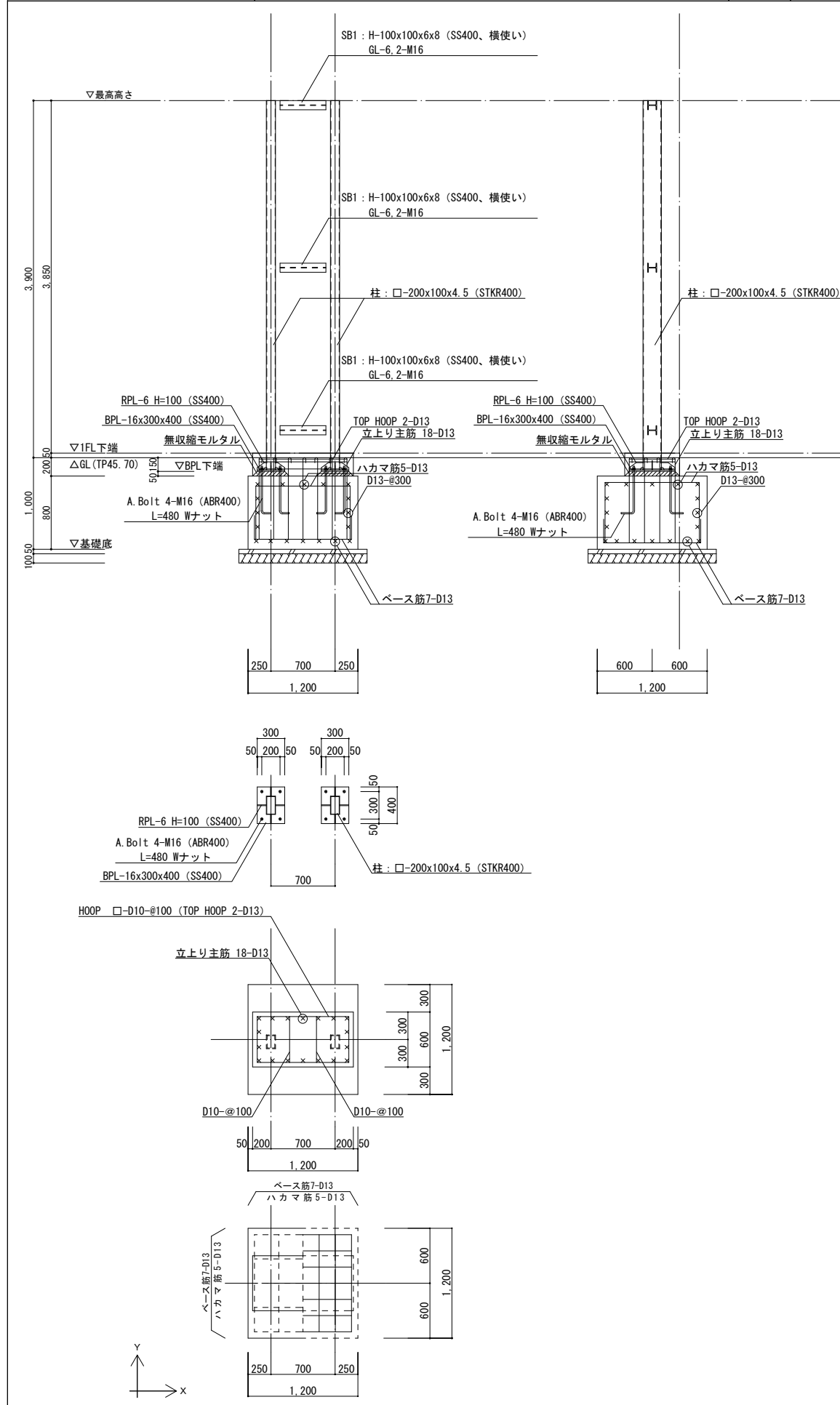
基礎リスト		A1	A3	鉄骨柱・柱脚リスト				A1	A3																																																													
		1:50	1:100					1:30	1:60																																																													
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>符号</th> <th>SC1 λ=62.7</th> <th>P10</th> <th>P11</th> <th>P14</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部材寸法</td> <td>□-300x300x12 (BOR295)</td> <td>H-100x100x6x8 (SS400)</td> <td>□-100x100x3.2 (STKR400)</td> <td>H-148x100x6x9 (SS400)</td> </tr> <tr> <td>上部接合部</td> <td>溶接</td> <td>GPL-6、2-M16</td> <td>2GPL-6、2-M12 (中ボルト)</td> <td>GPL-6、2-M16</td> </tr> <tr> <td>柱脚</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ベースプレート</td> <td>BPL-28x500x500 (SN490B)</td> <td>BPL-9x200x150 (SS400)</td> <td>BPL-6x270x110 (SS400)</td> <td>BPL-12x200x200 (SS400)</td> </tr> <tr> <td>リブプレート</td> <td>PL-9 t=100 (SS400) スカラップ r=30</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td>8-M22 L=750 (ABR490) アンカーフレーム付 ダブルナット (座金付) (座金はベースプレートに溶接すること)</td> <td>2-M16 L=480 (SS400)</td> <td>2-M12 L=360 (SS400)</td> <td>2-M16 L=480 (SS400)</td> </tr> <tr> <td>R/C断面</td> <td></td> <td>地中梁上</td> <td>地中梁上</td> <td>地中梁上</td> </tr> <tr> <td>b x d</td> <td>750 x 750</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主筋</td> <td>12-D22</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H O O P</td> <td>D10-@100</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td>露出柱脚</td> <td>露出柱脚</td> <td>露出柱脚</td> <td>露出柱脚</td> </tr> </tbody> </table>					符号	SC1 λ=62.7	P10	P11	P14	部材寸法	□-300x300x12 (BOR295)	H-100x100x6x8 (SS400)	□-100x100x3.2 (STKR400)	H-148x100x6x9 (SS400)	上部接合部	溶接	GPL-6、2-M16	2GPL-6、2-M12 (中ボルト)	GPL-6、2-M16	柱脚					ベースプレート	BPL-28x500x500 (SN490B)	BPL-9x200x150 (SS400)	BPL-6x270x110 (SS400)	BPL-12x200x200 (SS400)	リブプレート	PL-9 t=100 (SS400) スカラップ r=30				アンカーボルト	8-M22 L=750 (ABR490) アンカーフレーム付 ダブルナット (座金付) (座金はベースプレートに溶接すること)	2-M16 L=480 (SS400)	2-M12 L=360 (SS400)	2-M16 L=480 (SS400)	R/C断面		地中梁上	地中梁上	地中梁上	b x d	750 x 750				主筋	12-D22				H O O P	D10-@100				備考	露出柱脚	露出柱脚	露出柱脚	露出柱脚		
符号	SC1 λ=62.7	P10	P11	P14																																																																		
部材寸法	□-300x300x12 (BOR295)	H-100x100x6x8 (SS400)	□-100x100x3.2 (STKR400)	H-148x100x6x9 (SS400)																																																																		
上部接合部	溶接	GPL-6、2-M16	2GPL-6、2-M12 (中ボルト)	GPL-6、2-M16																																																																		
柱脚																																																																						
ベースプレート	BPL-28x500x500 (SN490B)	BPL-9x200x150 (SS400)	BPL-6x270x110 (SS400)	BPL-12x200x200 (SS400)																																																																		
リブプレート	PL-9 t=100 (SS400) スカラップ r=30																																																																					
アンカーボルト	8-M22 L=750 (ABR490) アンカーフレーム付 ダブルナット (座金付) (座金はベースプレートに溶接すること)	2-M16 L=480 (SS400)	2-M12 L=360 (SS400)	2-M16 L=480 (SS400)																																																																		
R/C断面		地中梁上	地中梁上	地中梁上																																																																		
b x d	750 x 750																																																																					
主筋	12-D22																																																																					
H O O P	D10-@100																																																																					
備考	露出柱脚	露出柱脚	露出柱脚	露出柱脚																																																																		

地中梁リスト		A1	A3	地中梁主筋配筋要領		A1	A3	アンカーフレーム		A1	A3																																																																																	
		1:50	1:100			1:30	1:60			1:30	1:60																																																																																	
<p>※巾止め筋は、D10-@1000以内とする。          ※スリブ補強に既成品を使用する場合は、(財)日本建築センターの評価を取得した製品を用い、構造計算書を事前に監理者に提出し、断面性能を損なわないことを確認した上で使用する。</p>																																																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>符号</th> <th colspan="2">F G 4</th> <th>F G 14</th> <th>F B 4</th> <th colspan="2">F B 5</th> <th>F B 6</th> <th>F C G 1</th> </tr> <tr> <th>位置</th> <th>両端</th> <th>中央</th> <th>全断面</th> <th>全断面</th> <th>両端</th> <th>中央</th> <th>全断面</th> <th>全断面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>断面</td> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>BxD</td> <td colspan="2">350 x 900</td> <td>350 x 900</td> <td>300 x 800</td> <td colspan="2">300 x 800</td> <td>250 x 450</td> <td>350 x 700</td> </tr> <tr> <td>上端筋</td> <td>5 - D22</td> <td>4 - D22</td> <td>3 - D19</td> <td>3 - D19</td> <td>3 - D19</td> <td>3 - D19</td> <td>2 - D19</td> <td>3 - D22</td> </tr> <tr> <td>下端筋</td> <td>5 - D22</td> <td>6 - D22</td> <td>3 - D19</td> <td>3 - D19</td> <td>3 - D19</td> <td>5 - D19</td> <td>2 - D19</td> <td>3 - D22</td> </tr> <tr> <td>腹筋</td> <td colspan="2">4 - D10</td> <td>4 - D10</td> <td>2 - D10</td> <td colspan="2">2 - D10</td> <td></td> <td>2 - D10</td> </tr> <tr> <td>STP</td> <td colspan="2">□ - D 10 - @200</td> <td>□ - D 10 - @200</td> <td>□ - D 10 - @200</td> <td colspan="2">□ - D 10 - @200</td> <td></td> <td>□ - D 10 - @200</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> <td colspan="2"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												符号	F G 4		F G 14	F B 4	F B 5		F B 6	F C G 1	位置	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央	全断面	全断面	断面									BxD	350 x 900		350 x 900	300 x 800	300 x 800		250 x 450	350 x 700	上端筋	5 - D22	4 - D22	3 - D19	3 - D19	3 - D19	3 - D19	2 - D19	3 - D22	下端筋	5 - D22	6 - D22	3 - D19	3 - D19	3 - D19	5 - D19	2 - D19	3 - D22	腹筋	4 - D10		4 - D10	2 - D10	2 - D10			2 - D10	STP	□ - D 10 - @200		□ - D 10 - @200	□ - D 10 - @200	□ - D 10 - @200			□ - D 10 - @200	備考								
符号	F G 4		F G 14	F B 4	F B 5		F B 6	F C G 1																																																																																				
位置	両端	中央	全断面	全断面	両端	中央	全断面	全断面																																																																																				
断面																																																																																												
BxD	350 x 900		350 x 900	300 x 800	300 x 800		250 x 450	350 x 700																																																																																				
上端筋	5 - D22	4 - D22	3 - D19	3 - D19	3 - D19	3 - D19	2 - D19	3 - D22																																																																																				
下端筋	5 - D22	6 - D22	3 - D19	3 - D19	3 - D19	5 - D19	2 - D19	3 - D22																																																																																				
腹筋	4 - D10		4 - D10	2 - D10	2 - D10			2 - D10																																																																																				
STP	□ - D 10 - @200		□ - D 10 - @200	□ - D 10 - @200	□ - D 10 - @200			□ - D 10 - @200																																																																																				
備考																																																																																												
				<p>直交する梁の主筋レベルが同一の場合は、X方向梁(FG4)の上端筋を直交梁(FG14)の上端筋の上に、又、下端筋は直交梁の下端筋の下に配置すること。</p>																																																																																								

鉄骨大梁リスト		A1	A3	鉄骨小梁・片持ち梁リスト		A1	A3	その他の鉄骨部材リスト		A1	A3																																										
<p>※継手は、SCSS-H97に準拠すること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">符号</th> <th rowspan="3">部材断面 (SN400B)</th> <th colspan="4">継手</th> <th rowspan="3">備考</th> </tr> <tr> <th colspan="2">フランジ</th> <th colspan="2">ウェブ</th> </tr> <tr> <th>添板 (SS400)</th> <th>H.T.B (S10T)</th> <th>添板 (SS400)</th> <th>H.T.B (S10T)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SG40</td> <td>H-400x200x 8 x13</td> <td>2PL- 9</td> <td>6-M20</td> <td>2PL- 9</td> <td>4-M20</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												符号	部材断面 (SN400B)	継手				備考	フランジ		ウェブ		添板 (SS400)	H.T.B (S10T)	添板 (SS400)	H.T.B (S10T)	SG40	H-400x200x 8 x13	2PL- 9	6-M20	2PL- 9	4-M20																					
符号	部材断面 (SN400B)	継手				備考																																															
		フランジ		ウェブ																																																	
		添板 (SS400)	H.T.B (S10T)	添板 (SS400)	H.T.B (S10T)																																																
SG40	H-400x200x 8 x13	2PL- 9	6-M20	2PL- 9	4-M20																																																
<p>※継手は、SCSS-H97に準拠すること。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">符号</th> <th rowspan="2">部材断面 (SS400・STKR400)</th> <th colspan="2">仕口</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>添板 (SS400)</th> <th>H.T.B (S10T)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SB29</td> <td>H-298x149x 5.5x 8</td> <td>GPL-6</td> <td>3-M16</td> <td>ボルトピッチ90</td> </tr> <tr> <td>SB19</td> <td>H-198x99x 4.5x 7</td> <td>GPL-6</td> <td>2-M16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SB18</td> <td>H-194x150x 6x 9</td> <td>GPL-6</td> <td>2-M16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SB10</td> <td>H-100x100x 6x 8</td> <td>GPL-6</td> <td>2-M16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SB10A</td> <td>H-100x100x 6x 8</td> <td>GPL-6</td> <td>2-M16</td> <td>X7端ボルトピッチ120</td> </tr> <tr> <td>SB11</td> <td>□-100x100x 3.2</td> <td>GPL-6</td> <td>2-M16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>SG618</td> <td>H-194x150x6x9</td> <td>GPL-6</td> <td>2-M16</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>												符号	部材断面 (SS400・STKR400)	仕口		備考	添板 (SS400)	H.T.B (S10T)	SB29	H-298x149x 5.5x 8	GPL-6	3-M16	ボルトピッチ90	SB19	H-198x99x 4.5x 7	GPL-6	2-M16		SB18	H-194x150x 6x 9	GPL-6	2-M16		SB10	H-100x100x 6x 8	GPL-6	2-M16		SB10A	H-100x100x 6x 8	GPL-6	2-M16	X7端ボルトピッチ120	SB11	□-100x100x 3.2	GPL-6	2-M16		SG618	H-194x150x6x9	GPL-6	2-M16	
符号	部材断面 (SS400・STKR400)	仕口		備考																																																	
		添板 (SS400)	H.T.B (S10T)																																																		
SB29	H-298x149x 5.5x 8	GPL-6	3-M16	ボルトピッチ90																																																	
SB19	H-198x99x 4.5x 7	GPL-6	2-M16																																																		
SB18	H-194x150x 6x 9	GPL-6	2-M16																																																		
SB10	H-100x100x 6x 8	GPL-6	2-M16																																																		
SB10A	H-100x100x 6x 8	GPL-6	2-M16	X7端ボルトピッチ120																																																	
SB11	□-100x100x 3.2	GPL-6	2-M16																																																		
SG618	H-194x150x6x9	GPL-6	2-M16																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>部材名</th> <th>使用部材 (SSC400・SS400・STKR400)</th> <th>接合部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横補剛材</td> <td>t : 20-100x50x20x2.3</td> <td>GPL-6、2-M16 (ボルトピッチ : X6端120、他端70)</td> </tr> <tr> <td>水平ブレース</td> <td>V1 : 1-M16 (ターンバックル締め)</td> <td>JISブレース、GPL-6、1-M16</td> </tr> <tr> <td>水平ブレース</td> <td>V2 : 1-M12 (ターンバックル締め)</td> <td>JISブレース、GPL-6、1-M16</td> </tr> <tr> <td>PC1</td> <td>□-100x100x3.2</td> <td>2GPL-6、2-M12 (中ボルト ピッチ180)</td> </tr> <tr> <td>鋼線</td> <td>C-100x50x20x2.3</td> <td>2GPL-6、2-M12 (中ボルト)</td> </tr> </tbody> </table>												部材名	使用部材 (SSC400・SS400・STKR400)	接合部	横補剛材	t : 20-100x50x20x2.3	GPL-6、2-M16 (ボルトピッチ : X6端120、他端70)	水平ブレース	V1 : 1-M16 (ターンバックル締め)	JISブレース、GPL-6、1-M16	水平ブレース	V2 : 1-M12 (ターンバックル締め)	JISブレース、GPL-6、1-M16	PC1	□-100x100x3.2	2GPL-6、2-M12 (中ボルト ピッチ180)	鋼線	C-100x50x20x2.3	2GPL-6、2-M12 (中ボルト)																								
部材名	使用部材 (SSC400・SS400・STKR400)	接合部																																																			
横補剛材	t : 20-100x50x20x2.3	GPL-6、2-M16 (ボルトピッチ : X6端120、他端70)																																																			
水平ブレース	V1 : 1-M16 (ターンバックル締め)	JISブレース、GPL-6、1-M16																																																			
水平ブレース	V2 : 1-M12 (ターンバックル締め)	JISブレース、GPL-6、1-M16																																																			
PC1	□-100x100x3.2	2GPL-6、2-M12 (中ボルト ピッチ180)																																																			
鋼線	C-100x50x20x2.3	2GPL-6、2-M12 (中ボルト)																																																			







支持鉄骨中間梁継手 (SCSS-H97に準拠すること。)

部材断面 (SS400)	径 D	フランジ		ウェブ		備考	
		H.T.B (S10T)	外添板 (SS400)	内添板 (SS400)	H.T.B (S10T)		添板 (SS400)
		nFxmF	厚x幅x長さ mm mm mm	厚x幅x長さ mm mm mm	nFxmF		Pc 厚x幅x長さ mm mm mm
H-300x300x10x15	M22	3x2	9x300x350	12x110x350	3x1 60	9x200x170	